

豊野小学校外 4 校避難所空調設備設置工事 (牛島小学校)

図面リスト

〔意匠図〕					〔電気設備図〕			〔機械設備図〕			
図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺
共通-01	特記仕様書1		牛A-01	欠番	-	牛E-01	欠番	-	牛M-01	欠番	-
共通-02	特記仕様書2		牛A-02	欠番	-	牛E-02	欠番	-	牛M-02	欠番	-
共通-03	特記仕様書3		牛A-03	欠番	-	牛E-03	(改修前・改修後) 受変電設備単線結線図	-	牛M-03	案内図・配置図	1/600
共通-04	特記仕様書4		牛A-04	欠番	-	牛E-04	分電盤結線図・幹線設備	1/600	牛M-04	空調設備 機器表 矩計図 標準図	1/30
共通-05	特記仕様書5		牛A-05	欠番	-	牛E-05	改修後1階平面図 空調機電源設備	1/100	牛M-05	空調設備 1階平面図	1/100
共通-06	特記仕様書6 電気設備工事		牛A-06	欠番	-	牛E-06	改修後1階平面図 電灯設備	1/100	牛M-06	空調設備 2階平面図	1/100
共通-07	特記仕様書7 機械設備工事		牛A-07	欠番	-	牛E-07	改修後 キャットウォーク平面図・下屋伏図 電灯設備	1/100	牛M-07	空調設備 展開図	1/100
共通-08	特記仕様書8 機械設備工事		牛A-08	案内図、配置図兼仮設計画図(参考)	1/600	牛E-08	改修前1階平面図 電灯設備	1/100	牛M-08	空調設備 立面図	1/100
共通-09	特記仕様書9 機械設備工事		牛A-09	仕上表	-	牛E-09	改修前 キャットウォーク平面図・下屋伏図 電灯設備	1/100	牛M-09	制御設備 1階平面図	1/100
			牛A-10	改修前 1階平面図	1/100	牛E-10	改修後 照明器具姿図	-	牛M-10	制御設備 2階平面図	1/100
			牛A-11	改修前 キャットウォーク平面図・下屋伏図	1/100						
			牛A-12	(参考) 屋根伏図	1/100						
			牛A-13	改修後 1階平面図	1/100						
			牛A-14	改修後 キャットウォーク平面図・下屋伏図	1/100						
			牛A-15	改修前 立面図	1/100						
			牛A-16	改修後 立面図	1/100						
			牛A-17	改修前・後 矩計図、部分詳細図	1/30						
			牛A-18	改修前・後 展開図	1/100						
			牛A-19	建具表	1/100、200						
			牛A-20	改修前 スロープ詳細図	1/50						
			牛A-21	改修後 スロープ詳細図	1/50						
			牛A-22	改修前・後 (受変電設備) 基礎詳細図	1/50、20						

(図面サイズ：A1版、A3版は50%縮小)

② 仮設工事	1 騒音・粉じん等の対策	・防音パネル ・防音シート 防音パネル等を取り付ける足場等の設置範囲 ※図示	[2.1.3]
	② 足場等	「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等の作業に関する基準」における2の(1)手すり設置方式又は(2)手すり先行専用足場方式により行う。 外部足場 ○設置する(設置範囲 ○図示 ○空調配管用) ・設置しない 防護ネット等 ・設置する(設置範囲 ・図示) ○設置しない 内部足場 ○設置する(脚立、足場板等 ○図示) ・設置しない 材料、撤去材等の運搬方法 種別(・A種 ・B種 ・C種 ○D種 ○E種) ○種:利用可能なエレベーター(・図示) D種:利用可能な階段(・図示 ○打合せによる)	[2.2.1][表2.2.1]
③ 既存部分の養生	既存部分 養生の方法(※ビニルシート、合板等) 既存家具、既存設備等 養生の方法(※ビニルシート等) 既存ブラインド、カーテン等 養生の方法(○ビニルシート等) 固定された備品、机、ロッカー等の移動 ・図示 ○打合せによる	[2.3.1]	
4 仮設間仕切り	仮設間仕切り及び仮設扉の設置箇所 ・図示 仮設間仕切りの種別と材質等	[2.3.2][表2.3.1]	
5 監督員事務所	規模 ・既存建物内の一部を使用 ・構内に新設 m ※設置しない(下記備品のみ用意する) 備品(名分相当) 机 ・椅子 ・書櫃 ・黒板 ・掛時計 ・寒暖計 ・長靴 ・両合羽 ・保護帽 ・懐中電灯 ・墜落制止用器具 ・軍手 ・衣類ロッカー ・冷暖房機器 ・消火器 ・湯沸器 ・茶器 ・掃除用具 ・電話機 ・FAX ・電子メール通信機器 ・スキャナー ・プリンター	[2.4.1]	
⑥ 現場表示板	※設置する([1.1.12]による表示 ・要 ○不要) ・設置しない	[2.4.1][1.1.12]	
⑦ 工事用水	構内既存の施設 ※利用できない ○利用できる(◎有償 ・無償)		
⑧ 工事用電力	構内既存の施設 ※利用できない ○利用できる(別途施設調整を行うこと)		
⑨ 工事用搬入路	※図示		
⑩ 仮囲い	◎設置位置等は監督員の指示による ○図示 図示の有無に関わらず、監督員と協議の上、必要に応じ適切に配置し的確に対応すること。		
⑪ 交通誘導員	必要に応じ搬入路付近に交通誘導員を配置する。 配置箇所 ◎監督員の指示による ○図示		
12 快適トイレ	仕様 ※図示		
A 仮設物	仮設物の位置・仕様・車両の進入方法等、施設内の車両の通行路について、 施工前に必ず監督員、施設管理者と協議すること。	<2.3.1>	
B 火元責任者	火災防止に配慮し、火元責任者を配すること。		
C その他	○仮囲い等は現場の状況に合わせて適宜計画すること。 ○ゲート等の位置は監督員と協議のうえ、必要に応じて適切な位置に移動すること。 ○仮設材の位置・仕様・車両の通行路と進入方法等について、施工前に必ず監督員と協議すること。 ○近隣や施設の行事予定を把握し、工事車両の入場計画を立てること。		

A 解体施工	① 屋外設備等	フェンス等工物の撤去 ○行う(※図示) ・行わない	<3.10.1>
	② 樹木等	樹木の伐採伐根及び移植 ◎図示 ・協議による	<3.11.1>
B 建設廃棄物の処理	① 一般事項	※受注者は、「資源の有効な利用の促進に関する法律(資源有効利用促進法)」等に基づき、次の対象工事について、工事着手前に本工事に係る「再生資源利用[促進]計画書」及び「工事登録証明書」を建設副産物情報交換システム(COBRIS)により作成し、施工計画書に含め各1部提出する。 また、工事完成後速やかに計画の実施状況(実績)について、「再生資源利用[促進]実施書」及び「工事登録証明書」を同システムにより作成し、各1部提出するとともに、これらの記録を保存する。 (a) 再生資源利用計画書(実施書)の作成対象工事(下記のいずれかに該当する工事) (1) 500m ³ 以上の土砂を搬入する工事 (2) 500t以上の砕石を搬入する工事 (3) 200t以上の加熱アスファルト混合物を搬入する工事 (4) 最終工事請負金額が100万円以上の工事 (計画書については、当初工事請負金額が100万円以上の工事) (b) 再生資源利用促進計画書(実施書)の作成対象工事(下記のいずれかに該当する工事) (1) 500m ³ 以上の建設発生土を搬出する工事 (2) アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊、及び建設発生木材の合計で200t以上搬出する工事 (3) 最終工事請負金額が100万円以上の工事 (計画書については、当初工事請負金額が100万円以上の工事)	[1.1.12]
	② 再資源化等(再資源化及び削減)	建設廃棄物の種類 備考	<4.4.1>
3 再資源化し、現場で利用する建設廃棄物	○コンクリート ・コンクリート及び鉄から成る建設資材 ・木材 ○アスファルトコンクリート ○金風類 ・建設泥土 ・小形二次電池 ○蛍光灯及びHIDランプ ・硬質塩化ビニル管及び継手 ・ガラス ○木材(削減)		
4 産業廃棄物広域認定制度の活用	中間処理施設又は再資源化施設の別 ・監督員と協議		<4.4.2>
5 最終処分	建設廃棄物の種類 数量 備考		<4.4.3>
⑥ 処理に注意を要する建設廃棄物	最終処分場 ・監督員と協議		<4.5.1>
⑦ 舗装版切断時に発生する濁水の処理	廃棄物の処理 ・監督員と協議 (濁水の処理) 中間処理施設を選定する場合には事前に監督員の承諾を得るものとする。 種類 汚泥 (共通事項) 1 受注者は、舗装版切断作業を行いつつ濁水を可能な限り回収し、作業後速やかに回収した濁水を産業廃棄物の汚泥として中間処理施設に運搬及び処理するものとする。 2 受注者は、汚泥の中間処理業の許可を受けている業者と産業廃棄物処分委託契約を締結しなければならないものとする。 3 受注者は、自ら運搬を行う場合を除き、汚泥の収集運搬業の許可を受けている業者と産業廃棄物収集運搬委託契約を締結しなければならないものとする。 4 受注者は、濁水の処理に関する履行について、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において定める産業廃棄物管理票(以下「マニフスト」という。)により管理するものとする。 (提出書類等) 1 受注者は、施工計画書において、濁水の回収、運搬及び処理に関する方法を定めなければならないものとする。また、中間処理業者及び収集運搬業者と締結した委託契約書の写し及び許可証の写しを添付すること。 2 受注者は、工事完成後速やかにマニフストの写しを監督員に提出しなければならないものとする。 (その他) 受注者は、バキューム式以外の工法(舗装版切断時に濁水を生じない等)を使用する場合には、事前に発注者と協議するものとする。		

C 特別管理産業廃棄物の処理	1 施工調査	※特別管理産業廃棄物の調査を次により行う。 (1)特別管理産業廃棄物の使用状況について、設計図書及び目視により製造所名、製造年、型式、種類、数量等を調査する。 (2)特別管理産業廃棄物に付した、収集運搬業者、処分業者、回収業者、産業廃棄物処理施設、処分条件等を調査する。 (3)調査結果は調査にとりまとめ、監督員に提出する。	<5.1.2>
	② 分析調査	分析調査を行う特別管理産業廃棄物等の種類 採取する部位・箇所数 備考	<5.1.2>
3 特別管理産業廃棄物の処理	○PCB含有シーリング分析調査 ・監督員と協議		<5.4.1>
4 PCBを含む機器類	・絶縁油のPCB含有量の分析調査 「特別管理一般廃棄物及び特別管理産業廃棄物に係る基準の検定方法(平成4年7月3日厚生省告示第192号)」又は「絶縁油中の微量PCBに関する簡易測定法マニュアル(環境省)」により行う。 ・ダイオキシン類のサンプリング調査 「廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類暴露防止対策要綱(平成13年4月25日付基発第401号)」により行う。		<5.4.1>
5 PCB含有シーリング材	除去処理工事 除去範囲 ※図示 撤去方法 ・「標準施工要領書(日本シーリング工業協会/日本シーリング材工業会)」による。		<5.4.1>
6 ダイオキシン類	廃棄物の焼却施設の解体 解体方法 ・処分方法		<5.4.1>
D 石綿含有建材の除去及び処理	① 石綿含有建材の事前調査	石綿含有建材の事前調査 工事着手に先立ち目視及び貸与する設計図書等により石綿を含有している吹き付け材、成形板、建築材料等の使用の有無について調査し、監督員に報告する。 調査範囲(○本工事施工範囲 ・図示) 貸与資料(アスベスト分析調査報告書 含有・有 ○無) 設計書に記載がない場合、「みなし」として報告、施工する。	<1.4.1>
	② 石綿含有分析調査	分析による石綿含有建材の調査 分析対象 アモサイト、クリソタイル、クロソドライト、アクチノライト、アンソフイライト、トレモライト 分析方法	<1.4.1>
③ 石綿粉じん濃度測定	「9 環境配慮改修工事」による		
④ その他	○近隣説明及び諸官庁への届出は受注者が行い、事前に監督員と協議をすること。		

E 特殊な建設副産物の処理	1 施工調査	分析調査を行う特殊な建設副産物の種類 採取する部位・箇所数 備考	<7.1.3>
	2 回収及び処分	回収及び処分を行う特殊な建設副産物の種類 備考	<7.3.1>
回収又は処分 ・機械設備図による			
日付	2025.1.17	工事名称	豊野小学校外4校避難所空調設備設置工事(牛島小学校)
図面名称	-	図面名称	特記仕様書(改修その2)
			図面No.
			共通-02

③ 防水改修工事
1 施工数量調査
2 降雨等に対する養生方法(とい共) 3 既存防水の処理 4 既存下地の処理
5 アスファルト防水 6 改質アスファルトシート防水
7 合成高分子系ルーフィングシート防水
8 塗膜防水
⑨ シーリング
シーリング改修工法の種類
○シーリング充填工法
○シーリング再充填工法
○拡張シーリング再充填工法
○ブリッジ工法
○ボンドプレーカー張り
○エッジング材張り
○シーリング材の種類、施工箇所
下表以外は、改修標準仕様書表3.7.1による。

4 外壁改修工事
10 とい
11 アルミニウム製並木
12 防水工事施工票

⑤ 建具改修工事
1 改修工法
2 防火戸 3 見本の製作等 4 防犯建物部品 5 アルミニウム製建具
6 網戸等 7 樹脂製建具 8 鋼製建具 9 網製軽量建具
10 ステンレス製建具 11 木製建具 12 建具用金物
13 鍵 14 自動ドア開閉装置 15 自閉式上り引戸装置 16 重量シャッター
17 軽量シャッター
18 オーバーヘッドドア
19 ガラス
適用は以下によるほか、ガラスの種類・厚さは建具表及び図面による。
・フロート板ガラス
フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類 ※建具表による
・型板ガラス
型板ガラスの厚さによる種類 ※建具表による
・網入板ガラス
網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類 ※建具表による
・強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類による名称、破片の形状及びショットバグ衝撃特性による種類 ※建具表による
・複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ ※建具表による
断熱性による区分 T1 T2 T3 T4 T5 T6
日射取得性及び日射遮蔽性による区分 G S
乾燥気体の種類 空気 アルゴン
・ガラスの留め材及び溝の大きさ
建具の種類 ガラス留め材 ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製 シーリング材 ※建具の製造所の仕様による
・レイジングチャンネル ※図示による
鋼製及び鋼製軽量 シーリング材 ※建具の製造所の仕様による
・図示による
ステンレス製 シーリング材 ※建具の製造所の仕様による
・図示による
樹脂製 グレイジングチャンネル ※建具の製造所の仕様による
・図示による
※施工箇所は建具表による

20 ガラスブロック
⑫ ガラス用フィルム
種類 記号 その他性能等
○飛散防止機能付き日射調整フィルム
内貼り用 ※SC-1
外貼り用 SC-2
可視光線透過率: 65%以上
(参考: 3M NANOTOS同等品)
○低放射フィルム
LE
○衝撃破壊対応ガラス
G1-1 G1-2
○飛散防止フィルム
飛散防止フィルム
○衝撃部位破壊対応ガラス
GD-1 GD-2
飛散防止フィルム
色合い
・ガラス貫通防止フィルム SF
品質 JIS A 5759 による
熱割れ計算書 ※要 ・不要
第3者機関による性能測定データ ※要 ○不要

⑥ 内装改修工事
① 改修範囲
既存間仕切り壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲
※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・図示
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲
※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・図示
既存天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修
※既存のまま
・図示
② 既存床の撤去及び下地補修
ビニル床シート等の除去 ※仕上げ材のみ(接着剤とも)
・下地モルタルとも(・図示の範囲
・除去範囲全て)
合成樹脂塗床材の除去工法
・機械的除去工法
・目貫し工法
コンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、「4章 外壁改修工事」による。
改修後の床の清掃範囲 ※改修箇所の室内
③ 既存壁の撤去及び下地補修
間仕切り壁撤去に伴う他の構造体の補修
※[4.3.10]によるモルタル塗り(塗り厚25mmを超える場合の配置 ※図示)
・図示
④ 施工一般
⑤ 製材
⑥ JAS 1083-5 製材 - 第5部に基づく下地用製材

⑥ JAS 1083-5 製材 - 第5部に基づく下地用製材
施工箇所 寸法(mm) 等級 含水率 保存処理 間伐材等の適用
壁下地 45×90 ※2級 ※A種・B種
45×50
※2級 ※A種・B種
・ JAS 1083-6 製材 - 第6部に基づく広葉樹製材
施工箇所 寸法(mm) 等級 含水率 保存処理 間伐材等の適用
※1等 ※10%以下
・A種・B種
※1等 ※10%以下
・A種・B種

⑧ 合板等
・「合板の日本産林規格」による普通合板
施工箇所 厚さ(mm) 単板の樹種名 接着の程度 板面の品質 防虫処理 間伐材等の適用
アリーナ ※5.5
○12.0 ラワン ※1種
・2種
広葉樹 ※2等以上
・1等
針葉樹 ※C-D以上
○適用する
・適用しない

⑧ 合板等
・「合板の日本産林規格」による構造用合板
施工箇所 等級 単板の樹種名 接着の程度 板面の品質 厚さ(mm) 防虫処理 強度等級 間伐材等の適用
※2級以上
・1級 ※1種
・特種 ※C-D以上 ※12
・適用する
()
・適用しない

9 接合具等
造作材の化粧面の釘打ち
※隠し釘打ち
・釘頭埋木
・つぶし頭釘打ち
・釘頭埋し
諸金物
※かすがい、産金、箱金物、短冊金物
(改修標準仕様書表6.5.3~5に示す程度の市販品 表8.20.1のF種程度)
(形状: 寸法: 材質:)
接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆

⑩ 接着剤
接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆
⑫ 内部間仕切り軸組及び床組み
間仕切り軸組に用いる木材の樹種名(製材を用いる場合)
※杉又は松
床組に用いる木材の樹種名(製材を用いる場合)
※杉又は松

13 窓、出入口その他
窓、出入口その他に用いる木材の樹種名(製材を用いる場合)
吊元枠、水掛りの下枠及び敷居 ※ひのき
その他 ※松又は杉
⑬ 軽量鉄骨天井下地
野縁等の種類 屋外(※25形・19形) 屋内(※19形・25形)
屋外の形式及び寸法
野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔
・図示
周辺部の端からの間隔
・図示
野縁の間隔
・図示
野縁のインサート
・使用する
・使用しない
・行う

15 軽量鉄骨天井下地
スタッド、ランナーの種類
※[表6.7.1]により「スタッドの高さによる区分」に応じた種類
・図示
スタッドの高さが5mを超える場合 ※図示
出入口及びこれに準じる開口部の補強 ※[6.7.4](5)による
・行わない
・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合の補強方法 ※図示
・天井のふところ3.0mを超える場合の補強方法 ※図示
・天井下地材における耐震性を考慮した補強 補強箇所 ※図示
補強方法 ※図示

16 ビニル床シート
[6.8.2.3]
種類の記号 色柄 厚さ(mm) 備考
※FS(複層ビニル床シート)
・無地 ※2.0
・マフ・柄柄 2.5
・柄物
接合部の処理 ※熱溶接工法

17 ビニル床タイル
種類の記号 色柄 厚さ(mm) 備考
※KT(コボシヨビニル床タイル)
・無地 ※2.0
・柄物 3.0
・TT(単層ビニル床タイル)
・無地 2.0
・柄物 4.50×450
・FT(複層ビニル床タイル)
・無地 2.0
・柄物 300×300
450×450
2.5
3.0
・FOA(置敷きビニル床タイル)
・無地 4.0
・柄物 500×500
・FOB(薄型置敷きビニル床タイル)
・無地
・柄物

18 特殊機能床材
19 ビニル幅木
材質の種類 ・軟質 ・硬質 ・床シート巻上げ(端部の処理は図示による)
高さ(mm) ※60 75 100
厚さ(mm) ※1.5以上
20 ゴム床タイル
種類 ・単層品 ・積層品
色柄 ()
厚さ(mm) ・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0
寸法(mm) () × ()
21 カーベット敷き
22 合成樹脂塗床
[6.10.2.3]
種類 施工箇所 工法 仕上げの種類
・厚膜型塗床材 (弾性外樹脂系塗床) ※平滑仕上げ
・防汚仕上げ
・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 (非樹脂系塗床) ・薄膜流しのべ工法
・平滑仕上げ
・厚膜流しのべ工法
・防汚仕上げ
・樹脂修繕工法
・薄膜型塗床材 (非樹脂系塗床) ※平滑仕上げ
・7711樹脂塗床 (防塵塗料塗り) ※製造所の指定による
表面仕上げ ※平滑
溶剤 ※水性

23 フローリング張り
フローリングのホルムアルデヒドの放散量等
※改修標準仕様書6.11.2.(2)による
各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆
単層フローリング(フローリングボード1等)
工法
・釘止め工法(・根太張り・直張り)
・接着工法
・接着剤
※なら
・しない
間伐材等の適用
・する
・しない
単層フローリング(フローリングブロック1等)
樹種
・
・
厚さ(mm)
・
・
大きさ
・
・
間伐材等の適用
・する
・しない
複合フローリング
工法
・釘止め工法(・根太張り・直張り)
・接着工法
樹種
※なら
・A種
・B種
・C種
間伐材等の適用
・する
・しない
接着工法の場合の不陸緩和材 ※合成樹脂発泡シート
・現場塗装仕上げ ※ウレタン樹脂ニス塗り
・オイルステインの上、ワックス塗り
・生地のままワックス塗り

24 畳敷き
⑮ セッコウボード
その他のボード張り
MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
合板のホルムアルデヒド放散量
※改修標準仕様書6.13.2.(2)(イ)の(a)~(d)のいずれか
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆
木質系セメント板
種類 厚さ(mm)、規格等
・硬質(HH) ・15 ・20 ・25
・中質(MH) ・15 ・20 ・25
・普通(NF) ・15 ・20 ・25
木片セメント板
種類 厚さ(mm)、規格等
・硬質(HF) ・12 ・15 ・18 ・21
・普通(NF) ・30
繊維強化セメント板
種類 厚さ(mm)、規格等
・けい酸カルシウム板 普通ボード0.8FKタイプ2(無石綿)
・5 ・6 ・8
・化粧けい酸カルシウム板 普通ボード0.8FKタイプ2(無石綿)
・6 ・8
表面への化粧張り等の加工
・アクリル樹脂系接着剤

吸音材料
種類 厚さ(mm)、規格等
・ロックウール化粧吸音板(DR)
・フラットタイプ
(・9(不燃)
・凹凸タイプ
(・12(不燃)
・15(不燃)
)
・ロックウール吸音板・D1号
・25
・ガラスウール吸音板・D32K
・25(ガラスクロス包)

25 セッコウボード製品
種類 厚さ(mm)、規格等
・セッコウボード(GB-R) ・12.5(不燃) ・15(不燃)
・不燃種層セッコウボード(GB-NC) 9.5(不燃)
・化粧無(下地張り用)
(豊野中)
・化粧有(トラバーチン模様)
・シージングセッコウボード(GB-S) 12.5(※不燃
・準不燃)
(豊野中)
・強化セッコウボード(GB-F) ・12.5(不燃) ・15(不燃)
・セッコウラスボード(GB-L) 9.5
・木目12.5(不燃)幅440mm程度
模様(・柱目
・板目)専用下地材有り
・17mm幅模様 9.5(準不燃)

合板
種類 厚さ(mm)、規格等
・普通合板
表面の樹種
生地の透明塗料塗り(※ラワン合板程度)
不透明塗料塗り(※しな合板程度)
板面の品質
厚さ(mm) ※図示による
防虫処理
・行う
・行わない
・天然木化粧合板
化粧板の樹種名
厚さ(mm) ※図示による
防虫処理
・行う
・行わない
・特殊加工化粧合板
化粧加工の方法
・オパール・フリット・塗装
表面性能
(タイプ)
厚さ(mm) ※図示による
防虫処理
・行う
・行わない
その他
種類 厚さ(mm)、規格等
・フェノールフォーム断熱材
・20mm
壁紙のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆
[6.14.2.3]
施工箇所 紙 織物 植化繊維(75%以上) 無機質 その他 防火種別 備考
・ 不燃・準不燃・難燃
・ 不燃・準不燃・難燃
・ 不燃・準不燃・難燃
モルタル及びセッコウプラスター面の素地ごしらえの種別 ※B種
・A種
コンクリート面の素地ごしらえの種別 ※B種
・A種
セッコウボード面及びその他のボード面の素地ごしらえの種別 ※B種
・A種
27 モルタル塗り
モルタル ・現場調合材料 ・既調合材料 ※B種
・A種
既製目地材 ・設ける 施工箇所 () 形状(※図示)
・設けない
床目地 ・設ける 目地割り ※2m程度(最大目地間隔3m程度)
種類 ※押し目地
・設けない
壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の下部処理 ※図示による
28 タイル張り
33 トイレブース
⑯ 手すり
材料の種類及び仕上げ (20.2.6)
・ SUS304 表面処理 ※HL程度
○亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきの上、高耐熱性樹脂粉体塗装
手すりの握り部分
材料 表面仕上げ 直径(mm) 取付箇所 備考
・集成材(材種:) ・カワカカ ・30程度・35程度・45程度
・ヒコ製のプレート ・30程度・35程度・45程度
・スチール ・HL ・34φ・42.7φ 外部
○亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきの上、高耐熱性樹脂粉体塗装
・34φ ○42.7φ 外部
高耐熱性樹脂粉体塗装
35 階段滑り止め
36 黒板及びホワイトボード
37 表示
衝突防止表示
・設置場所 ※図示による
形状・寸法(・30φ)
材質(・ステンレス製
・塩ビシート)
・設置しない
誘導標識、非常用進入口等の表示 ※消防法に適合する市販品
室名札、ピクトグラム、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等(案内用図記号はJIS Z 8210による)
※図示による
38 タラップ
39 フラインド
40 ロールスクリーン
41 カーテン
形式 開閉操作 ひだの種類 生地の種別、品質、特殊加工等 取付け箇所 備考
・シングル
・ダブル
・片引き
・引分け
・ひも引き
・電動
・つまみひだ
・箱ひだ、片ひだ
・アレンひだ
・図示
(箱幕)
・シングル
・ダブル
・片引き
・引分け
・手引き
・ひも引き
・電動
・つまみひだ
・箱ひだ、片ひだ
・アレンひだ
・図示
(箱幕)
生地仕様
消防法で定める防火性能の表示があるもの
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用する場合は、☑とする
暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり ※300mm以上
42 カーテンレール
材料による区分 ※アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材
・ステンレス製
強さによる区分 ※アルマイト
形状 ※角形
43 フライندوقス
及びカーテンボックス
溝幅×深さ(mm) ・90×150 ・120×80 ・120×150 ・150×80
・図示
材質
・集成材(仕上げ:)
・アルミニウム製 押出し型材(市販品)
種類(標準仕様書表14.2.1)
・BC-1種
・BC-2種
色合い
・標準色()
・特注色()
・鋼製(仕上げ:)
44 天井点検口
材質 寸法 形式 外枠 内枠
※アルミニウム製
・450×450
・一般形
・屋内外用
・隠線タイプ
(豊野中)
・600×600
・屋内用
・目地タイプ
・気密形
・目地タイプ
45 床点検口
49 収納家具
46 くつろぎマット 47 流し台ユニット 48 鋼製書架及び物品棚
49 屋内掲示板 50 洗面カウンター 51 防煙垂れ壁

⑦ 塗装改修工事	① 材料	<p>屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放数量 ※F☆☆☆☆ [7.1.3]</p> <p>防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 ・次の箇所を除き防火材料とする。(箇所:)</p> <p>塗替えR品種の場合の既存塗膜の除去範囲 ※劣化部分は除去し、活膜部分は残す。・図示 [7.2.1~7]</p> <p>下地調整</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>下地面の種類</th> <th>下地調整の種類</th> <th>塗替え</th> <th>ひび割れ部の補修</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木部</td> <td>※不透明塗料塗りの場合はRB種</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>鉄鋼面</td> <td>・RA種(注) ※RB種</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき面</td> <td>・RA種(注) ※RB種</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき面(鋼製建具)</td> <td>・RA種 ※RB種</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>珪藻土、せっこうボード面</td> <td>・RA種 ※RB種</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>コンクリート面(DP以外)</td> <td>・RA種 ※RB種</td> <td>・行う</td> <td>・行わない</td> </tr> <tr> <td>ALCパネル面</td> <td>—</td> <td>・行う</td> <td>・行わない</td> </tr> <tr> <td>押出成形セメント板面</td> <td>・RA種(注)</td> <td>・行う</td> <td>・行わない</td> </tr> <tr> <td>コンクリート面(DP)</td> <td>・RA種(注)</td> <td>・行う</td> <td>・行わない</td> </tr> <tr> <td>せっこうボード面及びその他ボード面</td> <td>・RA種 ※RB種</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)DP以外からDPへ塗替えする場合の下地調整は、既存塗膜の種類及び劣化状況に応じてRA種(既存塗膜全除去)又はRB種(既存塗膜一部除去)を選定すること。</p>	下地面の種類	下地調整の種類	塗替え	ひび割れ部の補修	木部	※不透明塗料塗りの場合はRB種	—	—	鉄鋼面	・RA種(注) ※RB種	—	—	亜鉛めっき面	・RA種(注) ※RB種	—	—	亜鉛めっき面(鋼製建具)	・RA種 ※RB種	—	—	珪藻土、せっこうボード面	・RA種 ※RB種	—	—	コンクリート面(DP以外)	・RA種 ※RB種	・行う	・行わない	ALCパネル面	—	・行う	・行わない	押出成形セメント板面	・RA種(注)	・行う	・行わない	コンクリート面(DP)	・RA種(注)	・行う	・行わない	せっこうボード面及びその他ボード面	・RA種 ※RB種	—	—	⑨ 環境配慮改修工事																																										
	下地面の種類	下地調整の種類	塗替え	ひび割れ部の補修																																																																																					
木部	※不透明塗料塗りの場合はRB種	—	—																																																																																						
鉄鋼面	・RA種(注) ※RB種	—	—																																																																																						
亜鉛めっき面	・RA種(注) ※RB種	—	—																																																																																						
亜鉛めっき面(鋼製建具)	・RA種 ※RB種	—	—																																																																																						
珪藻土、せっこうボード面	・RA種 ※RB種	—	—																																																																																						
コンクリート面(DP以外)	・RA種 ※RB種	・行う	・行わない																																																																																						
ALCパネル面	—	・行う	・行わない																																																																																						
押出成形セメント板面	・RA種(注)	・行う	・行わない																																																																																						
コンクリート面(DP)	・RA種(注)	・行う	・行わない																																																																																						
せっこうボード面及びその他ボード面	・RA種 ※RB種	—	—																																																																																						
② 下地調整	<p>③ 素地ごしらえ</p> <p>④ 錆止め塗料塗り</p> <p>⑤ 塗装</p>																																																																																								
⑧ 耐震改修工事	<p>本工事対象外</p>	<p>⑥ 塗装 [G]</p> <p>[7.5.2~7.12.2]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>塗装の種類</th> <th>塗装面</th> <th>塗替え</th> <th>新規</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">・合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)</td> <td>木部屋外</td> <td>※B種</td> <td>※A種</td> </tr> <tr> <td>木部屋内</td> <td>※B種</td> <td>※B種</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">塗料の種類 ※1種・2種</td> <td>鉄鋼面</td> <td>※B種</td> <td>※B種・A種</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき鋼面(鋼製建具)</td> <td>※A種</td> <td>※B種</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき鋼面</td> <td>※B種</td> <td>※B種</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>・クリヤラッカー塗り(CL)</td> <td>※B種</td> <td>A種</td> <td>※B種・A種</td> </tr> <tr> <td>・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(MAD)</td> <td>※B種</td> <td>A種</td> <td>※B種・A種</td> </tr> <tr> <td>○耐候性塗料塗り(DP)</td> <td>鉄鋼面 上塗り等級(2)級</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>亜鉛めっき鋼面 上塗り等級()級</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>コンクリート面及び押出成形材板面</td> <td>※B種</td> <td>※B種・A種</td> </tr> <tr> <td>・つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP-G)</td> <td>屋内の木部</td> <td>※B種</td> <td>※A種</td> </tr> <tr> <td></td> <td>屋内の鉄鋼面</td> <td>※B種</td> <td>※B種・A種</td> </tr> <tr> <td></td> <td>屋内の亜鉛めっき鋼面</td> <td>※A種</td> <td>・B種 ※A種</td> </tr> <tr> <td>・合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP)</td> <td>※B種</td> <td>・A種</td> <td>※B種</td> </tr> <tr> <td>・ウレタン樹脂ワニス塗り(UU)</td> <td>※B種</td> <td>A種</td> <td>※B種・A種</td> </tr> <tr> <td>○ステイン塗り</td> <td>※B種</td> <td>A種</td> <td>※B種・A種</td> </tr> <tr> <td>・オイルステン塗り(OS)</td> <td>※B種</td> <td>A種</td> <td>※B種・A種</td> </tr> <tr> <td>・木材保護塗料塗り(WP)</td> <td>※B種</td> <td>A種</td> <td>※B種・A種</td> </tr> </tbody> </table> <p>つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り(コンクリート面、珪藻土、せっこうボード面、その他ボード面)の塗替えのしきりめ ※B種又はC種の場合は[表7.9.11]の工程1の下塗りをしきりめシーラーとする</p> <p>合成樹脂エマルジョンペイント塗りの塗替えのしきりめ ※B種又はC種の場合は[表7.10.11]の工程1の下塗りをしきりめシーラーとする</p> <p>(注) DP以外からDPへの塗替えは、下地調整の種類に注意すること。</p> <p>・高日射反射塗料塗り [G] 下地調整 [7.2.2] ・RA種 ※RB種 ・RC種</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">工程</th> <th colspan="3">塗料その他</th> <th rowspan="2">塗付量(kg/m²)</th> </tr> <tr> <th>規格番号</th> <th>規格名称</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>塗料塗り</td> <td>JIS K 5675</td> <td>屋根用高日射反射塗料</td> <td>2種</td> <td>1級・2級 塗料製造所の仕様による</td> </tr> </tbody> </table> <p>クリヤラッカー塗りA種の工程2の適用 ・適用しない ・適用する(着色剤・溶剤系着色剤・油性染料着色剤) ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色の適用 ・適用する ・適用しない オイルステン塗りの工程等 ○製造所の仕様による ○(空調正面)手摺: 結露防止塗装(参考: ケツロニン 菊水化学工業(株)同等品)</p>	塗装の種類	塗装面	塗替え	新規	・合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外	※B種	※A種	木部屋内	※B種	※B種	塗料の種類 ※1種・2種	鉄鋼面	※B種	※B種・A種	亜鉛めっき鋼面(鋼製建具)	※A種	※B種	亜鉛めっき鋼面	※B種	※B種	—	・クリヤラッカー塗り(CL)	※B種	A種	※B種・A種	・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(MAD)	※B種	A種	※B種・A種	○耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面 上塗り等級(2)級	—	—		亜鉛めっき鋼面 上塗り等級()級	—	—		コンクリート面及び押出成形材板面	※B種	※B種・A種	・つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP-G)	屋内の木部	※B種	※A種		屋内の鉄鋼面	※B種	※B種・A種		屋内の亜鉛めっき鋼面	※A種	・B種 ※A種	・合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP)	※B種	・A種	※B種	・ウレタン樹脂ワニス塗り(UU)	※B種	A種	※B種・A種	○ステイン塗り	※B種	A種	※B種・A種	・オイルステン塗り(OS)	※B種	A種	※B種・A種	・木材保護塗料塗り(WP)	※B種	A種	※B種・A種	工程	塗料その他			塗付量(kg/m ²)	規格番号	規格名称	種類	塗料塗り	JIS K 5675	屋根用高日射反射塗料	2種	1級・2級 塗料製造所の仕様による
塗装の種類	塗装面	塗替え	新規																																																																																						
・合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外	※B種	※A種																																																																																						
	木部屋内	※B種	※B種																																																																																						
塗料の種類 ※1種・2種	鉄鋼面	※B種	※B種・A種																																																																																						
	亜鉛めっき鋼面(鋼製建具)	※A種	※B種																																																																																						
亜鉛めっき鋼面	※B種	※B種	—																																																																																						
・クリヤラッカー塗り(CL)	※B種	A種	※B種・A種																																																																																						
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(MAD)	※B種	A種	※B種・A種																																																																																						
○耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面 上塗り等級(2)級	—	—																																																																																						
	亜鉛めっき鋼面 上塗り等級()級	—	—																																																																																						
	コンクリート面及び押出成形材板面	※B種	※B種・A種																																																																																						
・つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP-G)	屋内の木部	※B種	※A種																																																																																						
	屋内の鉄鋼面	※B種	※B種・A種																																																																																						
	屋内の亜鉛めっき鋼面	※A種	・B種 ※A種																																																																																						
・合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP)	※B種	・A種	※B種																																																																																						
・ウレタン樹脂ワニス塗り(UU)	※B種	A種	※B種・A種																																																																																						
○ステイン塗り	※B種	A種	※B種・A種																																																																																						
・オイルステン塗り(OS)	※B種	A種	※B種・A種																																																																																						
・木材保護塗料塗り(WP)	※B種	A種	※B種・A種																																																																																						
工程	塗料その他			塗付量(kg/m ²)																																																																																					
	規格番号	規格名称	種類																																																																																						
塗料塗り	JIS K 5675	屋根用高日射反射塗料	2種	1級・2級 塗料製造所の仕様による																																																																																					

1 石綿含有濃度測定	<p>測定時期、場所及び測定点 [9.1.1]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定名称</th> <th>測定時期</th> <th>測定場所</th> <th>測定点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>測定1</td> <td>処理作業前</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2又は3点()点</td> </tr> <tr> <td>測定2</td> <td rowspan="2">処理作業中</td> <td>施工区画周辺又は敷地境界</td> <td>各2点()点</td> </tr> <tr> <td>測定3</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2点()点</td> </tr> <tr> <td>測定4</td> <td rowspan="2">処理作業中</td> <td>出入口</td> <td>各1点()点</td> </tr> <tr> <td>測定5</td> <td>集じん・排気装置の設置の排出口(処理作業室内の場合)</td> <td>1m以下位置の各1点()点</td> </tr> <tr> <td>測定6</td> <td rowspan="2">処理作業中</td> <td>施工区画周辺又は敷地境界</td> <td>4方向各1点()点</td> </tr> <tr> <td>測定7</td> <td>施工区画周辺又は敷地境界</td> <td>各2又は3点(各1点)()点</td> </tr> <tr> <td>測定8</td> <td>処理作業後(隔離シート撤去前)</td> <td>処理作業室内</td> <td>()点</td> </tr> <tr> <td>測定9</td> <td>処理作業後(シート撤去後)</td> <td>施工区画周辺又は敷地境界</td> <td>4方向各1点()点</td> </tr> <tr> <td>測定10</td> <td>去後1週間以降</td> <td>施工区画周辺又は敷地境界</td> <td>()点</td> </tr> </tbody> </table> <p>さいたま市内で測定を行う場合は市条例を遵守して実施すること。</p> <p>測定方法 ・自動測定器による測定 測定4.5 ※A・B種(粉じん相対湿度計(デジタル粉じん計)、繊維状粒子粒子自動計測器(デジタルカウンター)等、排気の粉じん濃度を迅速に計測できる機器にて測定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>JIS K 3850-11に基づいた測定</th> <th>測定4.5</th> <th>測定</th> <th>測定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ろ過ろ紙の直径(mm)</td> <td>25</td> <td>47</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引流量(L/min)</td> <td>5</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引時間(min)</td> <td>30</td> <td>120</td> <td>240</td> </tr> </tbody> </table>	測定名称	測定時期	測定場所	測定点	測定1	処理作業前	処理作業室内	各2又は3点()点	測定2	処理作業中	施工区画周辺又は敷地境界	各2点()点	測定3	処理作業室内	各2点()点	測定4	処理作業中	出入口	各1点()点	測定5	集じん・排気装置の設置の排出口(処理作業室内の場合)	1m以下位置の各1点()点	測定6	処理作業中	施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点()点	測定7	施工区画周辺又は敷地境界	各2又は3点(各1点)()点	測定8	処理作業後(隔離シート撤去前)	処理作業室内	()点	測定9	処理作業後(シート撤去後)	施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点()点	測定10	去後1週間以降	施工区画周辺又は敷地境界	()点	JIS K 3850-11に基づいた測定	測定4.5	測定	測定	ろ過ろ紙の直径(mm)	25	47	47	試料の吸引流量(L/min)	5	10	10	試料の吸引時間(min)	30	120	240	2 石綿含有吹付け材の除去(レベル1)	本工事対象外
測定名称	測定時期	測定場所	測定点																																																									
測定1	処理作業前	処理作業室内	各2又は3点()点																																																									
測定2	処理作業中	施工区画周辺又は敷地境界	各2点()点																																																									
測定3		処理作業室内	各2点()点																																																									
測定4	処理作業中	出入口	各1点()点																																																									
測定5		集じん・排気装置の設置の排出口(処理作業室内の場合)	1m以下位置の各1点()点																																																									
測定6	処理作業中	施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点()点																																																									
測定7		施工区画周辺又は敷地境界	各2又は3点(各1点)()点																																																									
測定8	処理作業後(隔離シート撤去前)	処理作業室内	()点																																																									
測定9	処理作業後(シート撤去後)	施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点()点																																																									
測定10	去後1週間以降	施工区画周辺又は敷地境界	()点																																																									
JIS K 3850-11に基づいた測定	測定4.5	測定	測定																																																									
ろ過ろ紙の直径(mm)	25	47	47																																																									
試料の吸引流量(L/min)	5	10	10																																																									
試料の吸引時間(min)	30	120	240																																																									
3 石綿含有保温材等の除去(レベル2)	本工事対象外	本工事対象外	本工事対象外																																																									
4 石綿含有成形板の除去(レベル3)	<p>除去対象範囲 図示</p> <p>石綿含有けい酸カルシウム板第一種の場合の隔離養生(負担不要)方法 ・ビニールシート等による養生を行う 除去した石綿含有成形板の処分 ・石綿含有せっこうボード ※埋立処分(管理型最終処分場) ・石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板 ・埋立処分(安定型最終処分場) ・中間処理(溶融施設または無害化処理施設) 除去した石綿含有けい酸カルシウム板第一種の場合 ・埋立処分(安定型最終処分場) ・中間処理(溶融施設または無害化処理施設)</p>	<p>9.1.5</p>	<p>9.1.5</p>																																																									
5 石綿含有建築用仕上塗材等の除去(レベル3)	<p>除去対象範囲 図示</p> <p>工事前の試験施工 行う 行わない</p> <p>除去方法 ○A種(下地調整RB種) ○B種(下地調整RC種) ○C種(下地調整RC種)</p>	<p>9.1.6</p>	<p>9.1.6</p>																																																									
6 PCB含有シーリング材処分	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>採取する部位・箇所数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・PCB含有シーリング</td> <td>部 位 図示</td> <td>分析調査(第一次判定) 箇所数: 箇所</td> </tr> <tr> <td>・PCB含有シーリング</td> <td>部 位 図示</td> <td>分析調査(第二次判定) 箇所数: 箇所</td> </tr> </tbody> </table> <p>詳細は監督員との協議による</p>	種類	採取する部位・箇所数	備考	・PCB含有シーリング	部 位 図示	分析調査(第一次判定) 箇所数: 箇所	・PCB含有シーリング	部 位 図示	分析調査(第二次判定) 箇所数: 箇所	<p>9.1.6</p>	<p>9.1.6</p>																																																
種類	採取する部位・箇所数	備考																																																										
・PCB含有シーリング	部 位 図示	分析調査(第一次判定) 箇所数: 箇所																																																										
・PCB含有シーリング	部 位 図示	分析調査(第二次判定) 箇所数: 箇所																																																										
7 外断熱改修工事 [G]	本工事対象外	本工事対象外	本工事対象外																																																									
8 断熱・防露改修工事 [G]	<p>フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒド放数量 [9.3.2~4]</p> <p>※F☆☆☆☆</p> <p>開口部等補修のための張付け用の接着剤のホルムアルデヒド放数量 ※F☆☆☆☆</p> <p>工法 ・断熱材打込み工法 断熱材 JIS A 9521 に基づく発泡プラスチック断熱材 種類 厚さ(mm) 施工箇所 ・断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ※A種1・A種1H 厚さ(mm) 25・30 施工箇所 図示 ・断熱材後張り工法 断熱材 JIS A 9521 に基づく発泡プラスチック断熱材 種類 厚さ(mm) ・せっこうボード等を張り付けたパネルを使用 材質 厚さ(mm) ・張り付け工法 断熱材の張り付け工法 断熱材へのボードの張付け工法</p>	<p>9.3.2~4</p>	<p>9.3.2~4</p>																																																									
9 屋上緑化改修工事 [G]	本工事対象外	本工事対象外	本工事対象外																																																									

⑩ アスファルト舗装改修工事	<p>適用範囲: (スロープ新設部分) 通路 [9.5.2~5、9]</p> <p>既存舗装の撤去及び再利用 ※図示</p> <p>路床の材料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>材料</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・盛土</td> <td>・A種・B種・C種・D種</td> <td>・図示</td> </tr> <tr> <td>・凍上抑制層</td> <td>・建設汚泥から再生した処理土 [G] ・再生クラッシュラン [G] ・クラッシュラン ・切込み砂利 ・砂(改修標準仕様書表9.5.11による)</td> <td>・図示</td> </tr> <tr> <td>・フィルター層</td> <td>・改修標準仕様書9.5.3(2)の(ウ)による</td> <td>・図示</td> </tr> </tbody> </table> <p>(凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験) ・行う 行わない</p> <p>路床安定処理 適用する 適用しない 安定処理の方法 置き換え工法() 安定処理工法 路床安定処理用添加材料 種類 普通ポルトランドセメント 高炉セメントB種 [G] ・フライッシュセメントB種 ・生石灰(特号・1号) 添加量 () kg/m³ (目標CBR ※3以上) 目標CBRを満足する添加量の確認方法 安定処理土のCBR試験 ・ジオテキスタイル 単位面積質量 60g/m²以上 厚さ(mm) 0.5~1.0 引張強さ 98N/5cm(10kgf/5cm)以上 透水係数 1.5×10⁻³ cm/sec以上</p> <p>試験 路床土の支持力比(CBR)試験 行う 行わない 現場CBR試験 行う 行わない 路床締固め度の試験 行う 行わない 六価クロム溶出試験 行う 行わない</p> <p>路盤 路盤の構成及び厚さ 図示 路盤材料(改修標準仕様書表9.7.3による種別) ・クラッシュラン ・粒度調整砕石 ○再生クラッシュラン [G] ・再生粒度調整砕石 [G] ・クラッシュラン鉄鋼スラグ [G] ・粒度調整鉄鋼スラグ [G] ・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ [G]</p> <p>舗装の構成 ○図示 舗装の平坦性 ※著しく不陸がないもの 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 行う ○行わない</p> <p>濁水の処理 1) 受注者は、回収した濁水を次のとおり処理するものとする。 種類及び処理量 図示による 処理方法 ・中間処理後、最終処分場へ搬入(処理に焼却含まず) ・中間処理後、最終処分場又はセメント工場へ搬入(処理に焼却含む) 2) 受注者は、別の中間処理施設を選定する場合、事前に監督員と協議するものとする。</p> <p>共通事項 1) 受注者は、舗装版切断作業を行いながら濁水を可能な限り回収し、作業後速やかに回収した濁水を産業廃棄物の汚泥(油分を含む汚泥)として中間処理施設に運搬及び処理するものとする。 2) 受注者は、汚泥の中間処理業の許可を受けている業者と産業廃棄物処分委託契約を締結しなければならないものとする。 3) 受注者は、自ら運搬を行う場合を除き、汚泥の収集運搬業の許可を受けている業者と産業廃棄物収集運搬委託契約を締結しなければならないものとする。 4) 受注者は、濁水の処理に関する履行について、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において定める産業廃棄物管理票(以下「マニフェスト」という。)により管理するものとする。</p> <p>提出書類等 1) 受注者は、施工計画書において、濁水の回収、運搬及び処理に関する方法を定めなければならないものとする。また、中間処理業者及び収集運搬業者と締結した委託契約書の写し及び許可証の写しを添付すること。 2) 受注者は、工事完成後速やかにマニフェストの写しを監督員に提出しなければならないものとする。</p> <p>その他 1) 濁水処理量については、舗装版の切断延長や切断厚が変わった場合を除き、原則として設計変更の対象としないものとする。 2) 受注者は、舗装版切断時に濁水を生じない工法を使用する場合には、事前に監督員と協議するものとする。 3) 疑義が生じた場合については、別途監督員と協議するものとする。</p>	種別	材料	厚さ(mm)	・盛土	・A種・B種・C種・D種	・図示	・凍上抑制層	・建設汚泥から再生した処理土 [G] ・再生クラッシュラン [G] ・クラッシュラン ・切込み砂利 ・砂(改修標準仕様書表9.5.11による)	・図示	・フィルター層	・改修標準仕様書9.5.3(2)の(ウ)による	・図示	<p>9.5.2~5、9</p>	<p>9.5.2~5、9</p>
種別	材料	厚さ(mm)													
・盛土	・A種・B種・C種・D種	・図示													
・凍上抑制層	・建設汚泥から再生した処理土 [G] ・再生クラッシュラン [G] ・クラッシュラン ・切込み砂利 ・砂(改修標準仕様書表9.5.11による)	・図示													
・フィルター層	・改修標準仕様書9.5.3(2)の(ウ)による	・図示													

日付	2025.1.17	工事名称	豊野小学校外4校避難所空調設備設置工事(牛島小学校)	図面No.	共通-04
縮尺	-	図面名称	特記仕様書(改修その4)		

10 鉄筋工事 2 溶接金網 3 鉄筋の継手 4 鉄筋の定着 5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網含む) 6 各部配筋 7 ガス圧接 8 機械式継手 9 溶接継手	鉄筋の種類 (5.2.1) <table border="1"> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び径 (mm)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>○SD295</td> <td>※ D16以下</td> <td>設備基礎・ｽｰﾌﾟ</td> </tr> <tr> <td>・SD345</td> <td>※ D19以上</td> <td></td> </tr> </table> 形状等 (5.2.2) <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>種類の記号</th> <th>網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)</th> <th>使用部位</th> </tr> <tr> <td>・溶接金網</td> <td></td> <td>6×150×150</td> <td>渡り廊下周囲土間</td> </tr> <tr> <td>・鉄筋格子</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 鉄筋の継手方法等 (5.3.4) <table border="1"> <tr> <th>部 位</th> <th>継手方法</th> <th>呼び径 (mm)</th> </tr> <tr> <td>柱、梁の主筋</td> <td>・ガス圧接 ・機械式継手</td> <td>※ D19以上</td> </tr> <tr> <td>耐力壁の鉄筋</td> <td>・溶接継手 ・重ね継手</td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎、耐圧スラブ、土圧壁</td> <td>○重ね継手 ・ガス圧接</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他の鉄筋()</td> <td>○重ね継手</td> <td></td> </tr> </table> 継手位置 ※図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 5.1. 6.1. 7.1. 7.3. 8.1) 基礎梁主筋の継手位置 図5.2 図5.3 図5.4 ※図示による () 柱及び梁の重ね継手の長さ ※図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 3(1)(9)) 柱及び梁の主筋で隣り合う継手を同一面所に設ける部分の位置及び施工方法等 ※図示による () 鉄筋の定着長さ (5.3.4) ○図示による () 機械式定着工法 適用箇所 ・図示による () 種類 ・麻擦圧接接合 ・溶合グラウト固定 ・溶合グラウト固定 工法 ※第三者機関の評定等取得している工法とする 必要定着長さ ※評定等の評価内容による 補強筋形状 ※評定等の評価内容による かぶり厚さ ※評定等の評価内容による 品質確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による 鉄筋の余長の長さ 構造関係共通図 (配筋標準図) による。これによらない箇所は図示による。	種類の記号	呼び径 (mm)	備考	○SD295	※ D16以下	設備基礎・ｽｰﾌﾟ	・SD345	※ D19以上		種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位	・溶接金網		6×150×150	渡り廊下周囲土間	・鉄筋格子				部 位	継手方法	呼び径 (mm)	柱、梁の主筋	・ガス圧接 ・機械式継手	※ D19以上	耐力壁の鉄筋	・溶接継手 ・重ね継手		基礎、耐圧スラブ、土圧壁	○重ね継手 ・ガス圧接		その他の鉄筋()	○重ね継手		11 コンクリート工事 1 コンクリートの種類等 (6.2.1) ※I類 (JIS A 5308 への適合を認証されたコンクリート) ※II類 (JIS A 5308 に適合したコンクリート) 普通コンクリート (6.2.1~6.2.4) <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm²)</th> <th>気乾単位容積質量 (t/m³)</th> <th>スランプ</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>○24</td> <td>2.3程度</td> <td>○)5又は18・18 図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・21</td> <td>2.3程度</td> <td>・18</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 構造体強度補正值 (S) (6.3.2) ※標準仕様書 表6.3.2による 補正值S=9 (3月3日~7月10日、9月11日~11月18日) S=6 (7月11日~9月10日、11月19日~3月2日)	設計基準強度 (N/mm ²)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	スランプ	適用箇所	○24	2.3程度	○)5又は18・18 図示		・21	2.3程度	・18		・				・				・				・				12 セメント 3 骨材 (6.3.1) アルカリシリカ反応性による区分 ※A・B (コンクリート中のアルカリ総量が 3.0 kg/m ³ 以下)	13 土工事 1 埋戻し及び盛土 (3.2.3) 埋戻し及び盛土の種類 ○A種 適用場所 () ・B種 適用場所 () ・C種 適用場所 () 土質 () 受渡場所 () ・D種 適用場所 () 品質 細粒分 (75μm以下) の含有率 (重量百分率) の上限を50%未満とする。 ○六価クロム溶出試験結果報告 ○行う (再生品の場合) ・行わない ・場外搬出適切処理 ・構内指示の場所にたい種 ・構内指示の場所に敷き均し (3.2.5) 2 建設発生土の処理 3 山留めの撤去 (3.3.3) 鋼矢板等の抜き跡 ※地盤の変形を防止する適切な措置を講ずる	29 間知石及びコンクリート間知ブロック積み (20.4.2, 3) <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>材種</th> <th>種類</th> <th>質量区分</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・間知石</td> <td>・花こう岩 ・凝灰岩</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・コンクリート間知ブロック</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>・A・B</td> <td></td> </tr> </table> 積み方 ※谷積み ・布積み 目張り ・図示 伸縮調整目地 材種 ・図示 厚さ ・図示	種類	材種	種類	質量区分	備考	・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	-	-		・コンクリート間知ブロック	-	-	・A・B	
	種類の記号	呼び径 (mm)	備考																																																																																	
	○SD295	※ D16以下	設備基礎・ｽｰﾌﾟ																																																																																	
	・SD345	※ D19以上																																																																																		
	種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位																																																																																
	・溶接金網		6×150×150	渡り廊下周囲土間																																																																																
	・鉄筋格子																																																																																			
	部 位	継手方法	呼び径 (mm)																																																																																	
	柱、梁の主筋	・ガス圧接 ・機械式継手	※ D19以上																																																																																	
	耐力壁の鉄筋	・溶接継手 ・重ね継手																																																																																		
基礎、耐圧スラブ、土圧壁	○重ね継手 ・ガス圧接																																																																																			
その他の鉄筋()	○重ね継手																																																																																			
設計基準強度 (N/mm ²)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	スランプ	適用箇所																																																																																	
○24	2.3程度	○)5又は18・18 図示																																																																																		
・21	2.3程度	・18																																																																																		
・																																																																																				
・																																																																																				
・																																																																																				
・																																																																																				
種類	材種	種類	質量区分	備考																																																																																
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	-	-																																																																																	
・コンクリート間知ブロック	-	-	・A・B																																																																																	
	鉄筋の定着長さ (5.3.4) ○図示による () 機械式定着工法 適用箇所 ・図示による () 種類 ・麻擦圧接接合 ・溶合グラウト固定 ・溶合グラウト固定 工法 ※第三者機関の評定等取得している工法とする 必要定着長さ ※評定等の評価内容による 補強筋形状 ※評定等の評価内容による かぶり厚さ ※評定等の評価内容による 品質確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による 鉄筋の余長の長さ 構造関係共通図 (配筋標準図) による。これによらない箇所は図示による。	14 金属工事 1 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.1) (表14.2.1) <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>施 工 箇 所 (成形板、笠木、建具以外)</th> </tr> <tr> <td>・AB-1種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・AB-2種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・AC-1種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・AC-2種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・BA-1種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・BA-2種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・BB-1種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・BB-2種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・BC-1種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・BC-2種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td></td> </tr> </table> 陽極酸化皮膜の着色方法 ※二次電解着色 ・三次電解着色 色合等 ・シルバー ・アンパー ・ブロンズ ・ブラック系 ・ステンカラー ・特注色 () 2 鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.2) (表14.2.2) <table border="1"> <tr> <th>表面処理方法</th> <th>種 別</th> <th>施 工 箇 所 (手すり、タラップ以外)</th> </tr> <tr> <td></td> <td>・A種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溶融亜鉛めっき</td> <td>○B種</td> <td>空調室内機用架台</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・C種</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・D種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>電気亜鉛めっき</td> <td>・E種</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・F種</td> <td></td> </tr> </table> 3 軽量鉄骨天井下地 (14.4.2~4) (表14.4.1) 野縁等の種類 ・シルバ ・19形 屋内 (※19形 ・25形) 屋外の形式及び寸法 野縁受、つりボルト及びびんサートの間隔 ・図示 周辺部の端からの間隔 ・図示 野縁の間隔 ・図示 ・つりボルトの間隔が900mmを超える場合の補強方法 ※図示 ・天井のふところが3.0mを超える場合の補強方法 ※図示 ・天井下地材における耐震性を考慮した補強 補強箇所 ※図示 補強方法 ※図示 屋外の軒天井、ピロティ天井の工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1・1.15・1.3)倍の風圧力に対応した工法	種 別	施 工 箇 所 (成形板、笠木、建具以外)	・AB-1種		・AB-2種		・AC-1種		・AC-2種		・BA-1種		・BA-2種		・BB-1種		・BB-2種		・BC-1種		・BC-2種		・C種		表面処理方法	種 別	施 工 箇 所 (手すり、タラップ以外)		・A種		溶融亜鉛めっき	○B種	空調室内機用架台		・C種			・D種		電気亜鉛めっき	・E種			・F種		22 舗装工事 1 路床 (22.2.2, 3~5) (表22.2.1) 路床の材料 (22.2.2, 3~5) (表22.2.1) <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>材 料</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>・盛土</td> <td>・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 [G]</td> <td>・図示</td> </tr> <tr> <td>・凍上抑制層</td> <td>・再生クラッシュヤラン [G] ・クラッシュヤラン ・切込み砂利 ・砂 (標準仕様書表21.2.2による)</td> <td>・図示</td> </tr> <tr> <td>・フィルター層</td> <td>・川砂、海砂、良質な山砂 (75μmふるい通過量6%以下)</td> <td>・図示</td> </tr> </table> (凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験) ・行う ・行わない 路床安定処理 安定処理の方法 ・安定処理工法 ・置き換え工法 添加材料による安定処理 種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 [G] ・フライアッシュセメントB種 ・生石灰 (・特号 1号) ・消石灰 (・特号 1号) 添加量 kg/m ³ (目標CBR ・3以上) ・不織布 (ジオテキスタイル) 単位面積質量 ・60g/m ² 以上 厚さ (mm) ・0.5~1.0 引張強さ ・98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 透水係数 ・1.5×10 ⁻³ cm/sec以上 試験 砂の粒度試験 ・行う ・行わない 路床土の支持力 (CBR) 試験 ・行う (箇所) ・行わない 現場CBR試験 ・行う (箇所) ・行わない 安定処理土のCBR試験 ・行う ・行わない 路床締固め度の試験 ・行う (箇所) ・行わない 六価クロム溶出試験 ・行う ・行わない	種別	材 料	厚さ (mm)	・盛土	・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 [G]	・図示	・凍上抑制層	・再生クラッシュヤラン [G] ・クラッシュヤラン ・切込み砂利 ・砂 (標準仕様書表21.2.2による)	・図示	・フィルター層	・川砂、海砂、良質な山砂 (75μmふるい通過量6%以下)	・図示																								
種 別	施 工 箇 所 (成形板、笠木、建具以外)																																																																																			
・AB-1種																																																																																				
・AB-2種																																																																																				
・AC-1種																																																																																				
・AC-2種																																																																																				
・BA-1種																																																																																				
・BA-2種																																																																																				
・BB-1種																																																																																				
・BB-2種																																																																																				
・BC-1種																																																																																				
・BC-2種																																																																																				
・C種																																																																																				
表面処理方法	種 別	施 工 箇 所 (手すり、タラップ以外)																																																																																		
	・A種																																																																																			
溶融亜鉛めっき	○B種	空調室内機用架台																																																																																		
	・C種																																																																																			
	・D種																																																																																			
電気亜鉛めっき	・E種																																																																																			
	・F種																																																																																			
種別	材 料	厚さ (mm)																																																																																		
・盛土	・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 [G]	・図示																																																																																		
・凍上抑制層	・再生クラッシュヤラン [G] ・クラッシュヤラン ・切込み砂利 ・砂 (標準仕様書表21.2.2による)	・図示																																																																																		
・フィルター層	・川砂、海砂、良質な山砂 (75μmふるい通過量6%以下)	・図示																																																																																		
	鉄筋の定着長さ (5.3.4) ○図示による () 機械式定着工法 適用箇所 ・図示による () 種類 ・麻擦圧接接合 ・溶合グラウト固定 ・溶合グラウト固定 工法 ※第三者機関の評定等取得している工法とする 必要定着長さ ※評定等の評価内容による 補強筋形状 ※評定等の評価内容による かぶり厚さ ※評定等の評価内容による 品質確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による 鉄筋の余長の長さ 構造関係共通図 (配筋標準図) による。これによらない箇所は図示による。	15 断熱材 [G] (19.9.2~4) フェノールフォーム断熱材、保温剤又は接着剤の熱伝導率の放出量 ※F☆☆☆☆ 開口部等補修のための張付け用の接着剤の熱伝導率の放出量 ※F☆☆☆☆ ※断熱材打込み工法 <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(・2種bA ・3種bA ・3種bC ・3種bD)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・硬質ウレタンフォーム断熱材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・フェノールフォーム断熱材</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ・断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ・A種1H ・A種1H 吹付け厚さ (mm) 施工箇所 ・図示	種類	厚さ (mm)	施工箇所	・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材			・押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし)			(・2種bA ・3種bA ・3種bC ・3種bD)			・硬質ウレタンフォーム断熱材			・フェノールフォーム断熱材			22 舗装工事 2 路盤 (22.2.2, 3) (表22.3.1) 路盤及び厚さ ・図示 (22.2.2, 3) (表22.3.1) 路盤材料 (標準仕様書 表22.3.1による種別) <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> </tr> <tr> <td>・クラッシュヤラン</td> </tr> <tr> <td>・粒度調整砕石</td> </tr> <tr> <td>再生材</td> </tr> <tr> <td>・再生クラッシュヤラン [G]</td> </tr> <tr> <td>・再生粒度調整砕石 [G]</td> </tr> <tr> <td>・クラッシュヤラン鉄鋼スラグ [G]</td> </tr> <tr> <td>・粒度調整鉄鋼スラグ [G]</td> </tr> <tr> <td>・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ [G]</td> </tr> </table> アスファルト舗装の構成及び厚さ ※図示 (22.4.2~4, 6) (表22.4.1, 4) 材料及び種類 アスファルト ・再生アスファルト [G] (標準仕様書 表22.4.1による種類: ・60~80 ・80~100) ・ストリートアスファルト 骨材 ・アスファルトコンクリート再生骨材 [G] 加熱アスファルト混合物等の種類 ・密粒度アスファルト混合物 (13) ・細粒度アスファルト混合物 (13) ・密粒度アスファルト混合物 (13F) 試験 アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない 舗装の平坦性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度	種 別	・クラッシュヤラン	・粒度調整砕石	再生材	・再生クラッシュヤラン [G]	・再生粒度調整砕石 [G]	・クラッシュヤラン鉄鋼スラグ [G]	・粒度調整鉄鋼スラグ [G]	・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ [G]																																																						
種類	厚さ (mm)	施工箇所																																																																																		
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材																																																																																				
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし)																																																																																				
(・2種bA ・3種bA ・3種bC ・3種bD)																																																																																				
・硬質ウレタンフォーム断熱材																																																																																				
・フェノールフォーム断熱材																																																																																				
種 別																																																																																				
・クラッシュヤラン																																																																																				
・粒度調整砕石																																																																																				
再生材																																																																																				
・再生クラッシュヤラン [G]																																																																																				
・再生粒度調整砕石 [G]																																																																																				
・クラッシュヤラン鉄鋼スラグ [G]																																																																																				
・粒度調整鉄鋼スラグ [G]																																																																																				
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ [G]																																																																																				
	鉄筋の定着長さ (5.3.4) ○図示による () 機械式定着工法 適用箇所 ・図示による () 種類 ・麻擦圧接接合 ・溶合グラウト固定 ・溶合グラウト固定 工法 ※第三者機関の評定等取得している工法とする 必要定着長さ ※評定等の評価内容による 補強筋形状 ※評定等の評価内容による かぶり厚さ ※評定等の評価内容による 品質確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による 鉄筋の余長の長さ 構造関係共通図 (配筋標準図) による。これによらない箇所は図示による。	19 内装工事 14 断熱材 [G] (19.9.2~4) フェノールフォーム断熱材、保温剤又は接着剤の熱伝導率の放出量 ※F☆☆☆☆ 開口部等補修のための張付け用の接着剤の熱伝導率の放出量 ※F☆☆☆☆ ※断熱材打込み工法 <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(・2種bA ・3種bA ・3種bC ・3種bD)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・硬質ウレタンフォーム断熱材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・フェノールフォーム断熱材</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ・断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ・A種1H ・A種1H 吹付け厚さ (mm) 施工箇所 ・図示	種類	厚さ (mm)	施工箇所	・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材			・押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし)			(・2種bA ・3種bA ・3種bC ・3種bD)			・硬質ウレタンフォーム断熱材			・フェノールフォーム断熱材			22 舗装工事 3 アスファルト舗装 (22.4.2~4, 6) (表22.4.1, 4) 材料及び種類 アスファルト ・再生アスファルト [G] (標準仕様書 表22.4.1による種類: ・60~80 ・80~100) ・ストリートアスファルト 骨材 ・アスファルトコンクリート再生骨材 [G] 加熱アスファルト混合物等の種類 ・密粒度アスファルト混合物 (13) ・細粒度アスファルト混合物 (13) ・密粒度アスファルト混合物 (13F) 試験 アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない 舗装の平坦性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度																																																															
種類	厚さ (mm)	施工箇所																																																																																		
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材																																																																																				
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし)																																																																																				
(・2種bA ・3種bA ・3種bC ・3種bD)																																																																																				
・硬質ウレタンフォーム断熱材																																																																																				
・フェノールフォーム断熱材																																																																																				
	鉄筋の定着長さ (5.3.4) ○図示による () 機械式定着工法 適用箇所 ・図示による () 種類 ・麻擦圧接接合 ・溶合グラウト固定 ・溶合グラウト固定 工法 ※第三者機関の評定等取得している工法とする 必要定着長さ ※評定等の評価内容による 補強筋形状 ※評定等の評価内容による かぶり厚さ ※評定等の評価内容による 品質確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による 鉄筋の余長の長さ 構造関係共通図 (配筋標準図) による。これによらない箇所は図示による。	20 エニット及びその他工事 27 フェンス フェンスの種類 ・ビニル被覆エキスパンドフェンス (ネットフェンス) ・樹脂塗装メッシュフェンス ・鋼管フェンス ・アルミフェンス 高さ ○図示 28 プレキャストコンクリート (20.3.2~4) コンクリートの設計基準強度 ※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m ³ を満足する調査強度 ・図示 配筋 ※配筋を定めた計算書を監督員に提出する。 ・図示 取付け方法 ※図示	22 舗装工事 4 コンクリート舗装 (22.5.2~4) (表22.5.1~3) 構成及び厚さ (22.5.2~4) (表22.5.1~3) <table border="1"> <tr> <th>舗装の種類</th> <th>部 位</th> <th>構 成</th> <th>厚 さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>コンクリート舗装</td> <td>・車路、駐車場</td> <td>※図示</td> <td>・図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・歩行者用通路</td> <td>※図示</td> <td>※70</td> </tr> </table> 材料 コンクリート ※普通コンクリート 標準仕様書表22.5.1による ・以下による コンクリートの種類 ・設計基準強度 (N/mm ²) ・所定のスランプ (cm) ※8 骨材の最大寸法 (mm) ・使用する ・使用しない 注目地材料 ※低弾性タイプ ・高弾性タイプ 目地 種類 ※標準仕様書表22.5.3による 間隔 ※標準仕様書表22.5.3による 構造 ※標準仕様書表22.5.1による ・図示 舗装の平坦性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度	舗装の種類	部 位	構 成	厚 さ (mm)	コンクリート舗装	・車路、駐車場	※図示	・図示		・歩行者用通路	※図示	※70																																																																					
舗装の種類	部 位	構 成	厚 さ (mm)																																																																																	
コンクリート舗装	・車路、駐車場	※図示	・図示																																																																																	
	・歩行者用通路	※図示	※70																																																																																	
	鉄筋の定着長さ (5.3.4) ○図示による () 機械式定着工法 適用箇所 ・図示による () 種類 ・麻擦圧接接合 ・溶合グラウト固定 ・溶合グラウト固定 工法 ※第三者機関の評定等取得している工法とする 必要定着長さ ※評定等の評価内容による 補強筋形状 ※評定等の評価内容による かぶり厚さ ※評定等の評価内容による 品質確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による 鉄筋の余長の長さ 構造関係共通図 (配筋標準図) による。これによらない箇所は図示による。	20 エニット及びその他工事 27 フェンス フェンスの種類 ・ビニル被覆エキスパンドフェンス (ネットフェンス) ・樹脂塗装メッシュフェンス ・鋼管フェンス ・アルミフェンス 高さ ○図示 28 プレキャストコンクリート (20.3.2~4) コンクリートの設計基準強度 ※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m ³ を満足する調査強度 ・図示 配筋 ※配筋を定めた計算書を監督員に提出する。 ・図示 取付け方法 ※図示	22 舗装工事 6 透水性アスファルト舗装 (22.7.2, 3, 6) 透水性舗装の構成及び厚さ ※図示 (22.7.2, 3, 6) 材料 骨材 ・道路用砕石 ・アスファルトコンクリート再生骨材 [G] (標準仕様書 表22.4.1による種類: ・60~80 ・80~100) 舗装の平坦性 ※着しい不陸がないもの 試験 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない 透水性コンクリート舗装 コンクリート舗装に対する基準値 <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>基準値</th> </tr> <tr> <td>最大粒径 (mm)</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>空隙率 (%)</td> <td>20以上</td> </tr> <tr> <td>透水係数 (cm/s)</td> <td>1×10⁻²以上</td> </tr> <tr> <td>目地の間隔</td> <td>版厚の20倍程度</td> </tr> </table> 構成、厚さはコンクリート舗装による ・不織布 (ジオテキスタイル) 敷設位置 ※フィルター層と路床の間の敷設 ・図示 ・透水性コンクリート平板舗装 (22.8.2, 3) 透水性コンクリート平板舗装は、ブロック系舗装による ・透水性インターロッキングブロック舗装 (22.8.2, 3) 透水性インターロッキングブロック舗装は、ブロック系舗装による	項目	基準値	最大粒径 (mm)	13	空隙率 (%)	20以上	透水係数 (cm/s)	1×10 ⁻² 以上	目地の間隔	版厚の20倍程度																																																																							
項目	基準値																																																																																			
最大粒径 (mm)	13																																																																																			
空隙率 (%)	20以上																																																																																			
透水係数 (cm/s)	1×10 ⁻² 以上																																																																																			
目地の間隔	版厚の20倍程度																																																																																			
	鉄筋の定着長さ (5.3.4) ○図示による () 機械式定着工法 適用箇所 ・図示による () 種類 ・麻擦圧接接合 ・溶合グラウト固定 ・溶合グラウト固定 工法 ※第三者機関の評定等取得している工法とする 必要定着長さ ※評定等の評価内容による 補強筋形状 ※評定等の評価内容による かぶり厚さ ※評定等の評価内容による 品質確認 ※評定等の評価内容による 検査 ※評定等の評価内容による 鉄筋の余長の長さ 構造関係共通図 (配筋標準図) による。これによらない箇所は図示による。	20 エニット及びその他工事 27 フェンス フェンスの種類 ・ビニル被覆エキスパンドフェンス (ネットフェンス) ・樹脂塗装メッシュフェンス ・鋼管フェンス ・アルミフェンス 高さ ○図示 28 プレキャストコンクリート (20.3.2~4) コンクリートの設計基準強度 ※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m ³ を満足する調査強度 ・図示 配筋 ※配筋を定めた計算書を監督員に提出する。 ・図示 取付け方法 ※図示	22 舗装工事 6 透水性アスファルト舗装 (22.7.2, 3, 6) 透水性舗装の構成及び厚さ ※図示 (22.7.2, 3, 6) 材料 骨材 ・道路用砕石 ・アスファルトコンクリート再生骨材 [G] (標準仕様書 表22.4.1による種類: ・60~80 ・80~100) 舗装の平坦性 ※着しい不陸がないもの 試験 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない 透水性コンクリート舗装 コンクリート舗装に対する基準値 <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>基準値</th> </tr> <tr> <td>最大粒径 (mm)</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>空隙率 (%)</td> <td>20以上</td> </tr> <tr> <td>透水係数 (cm/s)</td> <td>1×10⁻²以上</td> </tr> <tr> <td>目地の間隔</td> <td>版厚の20倍程度</td> </tr> </table> 構成、厚さはコンクリート舗装による ・不織布 (ジオテキスタイル) 敷設位置 ※フィルター層と路床の間の敷設 ・図示 ・透水性コンクリート平板舗装 (22.8.2, 3) 透水性コンクリート平板舗装は、ブロック系舗装による ・透水性インターロッキングブロック舗装 (22.8.2, 3) 透水性インターロッキングブロック舗装は、ブロック系舗装による	項目	基準値	最大粒径 (mm)	13	空隙率 (%)	20以上	透水係数 (cm/s)	1×10 ⁻² 以上	目地の間隔	版厚の20倍程度																																																																							
項目	基準値																																																																																			
最大粒径 (mm)	13																																																																																			
空隙率 (%)	20以上																																																																																			
透水係数 (cm/s)	1×10 ⁻² 以上																																																																																			
目地の間隔	版厚の20倍程度																																																																																			

電気設備工事特記仕様書

1 工事概要

- 1.1 工事名 豊野小学校外4校避難所空調設備設置工事(牛島小学校)
- 1.2 工事場所 春日部市牛島1080番地
- 1.3 工期 建築工事特記仕様書による

1.4 工事科目 (○印の付いたものを適用する)

<ul style="list-style-type: none"> ○ 電灯設備 ○ 動力設備 ● 電熱設備 ● 雷保護設備 ○ 受変電設備 ● 電力貯蔵設備 ● 発電設備 ● 構内情報通信網設備 ● 構内交換設備 ● 情報表示設備 ● 映像、音響設備 ● 拡声設備(非常放送設備) ● 誘導支援、呼出し設備 	<ul style="list-style-type: none"> ● テレビ共同受信設備 ● テレビ電波障害防除設備 ● 監視カメラ設備 ● 駐車場管制設備 ● 防犯、入退室管理設備 ● 自動火災報知設備 ● 自動閉鎖設備 ● ガス漏れ火災警報設備 ● 電話配管設備 ● 中央監視制御設備 ● 医療関係設備 ● 昇降機設備
--	---

1.5 指定部分 ○ 無 ・有 (工期: 令和 年 月 日)

1.6 主任技術者又は監理技術者の専任期間 (建設業法により必要になった場合) 建築工事特記仕様書による

1.7 建物概要

建築工事特記仕様書による

1.8 工事概要

建築工事特記仕様書による

1.9 同時期発注の関連工事 ※なし (ただし、工事対象エリアで施設管理委託受注者が作業を行う)

2 工事仕様

2.1 共通仕様

- (1) この工事は特記仕様書、図面によるほか、春日部市電気設備工事特別共通仕様書(以下「特別共通仕様書」という。)、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書(電気設備工編)(最新版)、公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工編)(最新版)、公共建築設備工事標準図(電気設備工編)(最新版)(以下「標準仕様書等」という。)及び監督員の指示に従い施工する。
- (2) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、それぞれの特別共通仕様書及び標準仕様書等を適用する。
- (3) 法令・基準・仕様書等は、原則として施工時において最新のものを適用する。

2.2 特記仕様(特記事項の選択項目は、○印のついたものがなければ※印を適用し、●印のものは適用しない。○印と⊗印の付いた場合は、共に適用する。)

項 目	特 記 事 項
① 機材等	本工事に使用する機材等は、設計図書に規定するもの又はこれと同等のものとする。なお、資材名、製造所名および発注先を記載した報告書を監督員に提出し承諾を受けるものとする。 使用機材等については、アスベスト含有の有無を確認し、アスベストを含む機材等は使用しないこと。 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」に基づく特定調達品目に該当する機材を使用する場合は、原則として、その判断の基準、配慮事項を満たすこと。 調達する工事材料は、埼玉県産とするよう努めるものとする。
② 施工条件	施工時間 建築工事特記仕様書による
③ 工事用電力・水	建築工事特記仕様書による
④ 工事用仮設物	すべて受注者の負担とし、構内につくることができる。
⑤ 足場・さんばし類	建築工事特記仕様書による ○本工事とする。
⑥ 監督員事務所	建築工事特記仕様書による
⑦ 保 険	建築工事特記仕様書による
⑧ 再使用機材	取外し再使用機材は、清掃及び絶縁抵抗測定等を行い、機能が良好なことを確認した上で取付る。なお、その測定結果表を監督員に提出する。
⑨ 建設リサイクル法の適用	建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律の適用について ※ 適用する(契約金額による) ・ 適用しない
⑩ 完成図書の電子納品	建築工事特記仕様書による
⑪ 発生材処理	引渡を要するもの以外は構外に搬出し、適切に処理する。 (構外搬出処理費は、※本工事 ・別途) (1) 引渡しを要するもの () (2) 買取処分を要するもの (銅屑・鉄屑) () (3) 再生資源化を図るもの(蛍光管) () 蛍光管等は再資源化施設等に搬出し、全てリサイクルするものとする。 (4) 特別管理産業廃棄物 () ※処理に先立ち計画書を提出し、処理後は調査を提出すること。

⑫ 金属電線管の塗装

⑬ 鍵

⑭ 地中電線路

敷き均し土	管 種 別
良質土	硬質ビニル電線管 (VE) 耐衝撃性塩化ビニル管 (HIVE) 波付硬質合成樹脂管 (FEP) ポリエチレン被覆鋼管 (PLP)

(2) 地中電線路には、ケーブル埋設機及び保護シートを設ける。ただし、低圧・弱電回路の保護シートは図面特記による。

(3) 地中電線路の敷設は管路式とし、埋設深さは地表面(舗装する部分では路盤材下面)から配管の上端まで原則、600mmとする。ただし、公道への引込み管路等の埋設深さについては、供給事業者と協議のうえ決定する。

⑮ 回路の種別行先の表示

⑯ 電線の接続

⑰ 電線管の接続

⑱ 接地工事

⑲ 建設発生土の処理

⑳ 再生砂・再生アスコン

㉑ 耐震施工

設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針 最新版」(独立行政法人建築研究所監修)による。
なお、施工に際し、耐震強度計算書を監督員に提出し、承諾を受けるものとする。
(1) 設計用水平地震力
機器の重量[kgf]に、設計用水平震度を乗じたものとする。
なお、特記なき場合、設計用水平震度は、次による。

設置場所	機器種別	特定の施設		一般の施設	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階	機 器	2.0	1.5	1.5	1.0
屋上及び塔屋	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5
中間階	水 槽 類(※1)	2.0	1.5	1.5	1.0
	機 器	1.5	1.0	1.0	0.6
地下・1階	防振支持の機器	1.5	1.0	1.0	0.6
	水 槽 類(※1)	1.5	1.0	1.0	0.6

【備 考】(※1)：水槽類には、オイルタンク等を含む。
重要機器
・配電盤 ・発電装置(防災用) ・直流電源装置 ・交流無停電電源装置
・交換機 ・火災報知器受信機 ・中央監視装置 ・太陽光発電装置
上層階の定義は次による。
2~6階建の場合は最上階、7~9階建の場合は上層2階、10~12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。
(2) 設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。

㉒ あと施工アンカー

機器・配管等の据付けにおけるあと施工アンカーの使用については、監督員の承諾を受けるものとする。
重量100kgを超える機器の耐震支持については、耐震計算書を添付し、アンカーボルトを選定すること。
施工は、(一社)日本建築あと施工アンカー協会の資格を有するもの、又は十分な技能及び経験を有した者が行うこと。
金属拡張系アンカーの場合は、所定の穿孔深さ、拡張の完了がわかる記録を添付すること。
接着系アンカーの場合は、所定の穿孔深さ、清掃状況、マーキング、カプセル挿入、埋込みの完了が分かる記録を添付すること。
(原則として、接着系アンカーは吊り支持に使用しないものとする。)
あと施工アンカーの試験は、アンカーの種類毎に1か所引張試験を実施すること。

㉓ はつり及びあと施工アンカー打設

既存コンクリート床、壁等の配管貫通部の穴開け及びあと施工アンカー打設前に、図面に明示する箇所についてX線撮影調査を実施すること。
電動ドリル等の刃が鉄筋、金属配管等に接触した場合に、自動で電動工具の電源を遮断する装置を使用する。

㉔ 改修部分の足場

本工事で単独に必要なとなる足場は、下記により設ける。
(1) 内部足場 ※ 脚立足場
(2) 外部足場 ※ 建築工事特記仕様書による

㉕ 墜落制止用器具(フルハーネス型)

※使用を要する 墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン(平成30年6月22日付け基発0622第2号)による
・使用を要しない

㉖ 施工計画書

※施工に先立ち、次の施工計画書を提出し監督員の承認を受ける
※総合施工計画書(工程・品質・安全・環境配慮・仮設計画等を含む)
※工種別施工計画書
○電力設備工事 ○受変電設備工事 ・電力貯蔵設備工事
・発電設備工事 ・通信、情報設備工事 ・中央監視制御設備工事
・医療関係設備工事 ・昇降機設備工事
※その他監督員が必要と認めるもの

㉗ アスベスト事前調査結果の報告

㉘ その他

- (1) 施工に先立って建築及び関連設備の業者と打合せのうえで施工図を作成し、監督員の承諾を受ける。
- (2) 本工事に使用する製作品は、事前に製作図を監督員に提出し、承諾後製作する。
- (3) 本工事に使用する機器は、事前に性能等を記した機器仕様書を監督員に提出し、承諾後施工する。
- (4) 本工事にかかる官公庁への諸手続はすべて受注者が代行し、その費用は受注者の負担とする。
- (5) 特記なき電線・ケーブルは、原則としてエコマテリアル電線・ケーブルとし、露出部分に使用する場合は耐紫外線性能を有するものとする。
- (6) 改修工事を施工する場合、施工する前後に工事対象箇所の写真撮影を行う。また、既設ケーブル等は施工前後に絶縁抵抗、伝送品質等の測定を行い、試験記録を提出する。
- (7) 受注者は、施工にあたって施設運営に支障の無いように綿密に打合せを行うこと。
- (8) 本工事における停電措置が必要な場合、事前に計画書を電気主任技術者に提出する。また、停電操作・安全処置は受注者が行い、その費用は受注者の負担とする。
- (9) 特に騒音振動など周辺に甚大な影響のある工事については、原則として学校では学校運営に支障を与えない期間、その他の施設では施設管理者と打合せして設定すること。
- (10) 工事に先立ち、監督員と打合せの上、住民及び関係自治会等に対して工事説明を実施すること又、工事に先立ち、「工事のお知らせ」等を配布し、周知する。
以上のことを留意し、工程管理、安全管理に万全を期すること。

2.3 工事別一般事項(特記事項選択項目は、○印のついたものを適用する)

項 目	特 記 事 項
① 電灯設備	(1) 配線器具 スイッチ・壁付コンセント(2P15A)は連用形とする。なお、2口コンセントは複式を使用してよい。 フラッシュプレートは原則としてステンレス又は新金銀を使用する。 ただし、市営住宅における住戸内のフラッシュプレートについては、樹脂プレートを使用することができる。 コンセント器具に具備されている送り配線端子は使用してはならない。 (2) 照明器具 防災用照明器具は、建築基準法による非常用照明器具及び消防法による誘導灯とし、関係法令に適合したものとする。 (3) 照度測定 電灯設備工事に際し、新営工事の場合は新設後の、改修工事の場合は改修前と改修後の照度測定をJIS C 7612「照度測定方法」により、学校においては学校環境衛生基準により実施すること。 (4) 分電盤 分電盤の塗装色は、監督員の指定した色とする。 (5) 縦棒 天井又は壁埋込みの場合のボックスは、塗りしろカバーと仕上り面とが10mm程度以上離れる場合は縦棒を使用する。ただし、ボード張りで、ボード裏面と塗りしろカバーの間が離れないように施工した場合は、縦棒を必要としない。 (6) 位置ボックスの省略 ケーブルこらがし配線で、位置ボックスの図面特記がなく、かつ、照明器具に送り配線端子が具備されている場合は、位置ボックスを省略しても良い。
② 動力設備	(1) 動力制御盤及び開閉器箱の塗装色は、監督員の指定した色とする。負荷用送り端子台は1負荷につきU・V・W・Eの4Pを原則とする。 (2) 電動機等各負荷までの接続は、本工事とする。ただし、制御盤以降が別途工事の場合は、当該制御盤の電源側接続までとする。
3 雷保護設備	受雷部突針はLR1とする。
④ 受変電設備	高 圧 引 込 引込み口は、設計図に示された位置を電力会社に再確認する。また、ケーブル等の埋設及び、その端末処理は監督員の立会いのうえで施工する。 高圧ケーブル端末部はシースずれ防止対策を施す。 (端末処理 ・耐埋用 ・一般用) 受 電 電 圧 交流3相3線式 6.6kV 50Hz 柱上用高圧気中 定格電圧 7.2kV 定格電流 300A 負荷開閉器(PAS) (既存) 主 送 断 装 置 定格電圧 7.2kV 定格遮断電流 40kA 変 圧 器 設 備 容 量 動力用 100kVA×1台 電 灯 用 75kVA×1台 高 圧 進 相 コ ン デ ン サ 31.9kVar× 1台 直 列 リ ア ク ト ル ・ 6 % ・ 1 3 % (改修後) 主 送 断 装 置 定格電圧 7.2kV 定格遮断電流 12.5kA 変 圧 器 設 備 容 量 定格電圧 7.2kV 定格遮断電流 12.5kA 動力用 100kVA×1台 動力用 50kVA×1台 電 灯 用 100kVA×1台 高 圧 進 相 コ ン デ ン サ 50.0kVar× 1台 直 列 リ ア ク ト ル ○ 6 % ・ 1 3 % 3.00kVar× 1台

5 構内情報通信網設備	
6 電力貯蔵設備	
7 発電設備	<ul style="list-style-type: none"> ● ディーゼル発電装置 ● ガスエンジン発電装置 ● ガスタービン発電装置 ● マイクロガスタービン発電装置 ● 燃料電池発電装置 ● 熱併給(コージェネレーション)発電装置 ● 太陽光発電装置 ● 風力発電装置 ● (概要)
8 構内交換設備	

9 自動火災報知設備、ガス漏れ火災警報設備、拡声設備(非常放送設備)	
10 昇降機設備	

2.4 取付高さ
壁付、壁掛型の機器等の取付高さは、図面に記載のない場合は原則として次のとおりとする。

名 称	測 点	取付高さ(mm)	
		一 般	市営住宅
スイッチ(一般)	床上~中心	1,300	1,200
"(身体障害者用)	"	1,100	1,000
"(人感センサ一切換用)	"	2,000	2,000
コタツ、電話用フット、直列ユニット	"	300	400
"(和室)	"	150	200
"(台)	台上~中心	150	500
"	床上~中心	500	500
防水型コンセント	"	(上端1,900以下)1,500	(上端1,900以下)1,500
分電盤、制御盤、開閉器箱	"	900	900
呼出ボタン(身体障害者用)	"	1,800	1,800
復帰ボタン(")	"	2,000	2,000
廊下表示灯(")	"	(上端1,900以下)1,500	2,000

3 その他

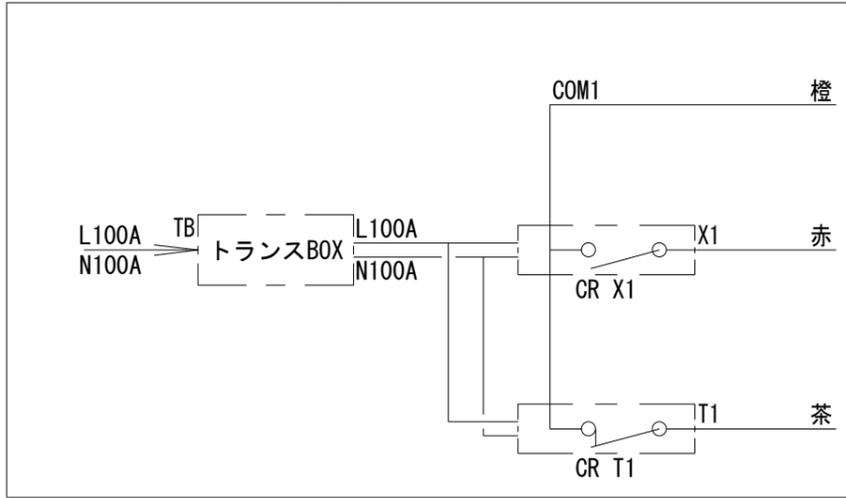
- 3.1 他工事との取合区分 建築工事特記仕様書による
- 3.2 図面上の縮尺 建築工事特記仕様書による
- 3.3 疑義 本特記仕様書、特別共通仕様書及び標準仕様書等において疑義が生じた場合は、監督員と協議するものとする。
- 3.4 工事用図面 建築工事特記仕様書による

舗装版切断時に発生する濁水の処理に係る特記仕様書
建築工事特記仕様書による

設計年月日	縮 尺	工 事 名 称	図 名	図面番号
春日部市 学校教育部 教育施設課	—	豊野小学校外4校避難所空調設備設置工事(牛島小学校)	特記仕様書6 電気設備工事	共通-06

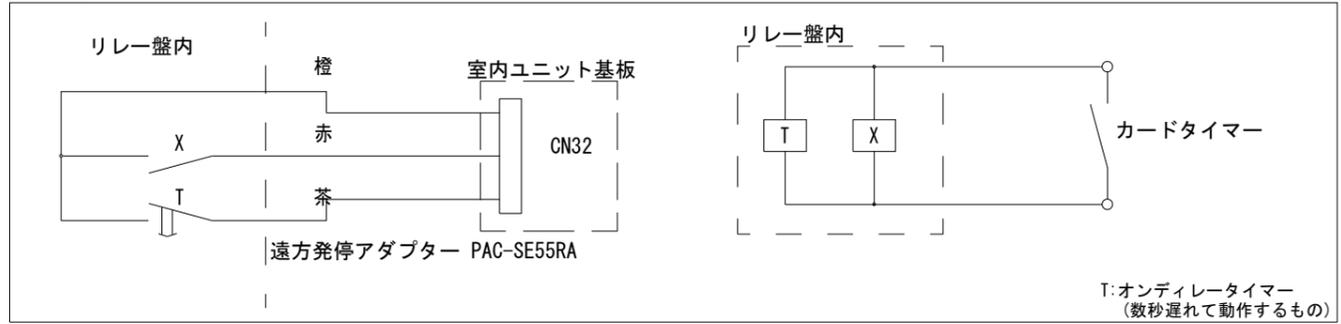
13 その他	<p>(1) 図面上の縮尺は、JIS A1版とした縮尺とする。</p> <p>(2) 受注者は、施工にあたって施設運営に支障ないように綿密に打合せを行うこと。</p> <p>(3) 特に騒音振動など周辺に大きな影響のある工事については、原則として学校では学校運営に支障を与えない期間、その他の施設では施設管理者と打合せして設定すること。</p> <p>(4) F F式温風暖房機の撤去・再取付、新規設置について F F式温風暖房機の一時的取り外し、再取付、新規設置及び動作確認は、製造者又は製造者認定の代理店等に所属する「石油機器技術管理士」の登録を受けたもの（一財）日本石油燃焼機器保守協会が行い、記録を整備すること。なお、動作確認は、一時的取り外し、再取付け後の双方で行うこと。新規設置の場合は設置後に行うこと。</p>	<p>18 空気熱源ヒートポンプ空調機</p> <p>標準仕様書によるほか下記による。 (1) 圧縮機原動機の制御方式 ※回転数制御 ・オンオフ制御 (2) 冷媒 HFC (R410A、R32又はR407C) (注1) R410Aを採用した場合、冷媒配管は機器の設計圧力を満足するものを使用すること。 (注2) R32を採用した場合、冷媒配管の断熱材被覆銅管は難燃性のものを使用すること。 (3) 埼玉県グリーン調達推進方針で掲げる成績係数を満たす機器とする。</p>	12 擬音装置 ・女子用トイレブースに設置する。(※本工事 ・別途工事) ・男子用トイレブースに設置する。(※本工事 ・別途工事) 13 その他 衛生設備器具の適用等の必要なことは別途衛生設備器具表による。	2 洗面器等の排水管 洗面器等に直結する排水管は、器具トラップより1サイズアップする。 3 満水試験継手 3階以上にわたる排水立て管には、各階毎に次の継手を設ける。 ※掃除口付きソケット ・満水試験用掃除口ソケット 4 樹の適用 別紙樹表による。																																																																																									
●空気調和設備	<p>1 設計温湿度</p> <table border="1" data-bbox="252 283 774 388"> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">外 気</th> <th colspan="4">屋 内</th> </tr> <tr> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> </tr> <tr> <td>夏 期</td> <td>37.1℃</td> <td>47.1%</td> <td>28</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>冬 期</td> <td>0.5℃</td> <td>49.4%</td> <td>20</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>※外気処理用エアコンの屋内設定値は、夏期湿度50%とする。</p> <p>2 総合試運転調整</p> <p>※本工事 ・別途</p> <p>風量調整 ・する ※しない 水量調整 ・する ※しない 騒音の測定 ・する ※しない 室内外空気の温度の測定 ※する ・しない 室内気流及びじんあいの測定 ・する ※しない 初期運転状態の記録 ※する ・しない 工事対象範囲の既設機器運転状態の記録 ・する ※しない</p> <p>3 煙 道</p> <p>(1) 鉄板厚 (※3.2mm ・4.5mm) (2) ばい煙濃度計 ※設ける ・設けない (3) ばいじん量測定口 ※設ける (測定口は80φとする) ・設けない</p> <p>4 煙 突</p> <p>※別途 ・本工事</p> <p>5 長方形ダクト</p> <p>※低圧ダクト (亜鉛鉄板製) 長辺の長さ1500mm以下 ※共板工法 ・スライドオンフランジ工法 ・アングルフランジ工法 それ以外の部分 ※アングルフランジ工法 ・高圧1ダクト (亜鉛鉄板製) ・高圧2ダクト (亜鉛鉄板製) ・ステンレス製ダクト (・A区分 ※B区分) ・塩ビ製ダクト (・A区分 ※B区分)</p> <p>6 円形ダクト</p> <p>※スパイラルダクト (※亜鉛鉄板製 ・ステンレス製) ・硬質塩化ビニル管 (VU) ・換気用耐火二層管 (大臣認定品) ※フレキシブルダクト (・保温付 ・保温無) (注1) 使用区分は図示による。</p> <p>7 風量測定口</p> <p>取付け箇所は、図示した箇所及び下記の箇所とする。 送風機吐出ダクト又は吸込ダクト、外気取入ダクト、空調機出口チャンパーの分岐ダクト</p> <p>8 チャンパー</p> <p>(1) 内貼りを施すチャンパーの表示寸法は外法を示す。 (2) ダクト接続形の空気調和機等に取り付けるサブライチャンパー、レタンチャンパー及びダクト系で消音内貼りしたチャンパーには、点検口を設けるものとし点検口の大きさは下記のとおりとする。 ・300×300 ・300×500 ※400×600 ・550×750 (3) 外壁に面するガラリに直接取り付けられるチャンパー及びホッパーは雨水が滞留しないようにする。</p> <p>9 吹出口及び吸込口ボックス</p> <p>※亜鉛鉄板製 ・グラスウール製</p> <p>10 ダンパー</p> <p>(1) 防煙ダンパー 復帰方式 (※遠隔 ・) 定格入力DC24V、0.7A以下 (2) ピストンダンパー 復帰方式 (※遠隔 ・)</p> <p>11 配管材料</p> <p>(1) 冷温水管 ※配管用炭素鋼鋼管 (白) ・ (2) 冷却水管 ※配管用炭素鋼鋼管 (白) ・ (3) フライング管 ※配管用炭素鋼鋼管 (黒) ・ (4) 冷媒管 ※断熱材被覆銅管 (保温厚mm ガス管 ※20以上 ・10以上 液管 ・20以上 ※10以上)</p> <p>(5) ドレン管 (屋外) ・配管用炭素鋼鋼管 (白) ※硬質塩化ビニル管VP ドレン管 (屋内) ※保温機能付空調用ドレン管 (Ipa)AC100φ相当品) ・耐火二層管VP (FDPS-1) ・配管用炭素鋼鋼管 (白) ・硬質塩化ビニル管VP (消防協議事項: ただし、保温機能付空調用ドレン管は、水圧1mを超える配管には使用しない。</p> <p>(6) 油管 ※配管用炭素鋼鋼管 (黒) ・ (7) 蒸気管 給水管 ※配管用炭素鋼鋼管 (黒) ・ 送 水管 ※圧力配管用炭素鋼鋼管 (黒) Sch40 ・ステンレス鋼管 (8) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラー等への補給水管 ※配管用炭素鋼鋼管 (白) ・</p> <p>12 弁 類</p> <p>規格はJIS又はJVとし、指定なきものは5K、それ以外は図示及び共通仕様書による。また、鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。</p> <p>13 温 度 計</p> <p>取付部は下記による。 ※熱源機器の冷温水管 (出入口共)、冷却水管 (出入口共) ※空気調和機の冷温水管 (出入口共) ※ダクト接続形空気調和機のサブライチャンパー、レタンダクト、 外気取入ダクト及びレタンチャンパー ※冷温水ヘッダー (往) 及び各選り管 ※熱交換器の温水管 (出入口) ・</p> <p>14 圧 力 計</p> <p>取付部は下記による。 ※熱源機器の冷温水管 (出入口共)、冷却水管 (出入口共) ※空気調和機の冷温水管 (出入口共) ※冷温水ヘッダー (往) 及び各選り管 ※熱交換器の温水管 (出入口) ・</p> <p>15 瞬間流量計</p> <p>瞬間流量計はビート管方式によるものでも止水コック付とし、型式及び取付部は下記による。なお、着脱部の指示部は (※1個 ・個) 付属とする。 ・熱源機器の冷温水管、冷却水管の出入口どちらかに (※固定形 ・着脱形) を設ける。 ・空気調和機の冷温水管の出入口どちらかに (※固定形 ・着脱形) を設ける。</p> <p>16 油面制御装置</p> <p>※往又は還どちらかの冷温水ヘッダーの各接続管へ (※固定形 ・着脱形) を設ける。 制御室には (※給油ポンプ制御 ※満減油警報 ・遠隔警報 ・電磁弁制御 ・送油ポンプ制御) の端子を設ける。 なお、フロートスイッチ部と制御装置の配管・配線は製造者標準仕様とする。</p> <p>17 冷却塔</p> <p>※直交流式 ・向流型 ※レジオネラ属菌殺菌剤等の自動薬剤注入装置 ※自動ロー装置 ・ 補給水は、水道水とし、補給水接続管部分に清掃用の水栓を分岐して設ける。</p>		外 気		屋 内				温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	夏 期	37.1℃	47.1%	28	%	℃	%	冬 期	0.5℃	49.4%	20	%	℃	%	<p>1 長方形ダクト</p> <p>※低圧ダクト (亜鉛鉄板製) 長辺の長さ1500mm以下 ※共板工法 ・スライドオンフランジ工法 ・アングルフランジ工法 それ以外の部分 ※アングルフランジ工法 ・高圧1ダクト (亜鉛鉄板製) ・高圧2ダクト (亜鉛鉄板製) ・ステンレス製ダクト (・A区分 ※B区分) ・塩ビ製ダクト (・A区分 ※B区分)</p> <p>2 円形ダクト</p> <p>※スパイラルダクト (※亜鉛鉄板製 ・ステンレス製) ・硬質塩化ビニル管 (VU) ・耐火二層換気管 (大臣認定品) ※フレキシブルダクト (・保温付 ・保温無) (注1) 使用区分は図示による。</p> <p>3 風量測定口</p> <p>取付け箇所は、図示した箇所及び下記の箇所とする。 送風機吐出ダクト又は吸込ダクト、外気取入ダクト</p> <p>4 チャンパー</p> <p>(1) 内貼りを施すチャンパーの表示寸法は外法を示す。 (2) 消音内貼りしたチャンパーには、点検口を設けるものとし、点検口の大きさは下記のとおりとする。 ・300×300 ・300×500 ※400×600 ・550×750 (3) 外壁に面するガラリに直接取り付けられるチャンパー及びホッパーは雨水が滞留しないようにする。</p> <p>5 ダンパー</p> <p>(1) 防煙ダンパー 復帰方式 (※遠隔 ・) 定格入力DC24V、0.7A以下 (2) ピストンダンパー 復帰方式 (※遠隔 ・)</p> <p>6 多選箇所排気ダクト</p> <p>(1) 排気ダクトのうち下記箇所は硬質塩化ビニル管 (VU) (防火区画区画箇所は換気用耐火二層管又は耐火VP) を使用できる。 ※浴室 (シャワー室、脱衣室を含む) ・ (2) 水抜き管は (※厨房、浴室 ※結露水が滞留する部分 ・) の排気ダクトには設ける</p> <p>7 保 温</p> <p>下記のダクトの保温を行う。 ※全熱交換器用の隠れ部ダクト 仕様はN・(口)・XIとする。 保温施工範囲は、給気用OAダクトは全て、また、排気用EAダクトは外壁より1mの部分とする。 ※ (※厨房 ・湯沸室 ・) 用の隠蔽部ダクト (仕様はh・(イ) ・Ⅹとし範囲は図示による)</p> <p>8 試運転調整</p> <p>風量調整 ・する ※しない 風量測定 ・する ※しない 騒音の測定 ・する ※しない</p> <p>9 排煙設備</p> <p>1 ダクト</p> <p>※亜鉛鉄板 ・</p> <p>2 排煙口の形式</p> <p>※天井取付 (・スリット形 ※スイング形) ・壁取付 (・スリット形 ・スイング形)</p> <p>3 排煙口手動開放装置</p> <p>開放及び復帰方式 ※ワイヤー式 ・電気式 (遠隔操作 ・不要 ・要)</p> <p>4 排煙風量測定</p> <p>建築設備定期検査業務基準書 (一財) 日本建築設備・昇降機センター) の排煙風量の検査方法に準ずる。</p> <p>10 自動制御</p> <p>1 中央監視制御装置</p> <p>・有り ※無し</p> <p>2 構成・機能</p> <p>図示による</p> <p>3 電気計装用材</p> <p>使用する電線及びケーブルは、原則としてEM電線またはEMケーブルとする。屋外・屋内露出の電線は、図面に特記のない限り金属管配線とする。天井内隠れ電線は、図面に特記のない限りケーブル配線とする。 ※カードタイマーにより発停を制御する、仕様は別紙の通り。 ※カードタイマーのメモリー書き込み、納品は本工事とする。</p> <p>11 小便器用節水装置</p> <p>JIS B 2026 (自動水栓) による電気開閉式とし、小便器 (※一体形・分離形) とする。</p> <p>12 バリアフリー対応</p> <p>・小便器 ※全部ストール形 ・一部ストール形 手すり (・本工事 ※別途工事) ・洗面器 ※自動水栓 (・全部 ※一部) ・レバー式水栓 (一部) ・シャワー ※サーモスタット式 ・ミキシング式 ※スライドバー ・フック ※止水機能付節水形シャワーヘッド ※600×800 (耐食鏡) ・傾斜鏡 (・照明無 ・照明付)</p> <p>13 衛生器具付属水栓</p> <p>(1) 器具付属止水水栓は ※ドライバー式 ・ハンドル式 (2) 水抜き栓を使用する場合は、水栓は固定式とする。</p> <p>14 自動水栓類の電源</p> <p>※AC100V ・乾電池等 ・自己発電</p> <p>15 暖房機</p> <p>(1) JIS A 4422 (温水洗浄便座) とする。 (2) 機能種別 ※温水洗浄 ※脱臭 ・温風乾燥 ・トイレ室内暖房 (3) 温水洗浄加熱方式 ※瞬間式 ・貯湯式 (4) 使用流体は、飲料用水道水とする。 (5) リモコン ・AC100V ・乾電池等 ※自己発電</p> <p>16 大便器洗浄弁・洗浄用タンク</p> <p>器具表又は下記の場合を除き、※節水Ⅰ型・節水Ⅱ型とする。 ・洗浄弁操作方式は、※手動式・電気開閉式 (※センサー式・タッチスイッチ式) ・上層階で使用する大便器洗浄弁は、現地給水管の流動圧を確認し、必要に応じ低圧形とする。</p> <p>17 大便器耐火カバー</p> <p>※設ける (ピット内は除く) ・設けない</p> <p>18 掃除流し</p> <p>※共栓なしとする。 ・共栓付とする。</p> <p>19 排水器具用V線継手</p> <p>※使用できる ・使用できない</p> <p>20 標 記 板</p> <p>大便器、小便器の洗浄用雨水等を利用している場合は、その旨をわかりやすく各トイレ毎に表示する。</p> <p>21 水せっけん入れ</p> <p>せっけん供給栓がない場合は、監督員と協議のうえ洗面器、手洗いに設ける。</p>	<p>○給水設備</p> <p>1 配管材料</p> <p>配管材料は、※下記 ・図面指示 (図面指示が不足する箇所は下記) による。</p> <table border="1" data-bbox="1475 220 2175 745"> <tr> <th>施 工 箇 所</th> <th>管 種 別</th> </tr> <tr> <td>床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む))</td> <td>※SUS ・SGP- PD ・HIVP ・ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>ウエット厨房、浴室等の湿潤シnder内配管</td> <td>※SUS ・SGP- PD ・HIVP ・ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>保温をしない屋外露出部</td> <td>※SUS ・SGP- PD</td> </tr> <tr> <td>地中埋設部 (水道直結部分)</td> <td>・HIVP ・水道用ステンレス鋼管 ・水道配水用ポリエチレン管 (PE)</td> </tr> <tr> <td>地中埋設部 (一般部分)</td> <td>※HIVP ・水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管 (PE)</td> </tr> <tr> <td>市営住宅 住戸内</td> <td>※ポリブテン管 (さや管ヘッダー工法)</td> </tr> <tr> <td>便所天井内、PS内 (注5)</td> <td>※高密度ポリエチレン管 (32A以上)</td> </tr> <tr> <td>便所天井内</td> <td>※ポリブテン管 (10mm保温付)</td> </tr> <tr> <td>便所空腔壁内又は衛生器具等接続管</td> <td>※ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>その他の部分</td> <td>※SUS ・SGP- PD ・HIVP ・ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む))</td> <td>※SUS ・SGP- PD ・HIVP ・ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>湿潤シnder内配管</td> <td>※SUS ・SGP- PD ・HIVP ・ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>保温をしない屋外露出部</td> <td>※SUS ・SGP- PD</td> </tr> <tr> <td>地中埋設部 (一般部分)</td> <td>※HIVP ・水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管 (PE)</td> </tr> <tr> <td>市営住宅 住戸内</td> <td>※高密度ポリエチレン管 (32A以上)</td> </tr> <tr> <td>便所天井内、PS内 (注5)</td> <td>※ポリブテン管 (10mm保温付)</td> </tr> <tr> <td>便所天井内</td> <td>※ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>便所空腔壁内又は衛生器具等接続管</td> <td>※ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>その他の部分</td> <td>※SUS ・SGP- PD ・HIVP ・ポリブテン管</td> </tr> </table> <p>(注) 1. SUSとは、JIS G 3448 またはJIS G 115 に規定するステンレス鋼管とし、継手は一般部 (・圧縮 ・ゲア) 又は ※拡張 便所 ・廊下流し廻り露出配管 (※拡張) とする。 2. ステンレス管に取付ける弁は、JV8-11とする。 3. 飲料水以外の給水管は、系統別に管外部に配管識別テープを巻く。また、接続がないことを確認するため衛生器具の取付完了後、系統毎に着色水を用いた通水試験を行う。 4. 建物導入部において、ポリエチレン管と異種管を接合する場合は、接合部が容易に点検できるように点検用枠を設ける。 5. 口径25Aにて大便器等に接続する場合は、施工状況に応じて高密度ポリエチレン管の使用も可とする。 6. 高密度ポリエチレン管とは、主材料に高密度ポリエチレン樹脂 (PE100) を採用し、管と継手を電気溶着にて接合するものを用いる。 7. 地中埋設部 (水道直結部分) は水道事業者の指示による。</p> <p>2 一体形タンク</p> <p>一体形タンクについての標準図は一般的な形状及び数値を示すものであって、図面及び特記仕様書に記載された耐震強度、容量、寸法を満たすものであればよい。</p> <p>3 水 栓</p> <p>※給湯用水栓を除き大きさを呼び13の水栓は、節水コマとする。 ・水抜き栓を使用する場合は、屋外に設ける水栓は耐寒水栓とする。ただし屋内は固定コマとする。</p> <p>※観メーター (※貸与品 ・) ・子メーター (※買取り ・)</p> <p>4 量 水 器</p> <p>※水道事業者指定品 ・標準図MC形</p> <p>5 量水器樹</p> <p>規格はJIS又はJVとし、水道直結部分は10Kとし、指定なきものは5K、それ以外は図示及び標準仕様書による。</p> <p>6 弁 類</p> <p>・防寒コンクリート水栓柱 (1200L) ※不凍給水栓</p> <p>7 水 栓 柱</p> <p>図示部分について下記のとおり施工する。 ※埋設用フレキシブルジョイント2本をL字状に設ける。 ・標準図施工4 (・(a) ・(b) ・(c))</p> <p>8 建物導入部配管</p> <p>水道事業者の集合住宅に関する戸別検針規程に適合するように関連工事業者と調整のうえ施工すること。</p> <p>9 検針方法</p> <p>水道利用加入金は、別途とする。ただし、水道事業者との調整は本工事を含む。</p> <p>10 水道利用加入金</p> <p>水道本管からの給水取出し工事は、本工事範囲とする。また、取出し部における舗装の復旧も含む。</p> <p>11 本管取出し</p> <p>配管材料は ※下記 ・図面指示 (図面指示が不足する箇所は下記) による。</p> <table border="1" data-bbox="1475 756 2175 1281"> <tr> <th>施 工 箇 所</th> <th>管 種 別</th> </tr> <tr> <td>床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む))</td> <td>※RF-V P又はリサイクルV P ・V P</td> </tr> <tr> <td>厨房等の温排水</td> <td>※SGP (白) ・</td> </tr> <tr> <td>耐火性能を要求される箇所</td> <td>※耐火二層管V P (FDPS-1) 又は耐火V P ・SGP (白)</td> </tr> <tr> <td>その他の部分</td> <td>※RF-V P又はリサイクルV P ・V P ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</td> </tr> <tr> <td>床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む))</td> <td>※RF-V P又はリサイクルV P ・V P</td> </tr> <tr> <td>耐火性能を要求される場所</td> <td>※耐火二層管V P (FDPS-1) 又は耐火V P ・排水用/耐火 砂塗装鋼管</td> </tr> <tr> <td>その他の部分</td> <td>※RF-V P又はリサイクルV P ・V P ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</td> </tr> <tr> <td>地中埋設部</td> <td>※RS-V U又はリサイクルV U ・V U ・鋼形管 (ゴム輪接合) ※REP-V U (軽荷重の場合) ・RF-V P又はリサイクルV P ・V P</td> </tr> <tr> <td>共通</td> <td>※耐火二層管V P (FDPS-1) 又は耐火V P ・SGP (白)</td> </tr> <tr> <td>耐火性能を要求される箇所</td> <td>※リサイクルV P又はRF-V P ・V P ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</td> </tr> </table> <p>(注) 1. リサイクルV P、リサイクルV UはJIS K6741の規格をもつ塩ビリサイクル管、RF-V P、RS-V U又は、REP-V Uは標準仕様書第2編2.1.2.6による。 2. 雨水排水を含む場合は、雨水排水管は雑排水配管の材料種別による。 3. 原則として雑排水配管、汚水配管の管接合部はV45度で行う。</p>	施 工 箇 所	管 種 別	床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む))	※SUS ・SGP- PD ・HIVP ・ポリブテン管	ウエット厨房、浴室等の湿潤シnder内配管	※SUS ・SGP- PD ・HIVP ・ポリブテン管	保温をしない屋外露出部	※SUS ・SGP- PD	地中埋設部 (水道直結部分)	・HIVP ・水道用ステンレス鋼管 ・水道配水用ポリエチレン管 (PE)	地中埋設部 (一般部分)	※HIVP ・水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管 (PE)	市営住宅 住戸内	※ポリブテン管 (さや管ヘッダー工法)	便所天井内、PS内 (注5)	※高密度ポリエチレン管 (32A以上)	便所天井内	※ポリブテン管 (10mm保温付)	便所空腔壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管	その他の部分	※SUS ・SGP- PD ・HIVP ・ポリブテン管	床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む))	※SUS ・SGP- PD ・HIVP ・ポリブテン管	湿潤シnder内配管	※SUS ・SGP- PD ・HIVP ・ポリブテン管	保温をしない屋外露出部	※SUS ・SGP- PD	地中埋設部 (一般部分)	※HIVP ・水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管 (PE)	市営住宅 住戸内	※高密度ポリエチレン管 (32A以上)	便所天井内、PS内 (注5)	※ポリブテン管 (10mm保温付)	便所天井内	※ポリブテン管	便所空腔壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管	その他の部分	※SUS ・SGP- PD ・HIVP ・ポリブテン管	施 工 箇 所	管 種 別	床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む))	※RF-V P又はリサイクルV P ・V P	厨房等の温排水	※SGP (白) ・	耐火性能を要求される箇所	※耐火二層管V P (FDPS-1) 又は耐火V P ・SGP (白)	その他の部分	※RF-V P又はリサイクルV P ・V P ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む))	※RF-V P又はリサイクルV P ・V P	耐火性能を要求される場所	※耐火二層管V P (FDPS-1) 又は耐火V P ・排水用/耐火 砂塗装鋼管	その他の部分	※RF-V P又はリサイクルV P ・V P ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	地中埋設部	※RS-V U又はリサイクルV U ・V U ・鋼形管 (ゴム輪接合) ※REP-V U (軽荷重の場合) ・RF-V P又はリサイクルV P ・V P	共通	※耐火二層管V P (FDPS-1) 又は耐火V P ・SGP (白)	耐火性能を要求される箇所	※リサイクルV P又はRF-V P ・V P ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	<p>○給湯設備</p> <p>1 配管材料</p> <p>・露出部 M鋼管 その他 保温付被覆鋼管 (M鋼管) ・一般配管用ステンレス鋼管 ・ポリブテン管 (さや管ヘッダー工法)</p> <p>2 絶縁フランジ</p> <p>取付部は下記による。 ※鋼管と鋼管及びこれに類する部分 ※鋼管とステンレス鋼管及びこれに類する部分</p> <p>3 弁 類</p> <p>(1) 規格はJIS又はVとし、指定なきものは5K、それ以外は図示による。 (2) ステンレス管に取付ける弁は、JV8-11による。</p> <p>4 ガス瞬間湯沸器</p> <p>※屋外設置の潜熱回収型 ・PS室内設置の潜熱回収型</p> <p>5 電気給湯器</p> <p>飲用の場合は、80℃以上で使用可能なものとし、「熱湯注意」の表示をする。</p> <p>○消火設備</p> <p>1 配管材料</p> <p>屋内消火栓用 一般配管※SGP (白) ・STPG370 (白) Sch40 地中埋設※SGP-V S ・HIVP ・高密度ポリエチレン管 (消火用) 消火用 一般配管※SGP (白) ・STPG370 (白) Sch40 地中埋設※SGP-V S ・HIVP ・高密度ポリエチレン管 (消火用) 不活性ガス消火用 ※STPG370 (白) Sch40 ・STPG370 (白) Sch80</p> <p>2 建物導入部配管</p> <p>図示部分について下記のとおり施工する。 ※埋設用フレキシブルジョイント2本をL字状に設ける。 ・標準図施工4 (・(a) ・(b) ・(c))</p> <p>○ガス設備</p> <p>1 配管材料</p> <p>都市ガス ガス事業者の供給規定による。埋設配管はPE管を原則とする。 液化石油ガス 一般配管 ※合成樹脂被覆鋼管 ・SGP (白) 地中埋設 ※PE管</p> <p>2 ガス漏れ警報遮断装置</p> <p>漏洩検知装置は、流量検知式圧力監視型とする。</p> <p>3 液化石油ガスの供給権</p> <p>ガス設備工事の施工者にガスの供給権は付帯しない。</p> <p>○厨房設備</p> <p>1 厨房機器の固定</p> <p>原則として、移動を前提とする厨房機器を除き地震時に転倒及び位置ずれを起こさないよう、床又は壁に堅固に取り付ける。</p> <p>2 シンク用水栓</p> <p>※レバー式泡沫水栓 ・自動水栓</p> <p>3 安全装置の機能の適用</p> <p>標準仕様書第5編1・6・1の表5.1.7安全装置の表中の△の項目はすべて適用とする。</p> <p>舗装版切断時に発生する濁水の処理に係る特記仕様書</p> <p>第1条 この特記仕様書は、春日部市機械設備工事特別共通仕様書に定めるもののほか、アスファルト舗装版切断時に発生する濁水 (以下「濁水」という。) の処理に關し必要な事項を定めるものである。</p> <p>第2条 受注者は、回収した濁水を次のとおり処理するものとする。 ・種類及び処理量 汚泥 (油分を含む汚泥) ・ m3 ・中間処理施設 市 (含む) ・ (株) ・処理方法 ・中間処理後、最終処分場に搬入 (処理に焼却又は溶融含まず) ・中間処理後、最終処分場又は再資源化 (処理に焼却又は溶融を含む)</p> <p>第3条 受注者は、別の中間処理施設を選定する場合には、事前に監督員と協議するものとする。</p> <p>第4条 受注者は、舗装版切断作業を行いながら濁水を可能な限り回収し、作業後速やかに回収した濁水を産業廃棄物の汚泥 (油分を含む汚泥) として中間処理施設に運搬及び処理するものとする。</p> <p>第5条 受注者は、汚泥の中間処理業の許可を受けている業者と産業廃棄物処分委託契約を締結しなければならないものとする。</p> <p>第6条 受注者は、自ら運搬を行う場合を除き、汚泥の収集運搬業の許可を受けている業者と産業廃棄物収集運搬委託契約を締結しなければならないものとする。</p> <p>第7条 受注者は、施工計画書において、濁水の回収、運搬及び処理に関する方法を定めなければならないものとする。また、中間処理業者及び収集運搬業者と第3条第3項及び第4項に基づき締結した委託契約書の写し及び許可証の写しを添付すること。</p> <p>第8条 受注者は、工事検査時にマニフェスト原本を提示する。</p> <p>第9条 濁水処理量については、舗装版の切断延長や切断厚が変わった場合を除き、原則として設計変更の対象としないものとする。</p> <p>第10条 受注者は、舗装版切断時に濁水を生じない工法を使用する場合においては、事前に監督員と協議するものとする。</p> <p>第11条 この特記仕様書に疑義等が生じた場合については、別途監督員と協議するものとする。</p>
	外 気		屋 内																																																																																										
	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)																																																																																							
夏 期	37.1℃	47.1%	28	%	℃	%																																																																																							
冬 期	0.5℃	49.4%	20	%	℃	%																																																																																							
施 工 箇 所	管 種 別																																																																																												
床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む))	※SUS ・SGP- PD ・HIVP ・ポリブテン管																																																																																												
ウエット厨房、浴室等の湿潤シnder内配管	※SUS ・SGP- PD ・HIVP ・ポリブテン管																																																																																												
保温をしない屋外露出部	※SUS ・SGP- PD																																																																																												
地中埋設部 (水道直結部分)	・HIVP ・水道用ステンレス鋼管 ・水道配水用ポリエチレン管 (PE)																																																																																												
地中埋設部 (一般部分)	※HIVP ・水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管 (PE)																																																																																												
市営住宅 住戸内	※ポリブテン管 (さや管ヘッダー工法)																																																																																												
便所天井内、PS内 (注5)	※高密度ポリエチレン管 (32A以上)																																																																																												
便所天井内	※ポリブテン管 (10mm保温付)																																																																																												
便所空腔壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管																																																																																												
その他の部分	※SUS ・SGP- PD ・HIVP ・ポリブテン管																																																																																												
床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む))	※SUS ・SGP- PD ・HIVP ・ポリブテン管																																																																																												
湿潤シnder内配管	※SUS ・SGP- PD ・HIVP ・ポリブテン管																																																																																												
保温をしない屋外露出部	※SUS ・SGP- PD																																																																																												
地中埋設部 (一般部分)	※HIVP ・水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管 (PE)																																																																																												
市営住宅 住戸内	※高密度ポリエチレン管 (32A以上)																																																																																												
便所天井内、PS内 (注5)	※ポリブテン管 (10mm保温付)																																																																																												
便所天井内	※ポリブテン管																																																																																												
便所空腔壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管																																																																																												
その他の部分	※SUS ・SGP- PD ・HIVP ・ポリブテン管																																																																																												
施 工 箇 所	管 種 別																																																																																												
床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む))	※RF-V P又はリサイクルV P ・V P																																																																																												
厨房等の温排水	※SGP (白) ・																																																																																												
耐火性能を要求される箇所	※耐火二層管V P (FDPS-1) 又は耐火V P ・SGP (白)																																																																																												
その他の部分	※RF-V P又はリサイクルV P ・V P ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管																																																																																												
床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む))	※RF-V P又はリサイクルV P ・V P																																																																																												
耐火性能を要求される場所	※耐火二層管V P (FDPS-1) 又は耐火V P ・排水用/耐火 砂塗装鋼管																																																																																												
その他の部分	※RF-V P又はリサイクルV P ・V P ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管																																																																																												
地中埋設部	※RS-V U又はリサイクルV U ・V U ・鋼形管 (ゴム輪接合) ※REP-V U (軽荷重の場合) ・RF-V P又はリサイクルV P ・V P																																																																																												
共通	※耐火二層管V P (FDPS-1) 又は耐火V P ・SGP (白)																																																																																												
耐火性能を要求される箇所	※リサイクルV P又はRF-V P ・V P ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管																																																																																												
設計年月日		春日部市 学校教育 教育施設課		縮尺		工事名称																																																																																							
				—		豊野小学校外4校避難所空調設備設置工事 (牛島小学校)																																																																																							
						図面名																																																																																							
						図面番号																																																																																							
						機械設備工事特記仕様書 (2)																																																																																							
						共通-08																																																																																							

リレー盤 (システム工事)



<配線図>

プリペイドカードを入れるとエアコンは運転、タイマーONの間のみリモコン操作を可能とする設定



T: オンディレータイマー (数秒遅れて動作するもの)

(電気工事)
空調用動力盤
P-1

1φ-3C 200V (電気工事)

ELCB
2P 10AA

変圧器
Tr
200V/100V

A100
C100

1φ AC100V

[動作]

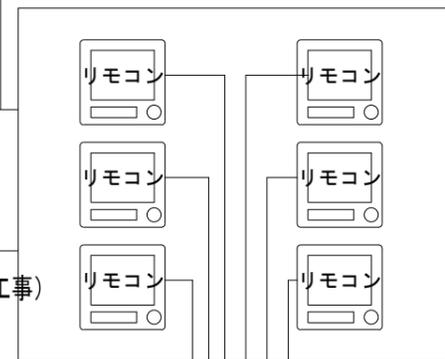
カードタイマー接点 オンディレータイマー接点	状態	手元リモコンからの操作	
		運転/停止操作	その他設定(温度/風速など)
ON	タイマー制御/運転開始→	許可	許可
OFF (数秒遅れ)	リモコン制御	(オンディレータイマー接点OFF後)	許可
OFF	タイマー制御/停止	禁止	停止

停止ボタンを押してもカードタイマーのカウントは停止しない。

1φ AC100V
EM-CE2. 0-2C × 空調機台数

L100A
N100A

(機械工事)
空調機操作盤 (システム工事)



リレー盤図参照
配線図参照

リレー盤 (システム工事)

リレー盤 (システム工事)

リレー盤 (システム工事)

リレー盤 (システム工事)

リレー盤 (システム工事)

リレー盤 (システム工事)

10m以内 (システム工事)

10m以内 (システム工事)

10m以内 (システム工事)

10m以内 (システム工事)

10m以内 (システム工事)

10m以内 (システム工事)

室内機 (機械工事)

室内機 (機械工事)

室内機 (機械工事)

室内機 (機械工事)

室内機 (機械工事)

室内機 (機械工事)

室外機 (機械工事)

室外機 (機械工事)

室外機 (機械工事)

室外機 (機械工事)

室外機 (機械工事)

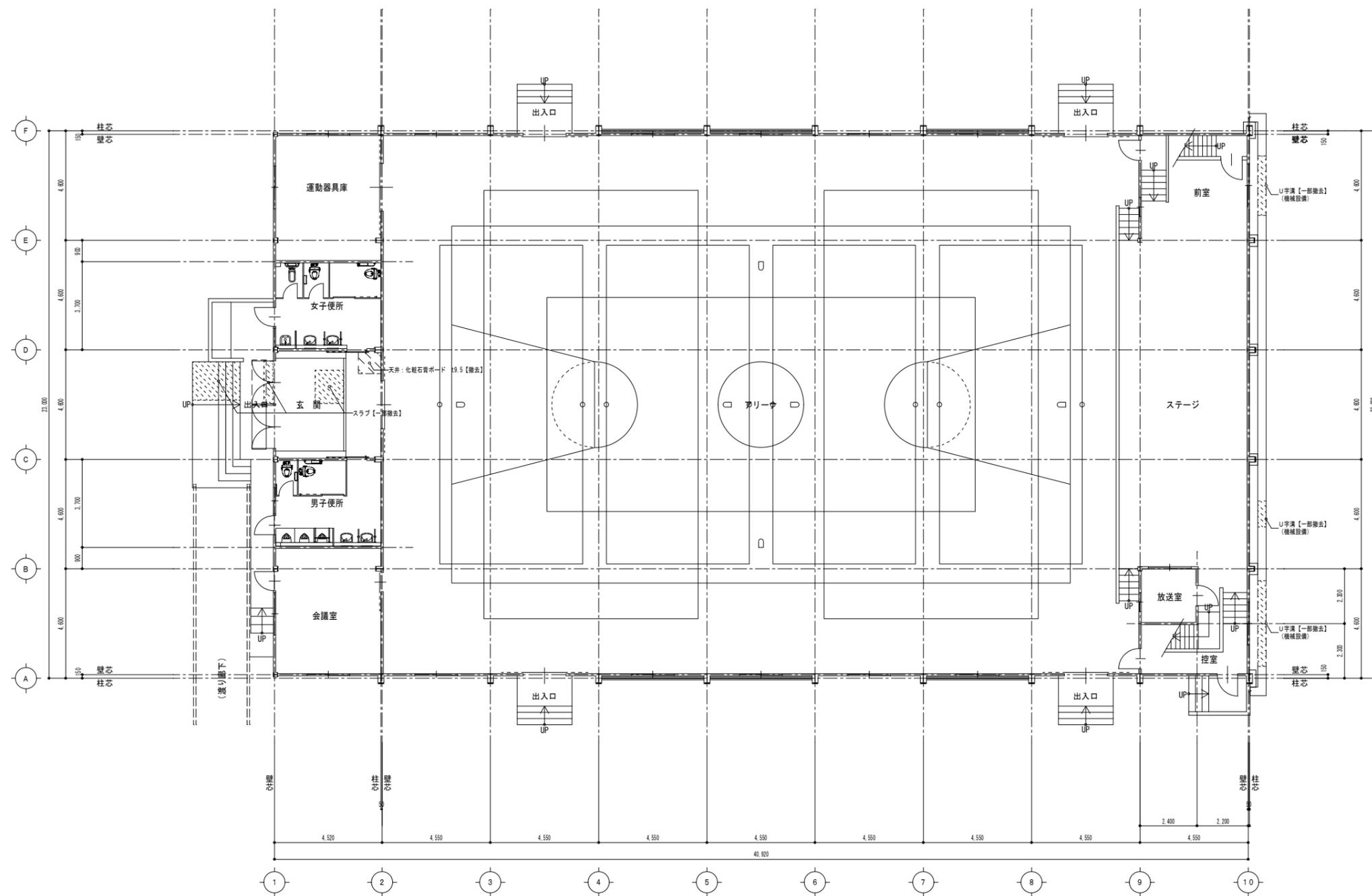
EM-CEES1. 25-2C
× 空調機台数
(機械工事)

カードタイマー用カード
管理用カード 2枚
プリペイドカード 3,000枚

カウント当りの時間設定は担当者
と協議により決定する。
カードの納品は本工事に含まれる。

※系統図は空調機6台設置の場合であり、リレー盤の台数は空調機と同じ台数を設置する。

仕上表									
内部仕上げ									
階	室名	床	巾木	壁	天井	廻り縁	天井高	室名札	備考
1、2階	アリーナ	改修前	・ブナフローリング t18 ウレタン塗装 ・(キャットウォーク) 編織板 t4.5	・ラワン H=100 OS塗	・網織 40×45 タテヨコ @450下地、 ラワン合板 t=12 目透し張 OS塗 【一部、下地共撤去】	・木毛板 t25 表わし	—	床～軒高 7,450	(キャットウォーク) ・手摺：鋼製+SUSメッシュ H=1,200
		改修後			・網織 40×45 タテヨコ @450下地、 ラワン合板 t=12 目透し張 OS塗 【一部、下地共撤去】				(キャットウォーク) ・空調室内機 【新設】 ・鉄骨梁台 溶融亜鉛メッキ仕上 ・手摺(空調前面)：結露防止塗装 W=1,800 【下地調整の上、塗替】
	玄関	改修前	・せっ器質タイル 150角 【一部撤去】 ・モルタル金ゴテ仕上 【一部撤去】	・上櫃：人造石研ぎ出し ・モルタル金ゴテ VP塗	・モルタル金ゴテ VP塗	・化粧石膏ボード t9.5 【一部撤去】	塩ビ製 (天井共)	2,700 2,800	・木製スノコ 【一時撤去】
		改修後	・(段差) 勾配床：コンクリート打設、剛毛引き仕上 【新設】 立上り：コンクリート打放し補修の上、複層仕上塗材E、角面取り 【新設】			・化粧石膏ボード t9.5 【一部新設】	塩ビ製 (天井共)		・木製スノコ 【再設置】
		改修前							
		改修後							
その他									
外部		<ul style="list-style-type: none"> ・玄関スロープ 【新設】 新規コンクリート打設 床面：コンクリート打放し補修の上、複層仕上塗材E、角面取り 立上り：コンクリート打放し補修の上、複層仕上塗材E、角面取り 手摺：2段手摺(H=850)、亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきの上、高耐候性樹脂粉体塗装 (支柱) 60.5φ、(上段手摺) 42.7φ、(下段手摺) 34.0φ 点状ブロック：推奨障害者用床タイル 300角 t13 ・室外機基礎、分電盤(自立型)基礎 【新設】 新規コンクリート打設 コンクリート打放し補修仕上 スチールメッシュフェンス(H=1,800)、丸形柱、縦横メッシュ、両開き戸(カギ付き) ・キュービクル梁台 【新設】 新規鉄骨梁台設置 サビ止めの上、DP塗装 新規基礎増設コンクリート打放し コンクリート金ゴテ押え スチールメッシュフェンス(H=1,800)、V形柱、菱形メッシュ、両開き戸(カギ付き) ・(既存外壁仕上)：角波サイディング鋼板 t0.4 弱溶剤アクリルシリコン樹脂系遮熱塗料塗 (既存柱仕上)：ガルバリウム鋼板 t1.6 弱溶剤アクリルシリコン樹脂系遮熱塗料塗 							
特記事項	改修仕様の詳細は、「特記仕様書」「春日部市建築工事特別共通仕様書」「埼玉県建築工事特別共通仕様書」、(国交省)「公共建築工事標準仕様書」「公共建築改修工事標準仕様書」「建築物解体工事共通仕様書」に準ずる。 新規建築材料は、F☆☆☆☆規格品・ゼロアスベスト製品とする。塗料は、F☆☆☆☆で揮発性有機化合物の少ない製品を使用する。 撤去については、特記なき限り「撤去・廃棄処分」とする。 アスベスト分析調査報告書(判定結果)含有せず。			記号凡例	SOP：合成樹脂調合ペイント EP：合成樹脂エマルジョンペイント EP-G：つや有り合成樹脂エマルジョンペイント VP：塩化ビニールペイント DP：耐候性塗料(3級) UC：ウレタンクリア(床：2液、他：1液)	OS：オイルステイン CL：クリヤラッカー	壁LGS：軽量鉄骨下地(特記なき限り)65形、(界壁)S65・R75、(ライニング)LGS下地65形 天井LGS：軽量鉄骨下地(特記なき限り)19形、(屋外)25形 CB：建築用(空調)コンクリートブロックA種		
				春日部市 学校教育 施設課	豊野小学校外4校避難所空調設備設置工事(牛島小学校)	日付 2025.1.17	工事名称 豊野小学校外4校避難所空調設備設置工事(牛島小学校)	図面No. 牛A-09	
						編尺 —	図面名称 仕上表		



改修前 1階平面図 S=1/100

凡例: は、【除去】箇所を示す。
(詳しくは、各詳細図による)

春日部市 学校教育課

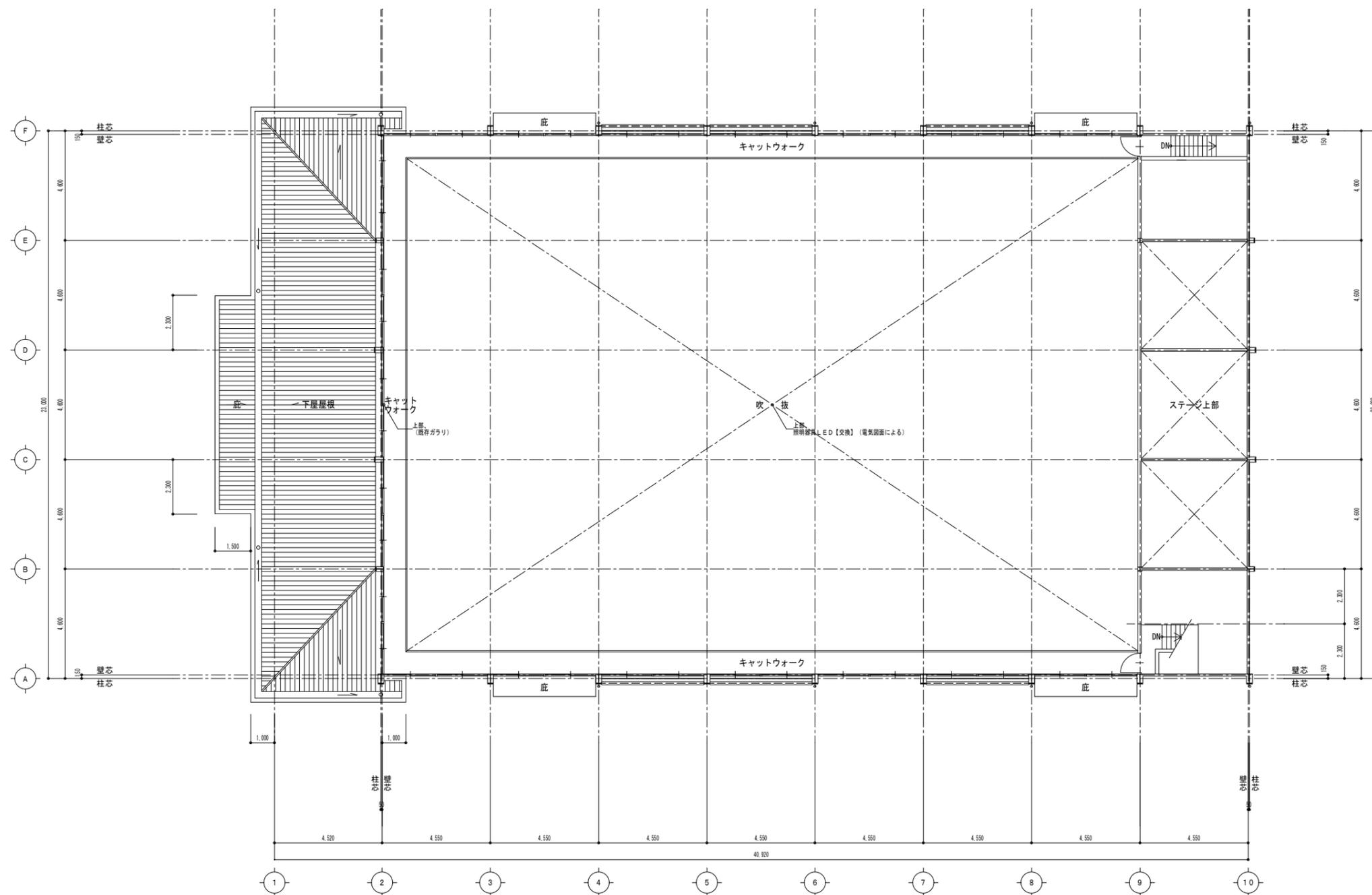
春日部市
学校教育課

日付 2025.1.17
縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200

工事名称 豊野小学校外4校避難所空調設備設置工事(牛島小学校)
図面名称 改修前 1階平面図

図面No. 牛A-10

改修前



改修前 キャットウォーク平面図・下屋伏図 S=1/100

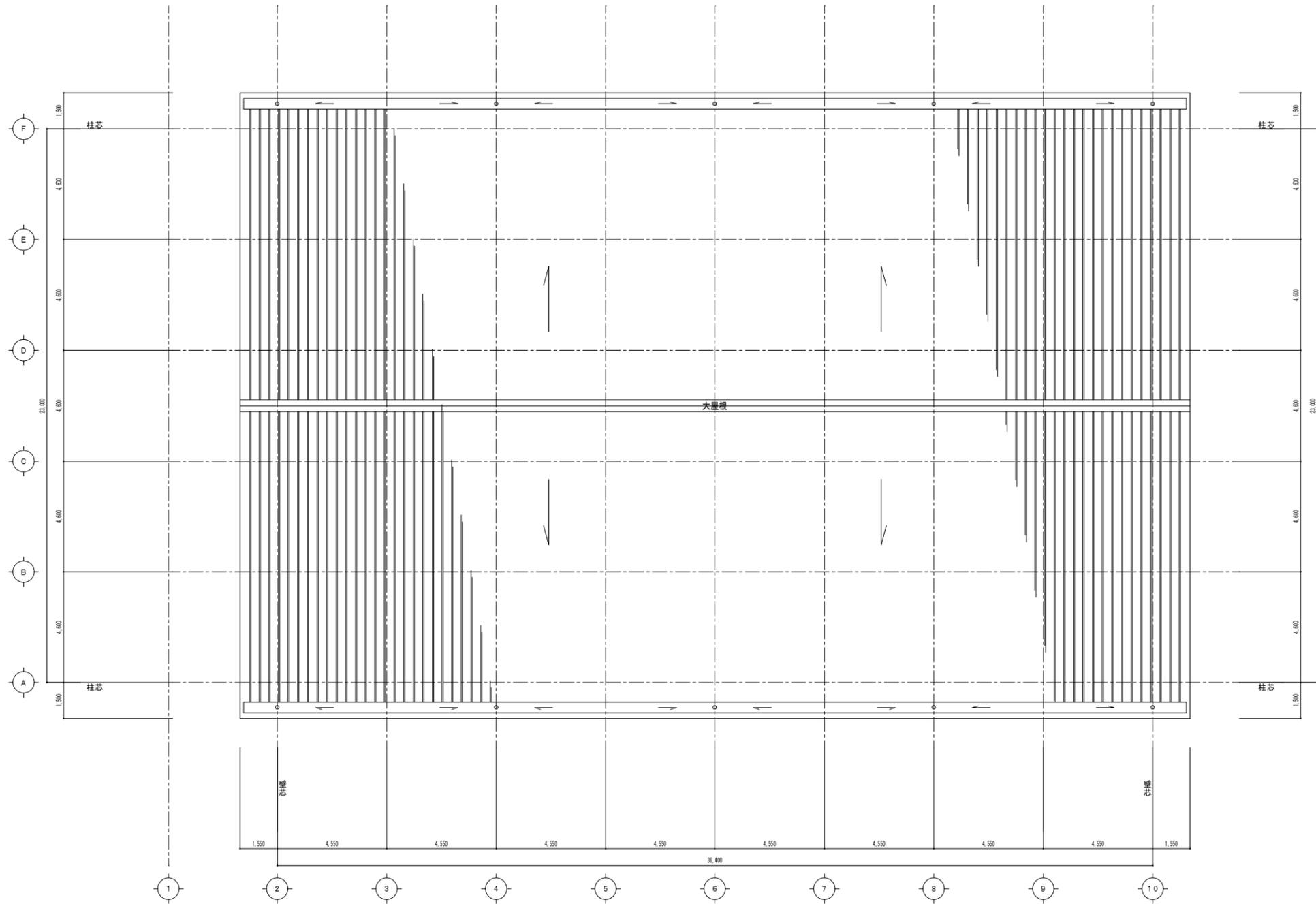
春日部市
学校教育課

日付
2025.1.17
縮尺
A1: 1/100
A3: 1/200

工事名称
豊野小学校外4校避難所空調設備設置工事(牛島小学校)
図面名称
改修前 キャットウォーク平面図・下屋伏図

図面No.

牛A-11



(参考)
屋根伏図 S=1/100

(屋根は工事なし。屋根伏図は参考とする。)

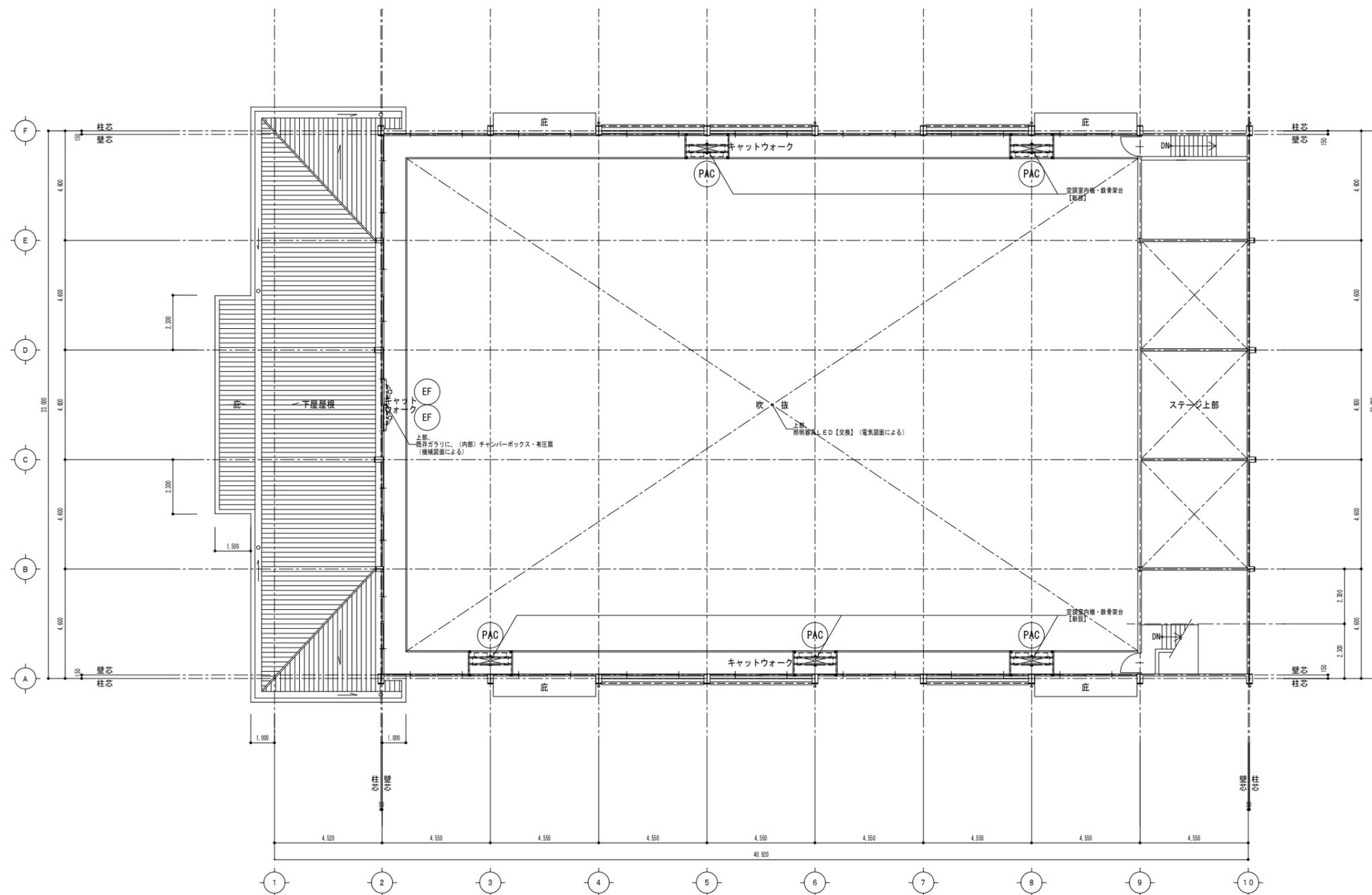
春日部市
学校教育課

日付	2025.1.17
縮尺	A1: 1/100 A3: 1/200

工事名称	豊野小学校外4校避難所空調設備設置工事(牛島小学校)
図面名称	(参考) 屋根伏図

図面No.
牛A-12

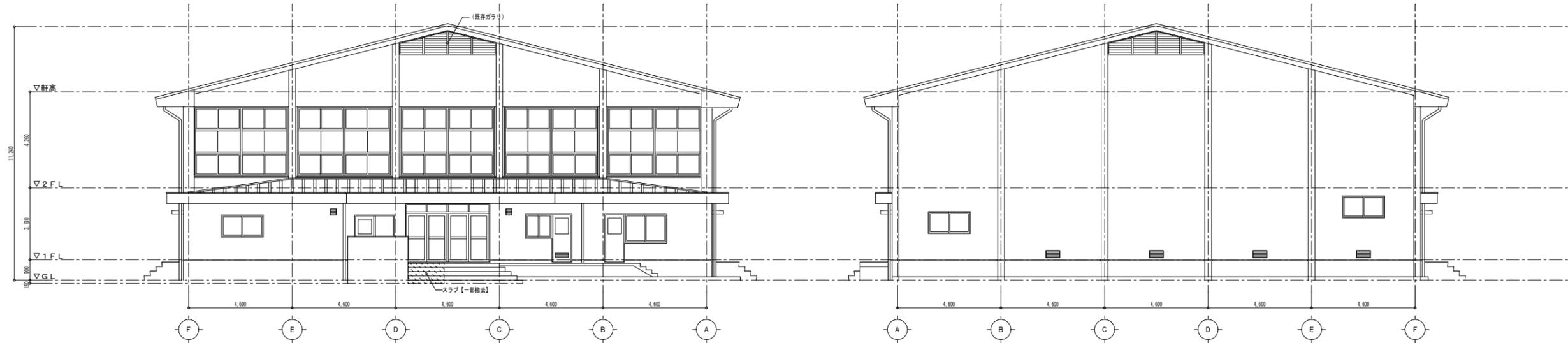
改修後



改修後 キャットウォーク平面図・下屋伏図 S=1/100 *空調室内機×5台【新設】

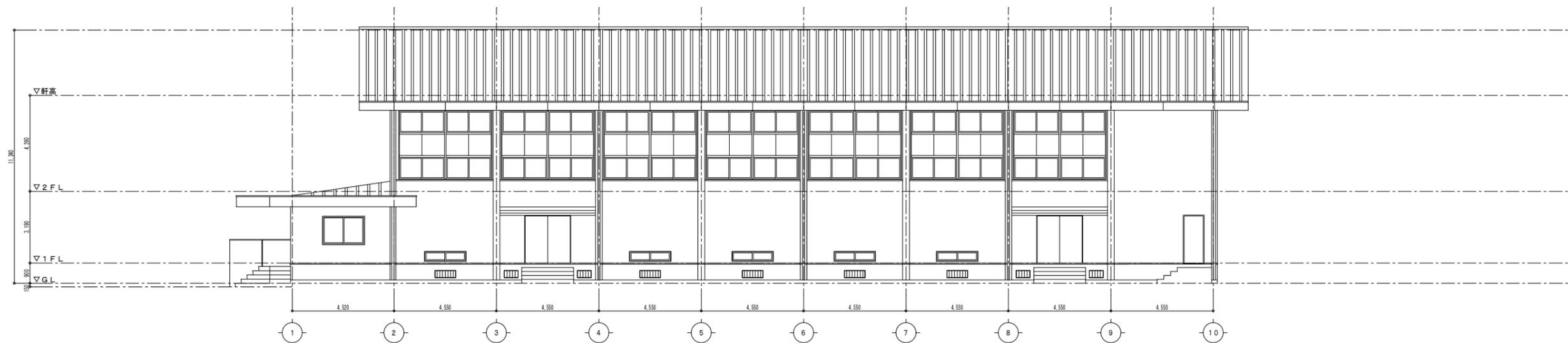
春日部市 学校教育課	日付	2025.1.17	工事名称	豊野小学校外4校避難所空調設備設置工事(牛島小学校)	図面No.	牛A-14
	縮尺	A1: 1/100 A3: 1/200	図面名称	改修後 キャットウォーク平面図・下屋伏図		

改修前

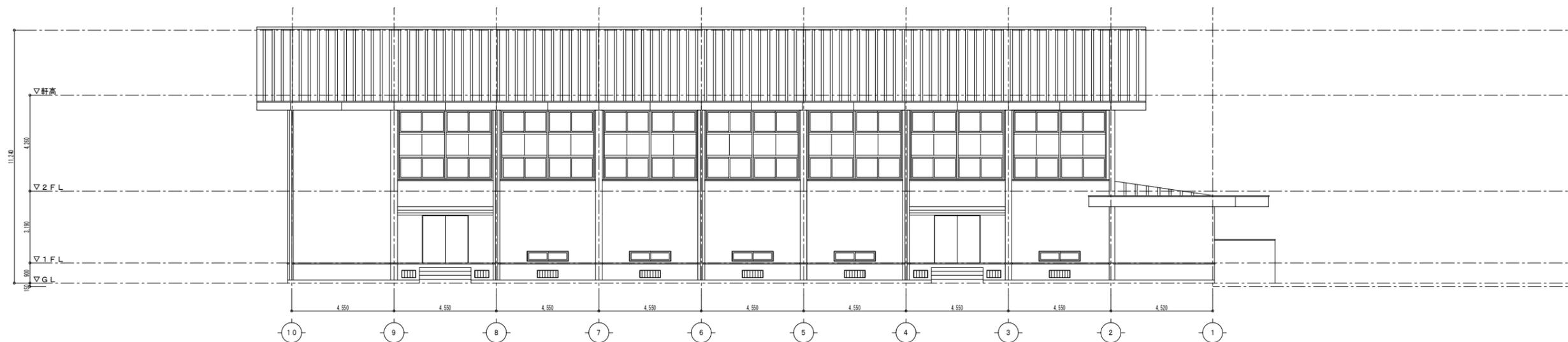


改修前 北側立面図 S=1/100

改修前 南側立面図 S=1/100



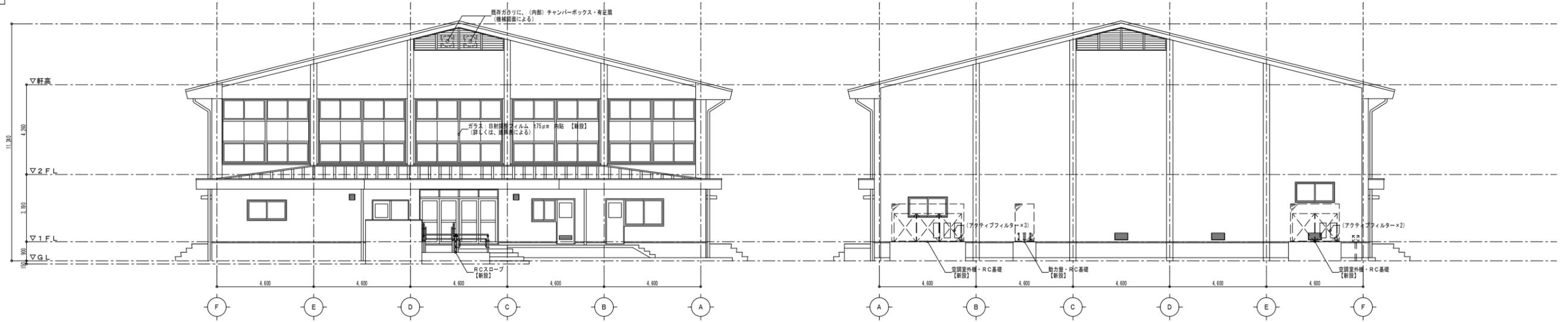
改修前 西側立面図 S=1/100



改修前 東側立面図 S=1/100

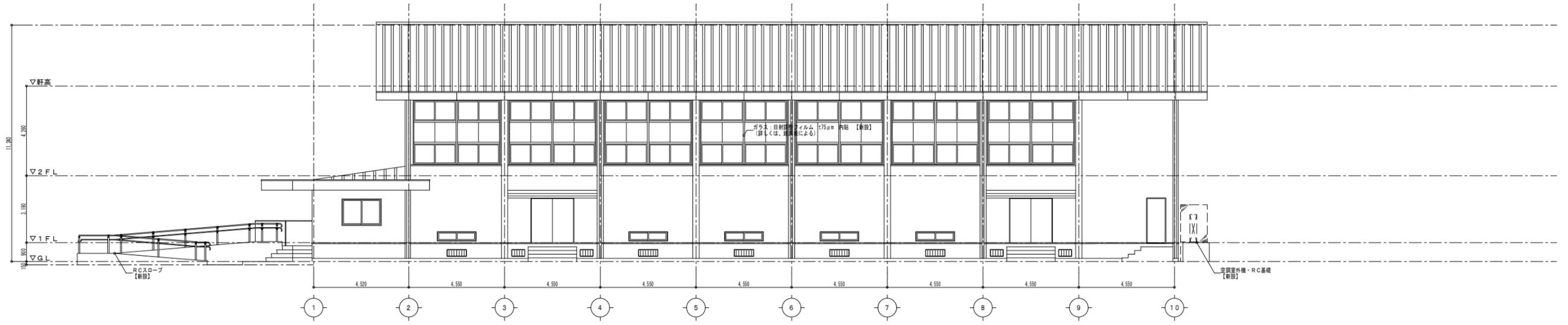
凡例: は、【除去】箇所を示す。
(詳しくは、各詳細図による)

改修後

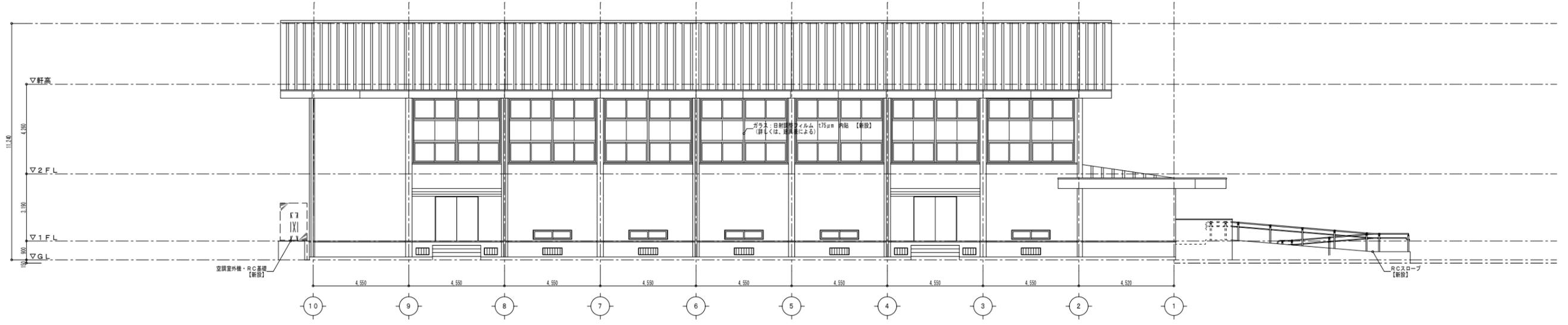


改修後 北側立面図 S=1/100

改修後 南側立面図 S=1/100 (分電盤：自立型・壁掛け型については、電気図参照)



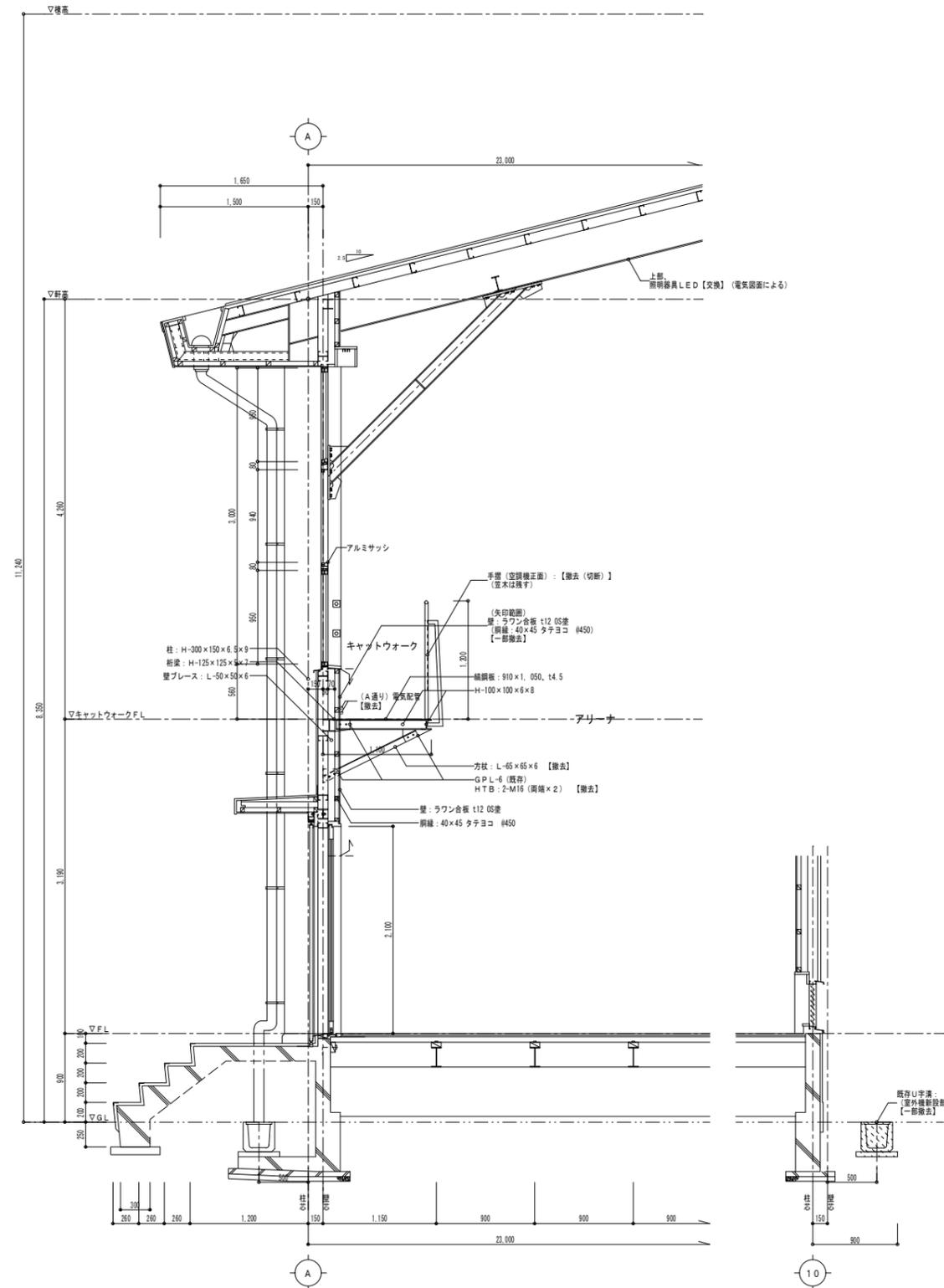
改修後 西側立面図 S=1/100



改修後 東側立面図 S=1/100

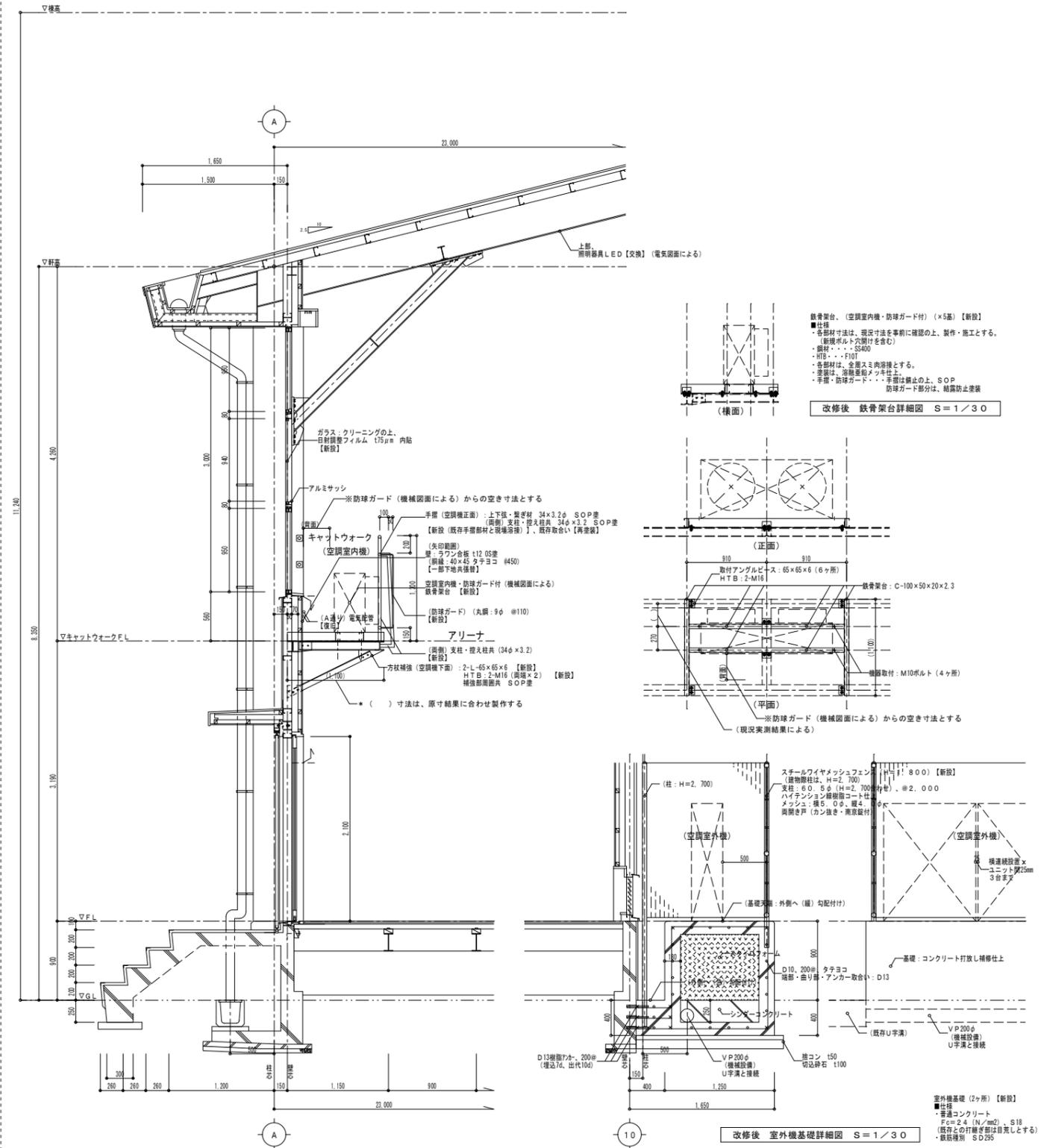
春日部市 学校教育課	豊野小学校外4校避難所空調設備設置工事(牛島小学校)	日付 2025.1.17	図面No. 牛A-16
	改修後 立面図	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	

改修前



改修前 矩計図 S=1/30

改修後



改修後 矩計図 S=1/30

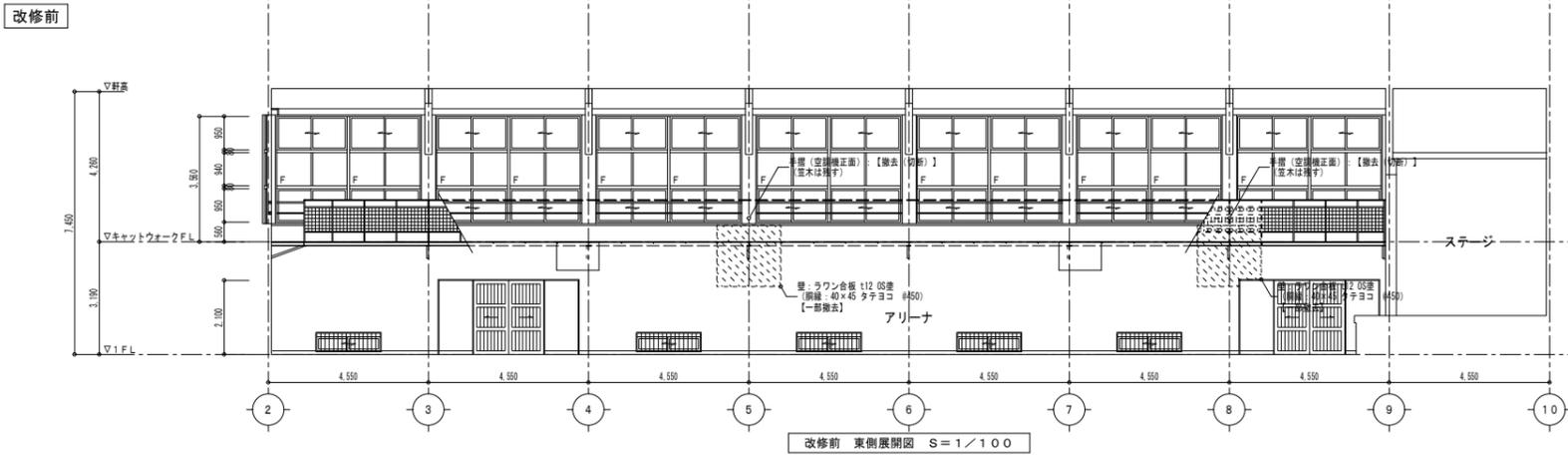
鉄骨梁台、(空調室内機・防球ガード付) (x5基) 【新設】
 ■仕様
 ■各部材寸法は、確認寸法を事前確認の上、製作・施工とする。
 (新設ボルト穴開けを含む)
 ・鋼材: S5400
 ・切欠: S101
 ・各部材は、全周スミ肉溶接とする。
 ・塗装は、防錆塗料メッキ仕上。
 ・手摺・防球ガード...手摺は禁止の上、SOP
 防球ガード部分は、結露防止塗装

改修後 鉄骨梁台詳細図 S=1/30

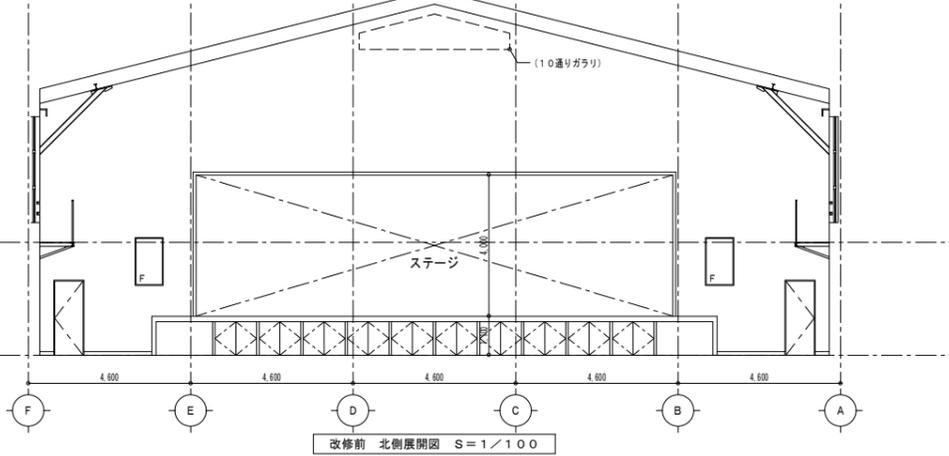
鋼骨梁台: C-100x50x20x2.3
 鋼骨梁台: M10ボルト (4ヶ所)
 ※防球ガード(機械図面による)からの空き寸法とする
 (現況実測結果による)

改修後 室外機基礎詳細図 S=1/30

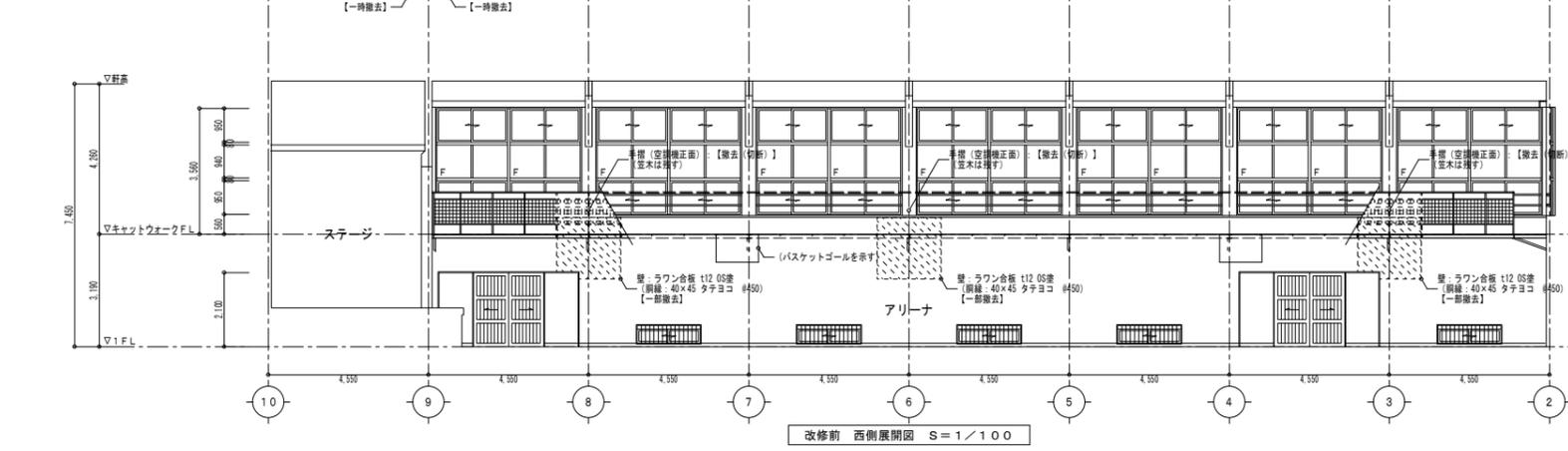
室外機基礎 (2ヶ所) 【新設】
 ■仕様
 ・普通コンクリート
 Fc=24 (N/mm²)、S18
 (既存との打継ぎ部は母洗しとする)
 ・鉄筋規格 S D25



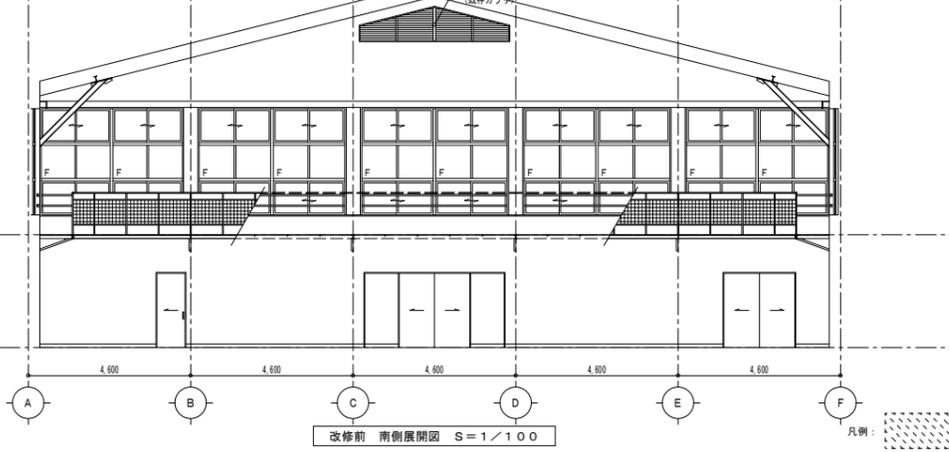
改修前 東側展開図 S=1/100



改修前 北側展開図 S=1/100

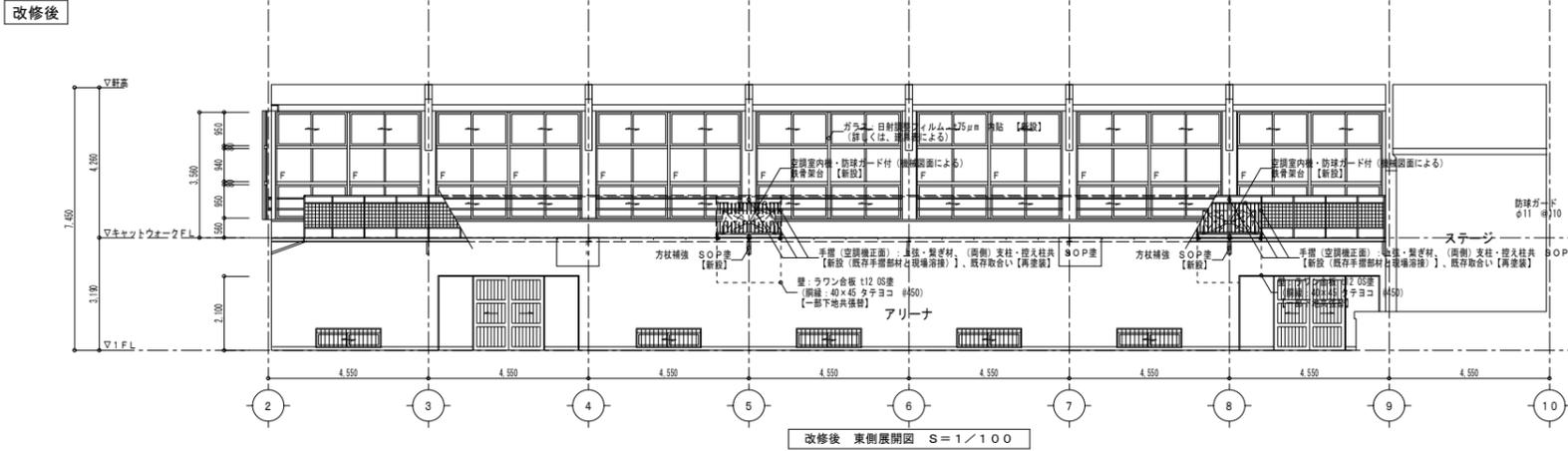


改修前 西側展開図 S=1/100

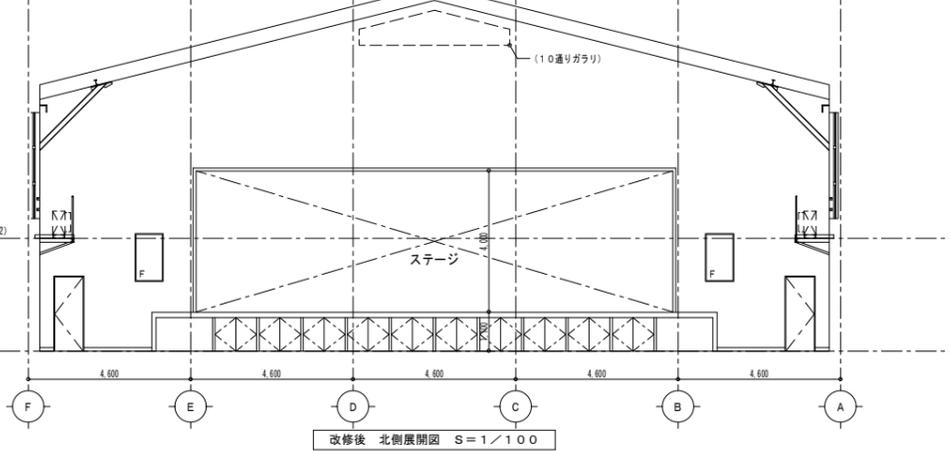


改修前 南側展開図 S=1/100

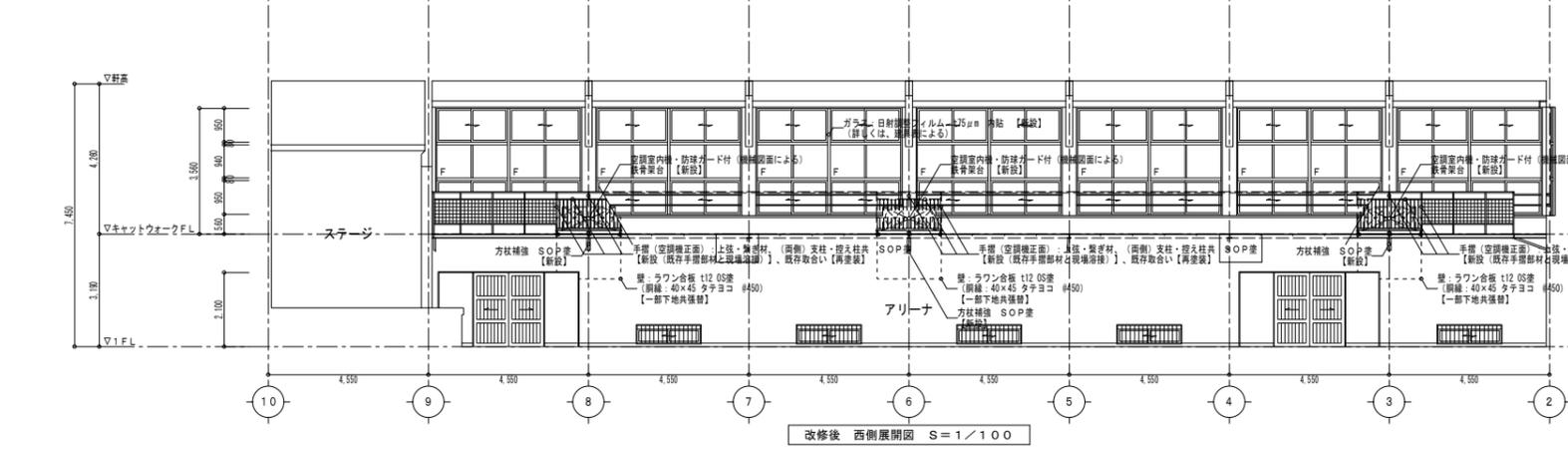
凡例: 〇は、【撤去】箇所を示す。(手摺は、図示)



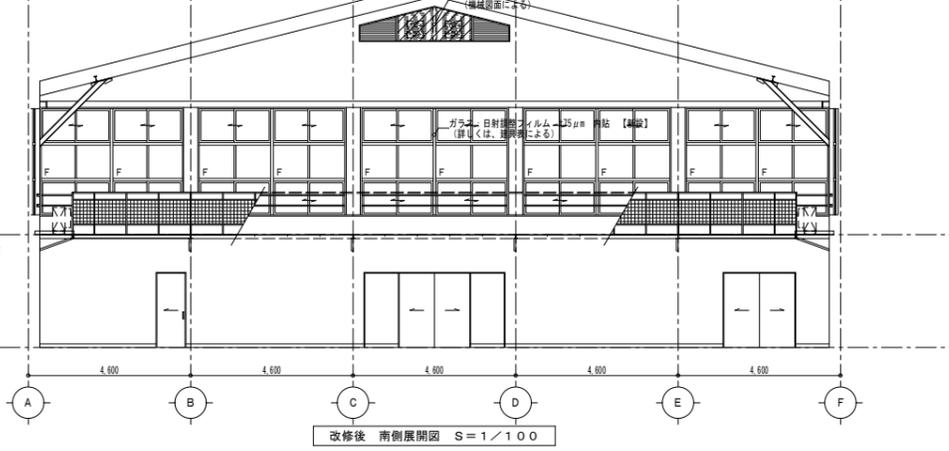
改修後 東側展開図 S=1/100



改修後 北側展開図 S=1/100



改修後 西側展開図 S=1/100

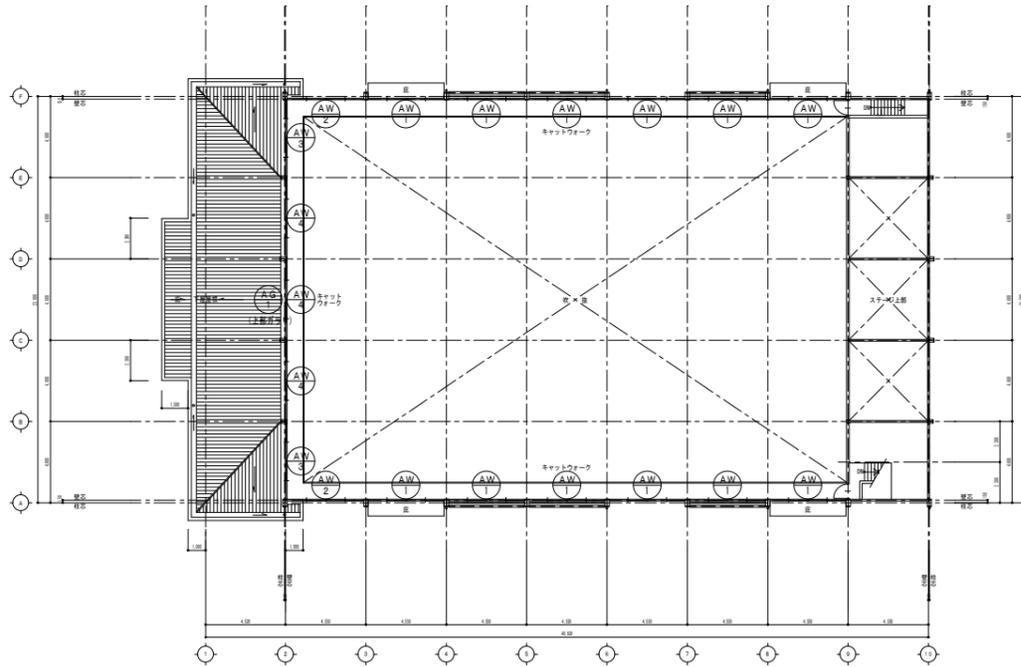


改修後 南側展開図 S=1/100

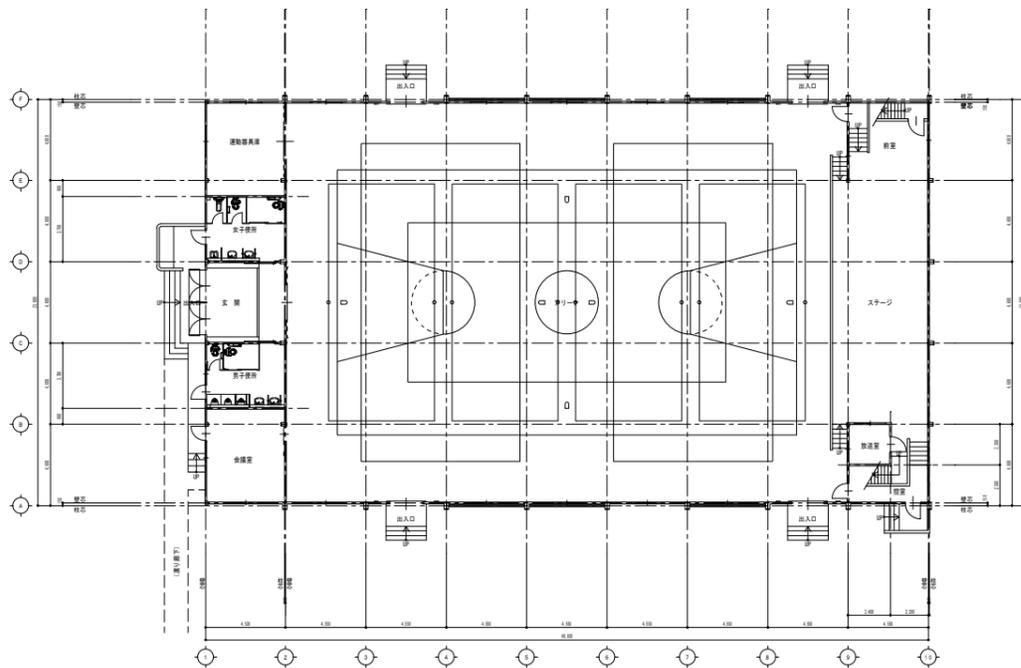
春日部市
学校教育課

日付 2025.1.17
工事名称 豊野小学校外4校避難所空調設備設置工事(牛島小学校)
縮尺 A1: 1/100
A3: 1/200
図面名称 改修前・後 展開図

図面No. 牛A-18



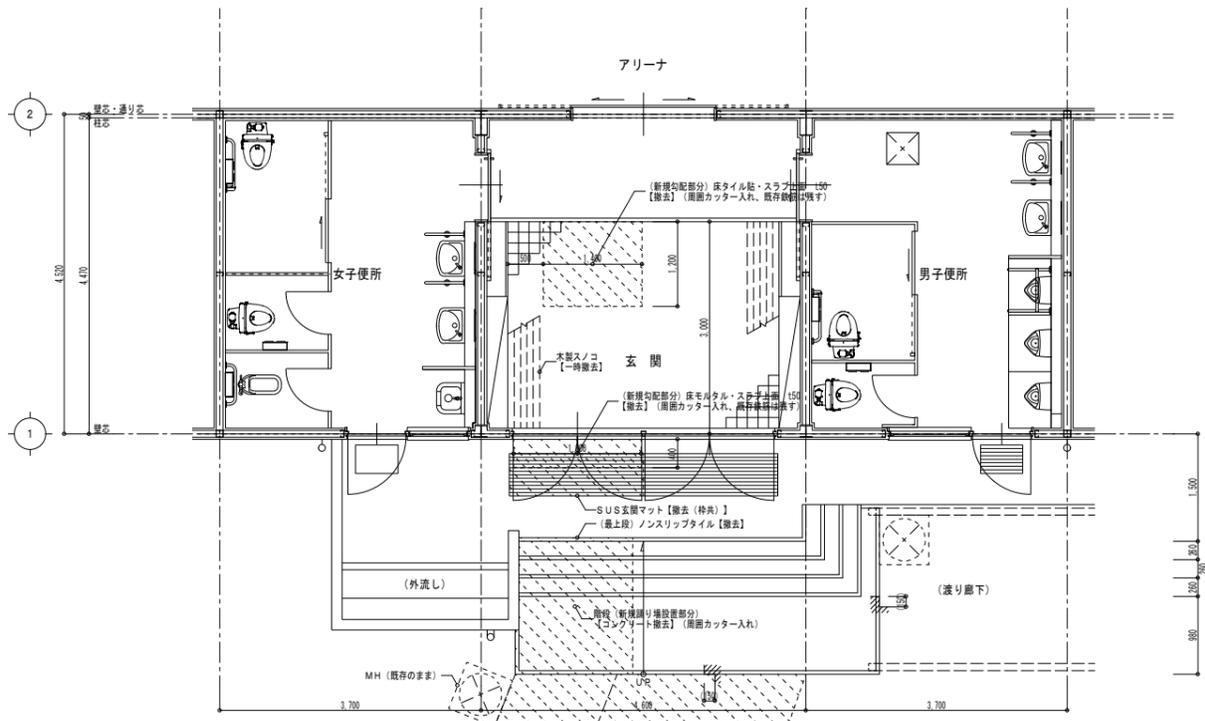
キャットウォーク建具表キープラン S=1/200



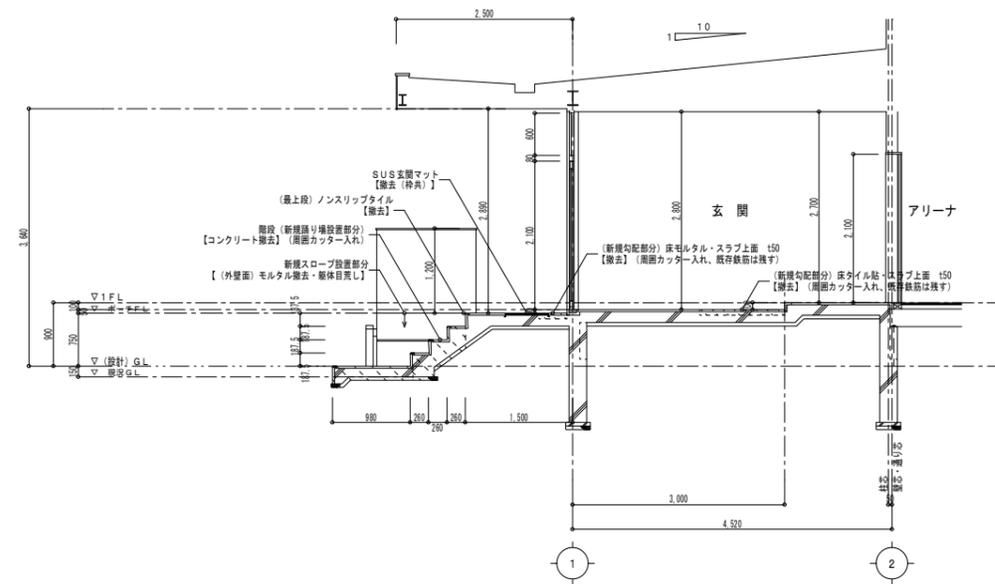
1階建具表キープラン S=1/200

建具表 S=1/100

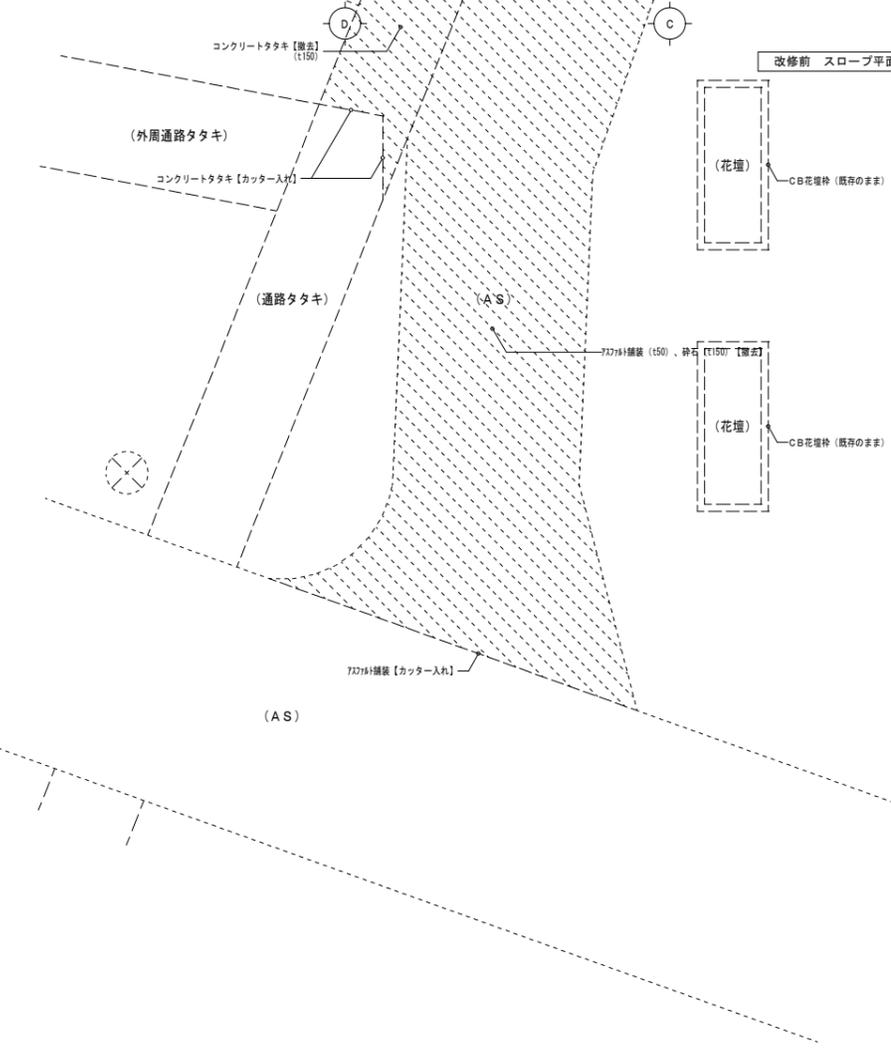
記号・型式	AW1 アルミ製引違い窓・FIX窓	AW2 アルミ製引違い窓・FIX窓	AW3 アルミ製引違い窓・FIX窓	AW4 アルミ製引違い窓・FIX窓
姿 図				
場所・数量	キャットウォーク 12 箇所	キャットウォーク 2 箇所	キャットウォーク 2 箇所	キャットウォーク 3 箇所
仕上・見込	アルミシルバー 70 mm	アルミシルバー 70 mm	アルミシルバー 70 mm	アルミシルバー 70 mm
ガラス	強化透明 t5.0	強化透明 t5.0	強化透明 t5.0	強化透明 t5.0
金物	上段オペレーター付、他標準金物一式	上段オペレーター付、他標準金物一式	上段オペレーター付、他標準金物一式	上段オペレーター付、他標準金物一式
改修内容	ガラス：クリーニングの上、日射調整フィルム 175μm 内貼【新設】 (仕様：透明・遮熱・飛散防止・UVカット・防虫効果・耐摩耗性・電波遮蔽なし)	ガラス：クリーニングの上、日射調整フィルム 175μm 内貼【新設】 (仕様：透明・遮熱・飛散防止・UVカット・防虫効果・耐摩耗性・電波遮蔽なし)	ガラス：クリーニングの上、日射調整フィルム 175μm 内貼【新設】 (仕様：透明・遮熱・飛散防止・UVカット・防虫効果・耐摩耗性・電波遮蔽なし)	ガラス：クリーニングの上、日射調整フィルム 175μm 内貼【新設】 (仕様：透明・遮熱・飛散防止・UVカット・防虫効果・耐摩耗性・電波遮蔽なし) (参考) 日射調整フィルム：3M NANO70S 同等品
記号・型式	AW5 アルミ製ガラリ			
姿 図				
場所・数量	(アリーナ) 上部 1 箇所			
仕上・見込	アルミシルバー 70 mm			
ガラス	-			
金物	アルミガラリ、他標準金物一式			
改修内容	(内部) チャンバーボックス・有圧扉 (機械図面による)			
記号・型式				
姿 図				
場所・数量				
仕上・見込				
ガラス				
金物				
改修内容				
記号・型式				
姿 図				
場所・数量				
仕上・見込				
ガラス				
金物				
改修内容				



改修前 スロープ平面詳細図 S=1/50

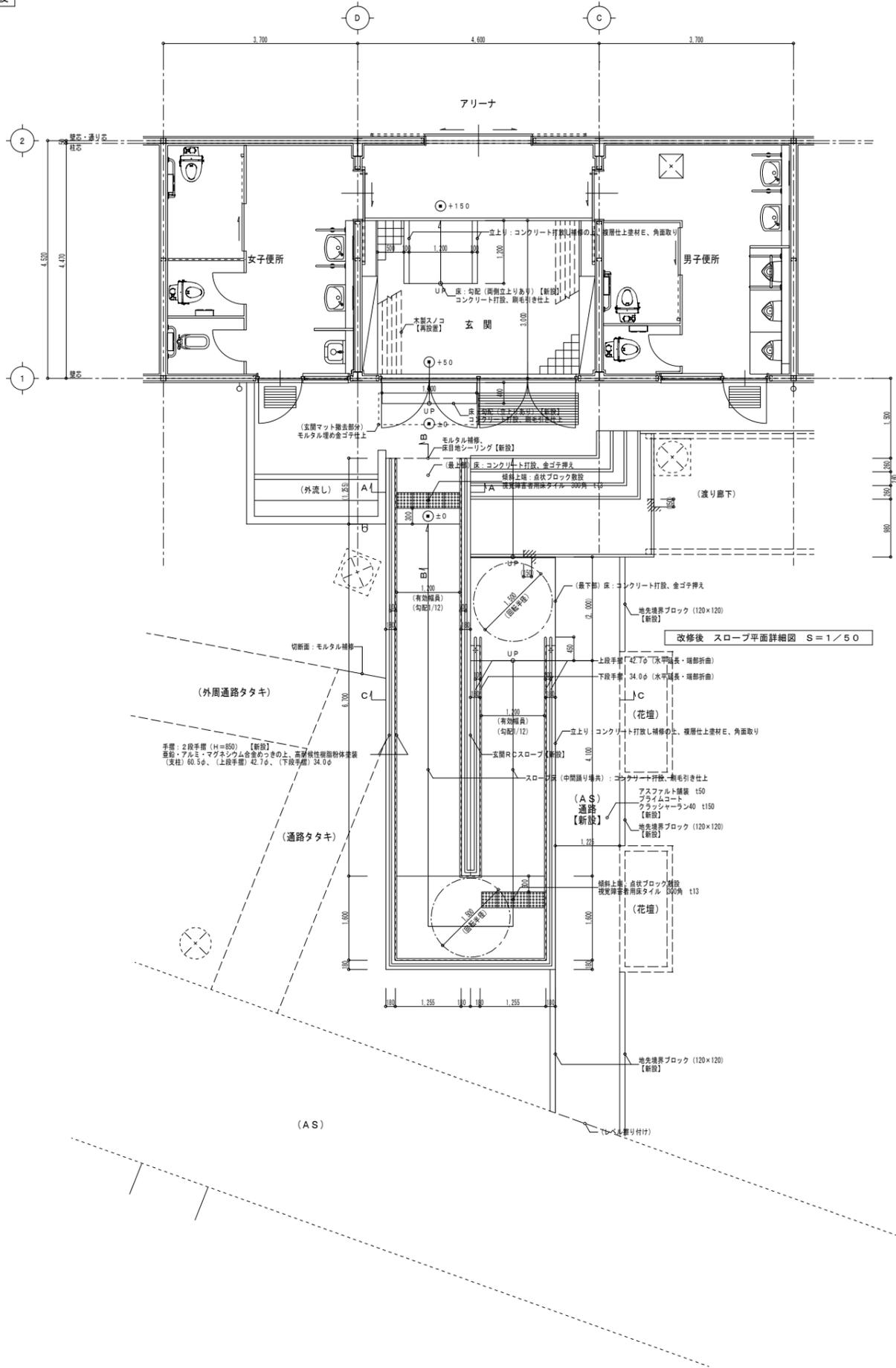


改修前 スロープ断面詳細図 S=1/50

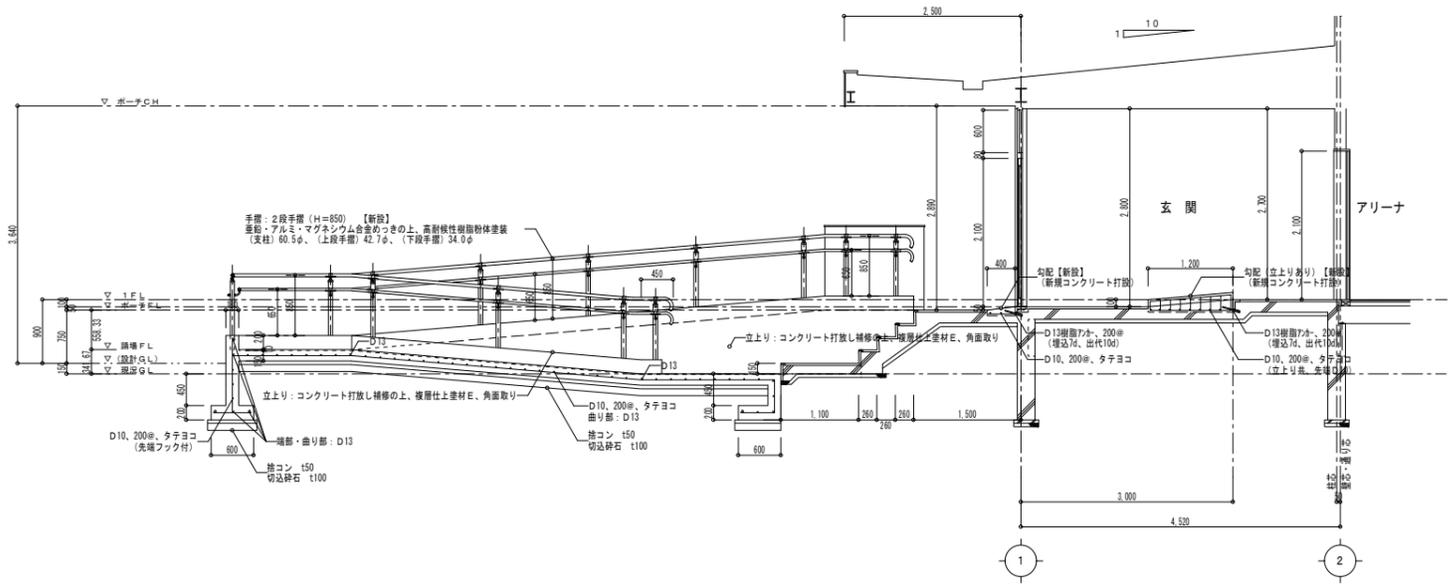


凡例: は、【除去】範囲を示す。

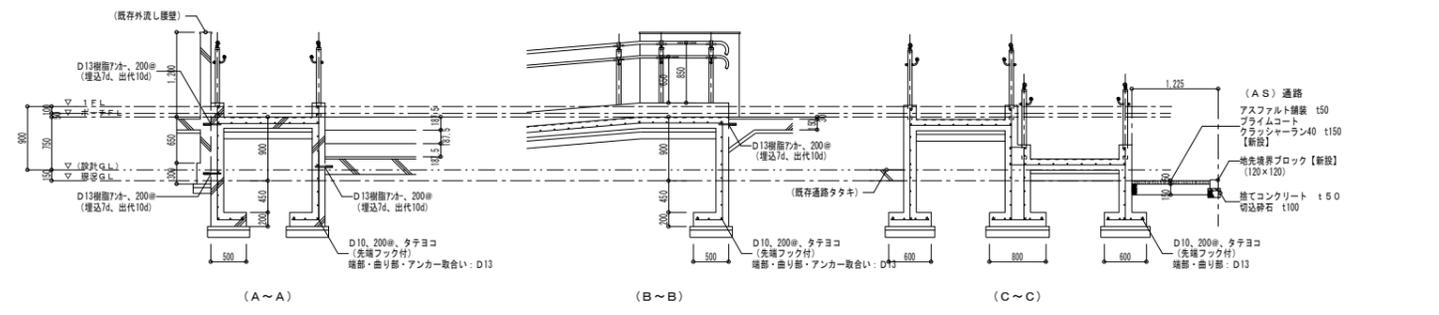
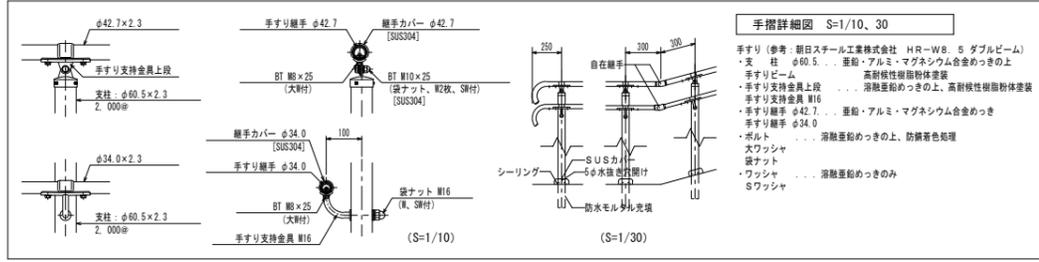
改修後



改修後 スロープ平面詳細図 S=1/50



改修後 スロープ断面図 S=1/50



部分断面図 S=1/50

共通事項:
 コンクリート打設 【新設】
 Fe-24mm/φ2、S13
 (既存との打替は目見とする)
 鉄筋種別 S D295
 図中、各鉄筋・アンカー 【新設】

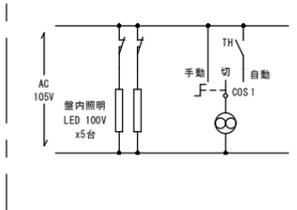
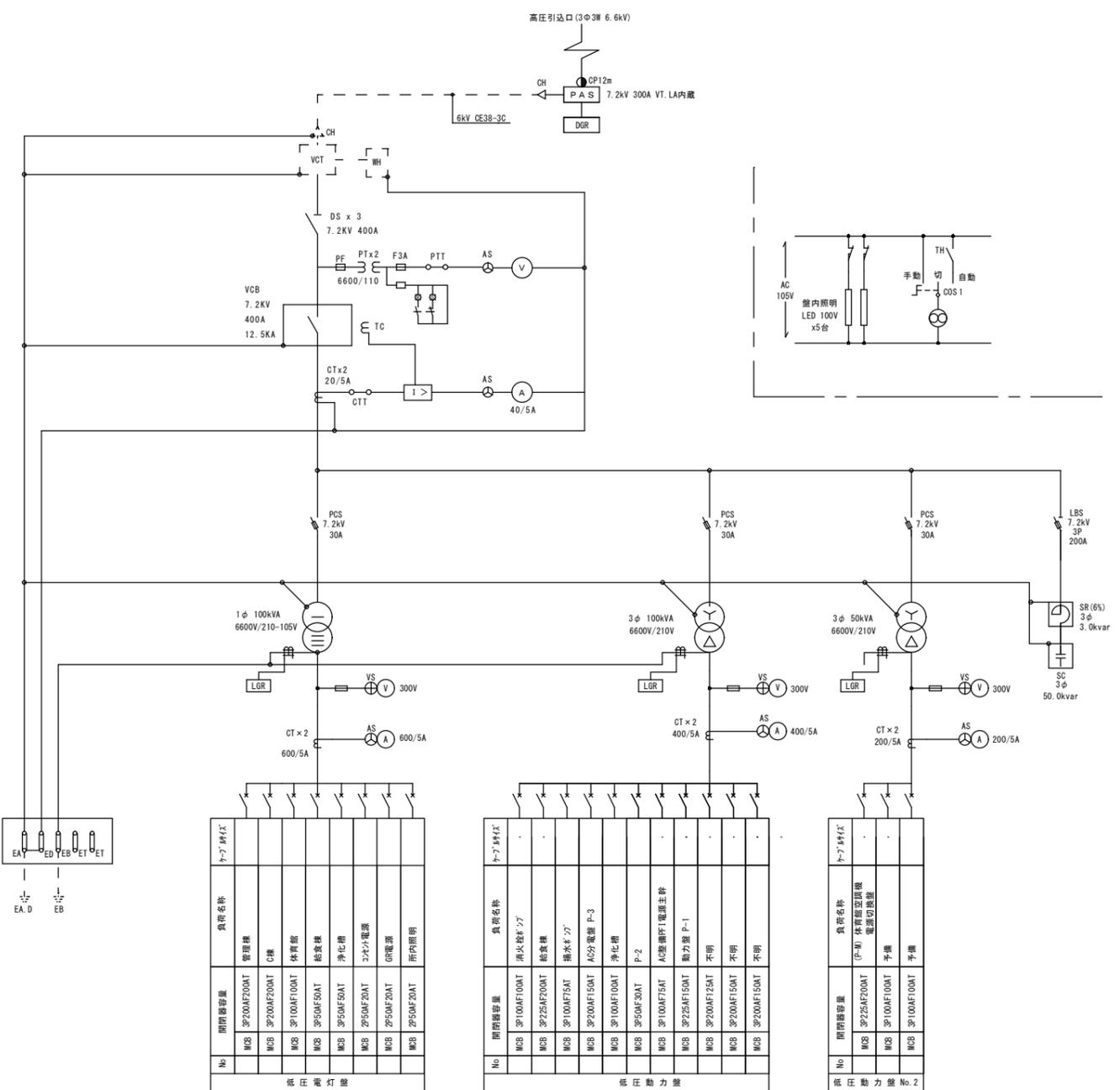
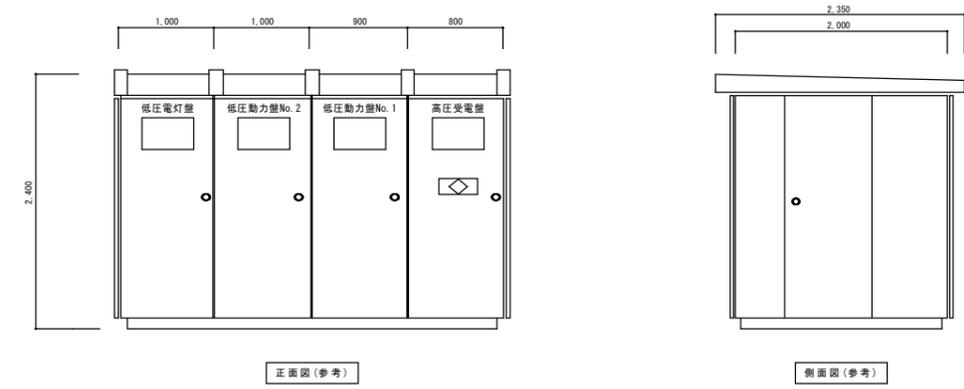
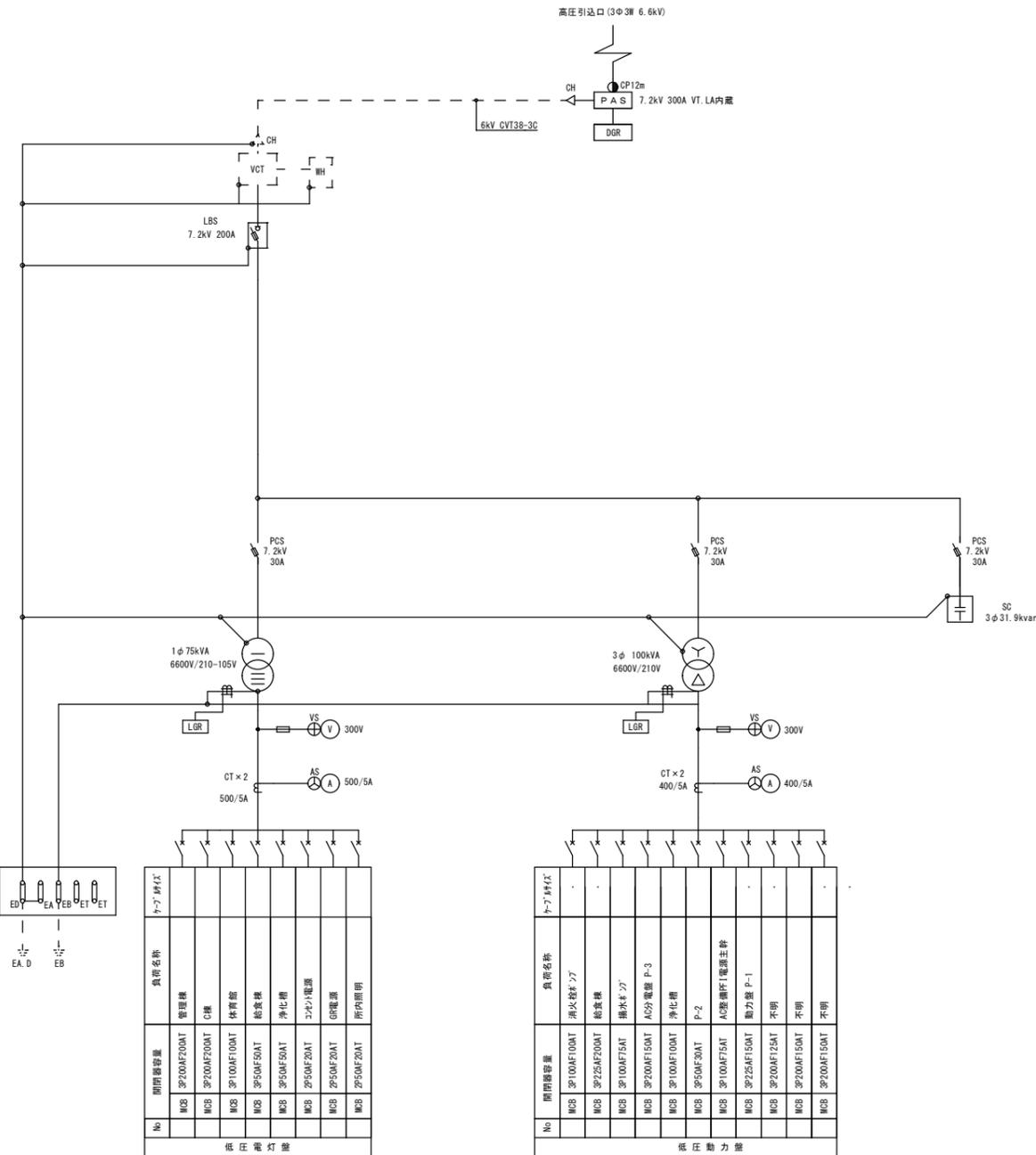
春日部市
 学校教育課

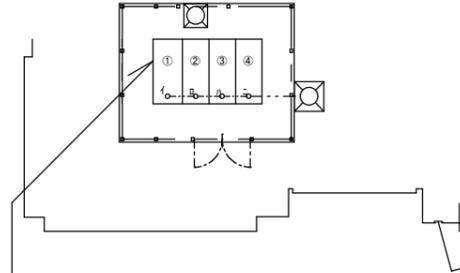
日付 2025.1.17
 工事名称 豊野小学校外4校避難所空調設備設置工事(牛島小学校)
 編尺 1/50、30、10
 A2:1/100、60、20
 図面名称 改修後 スロープ詳細図

図面No. 牛A-21

改修前

改修後

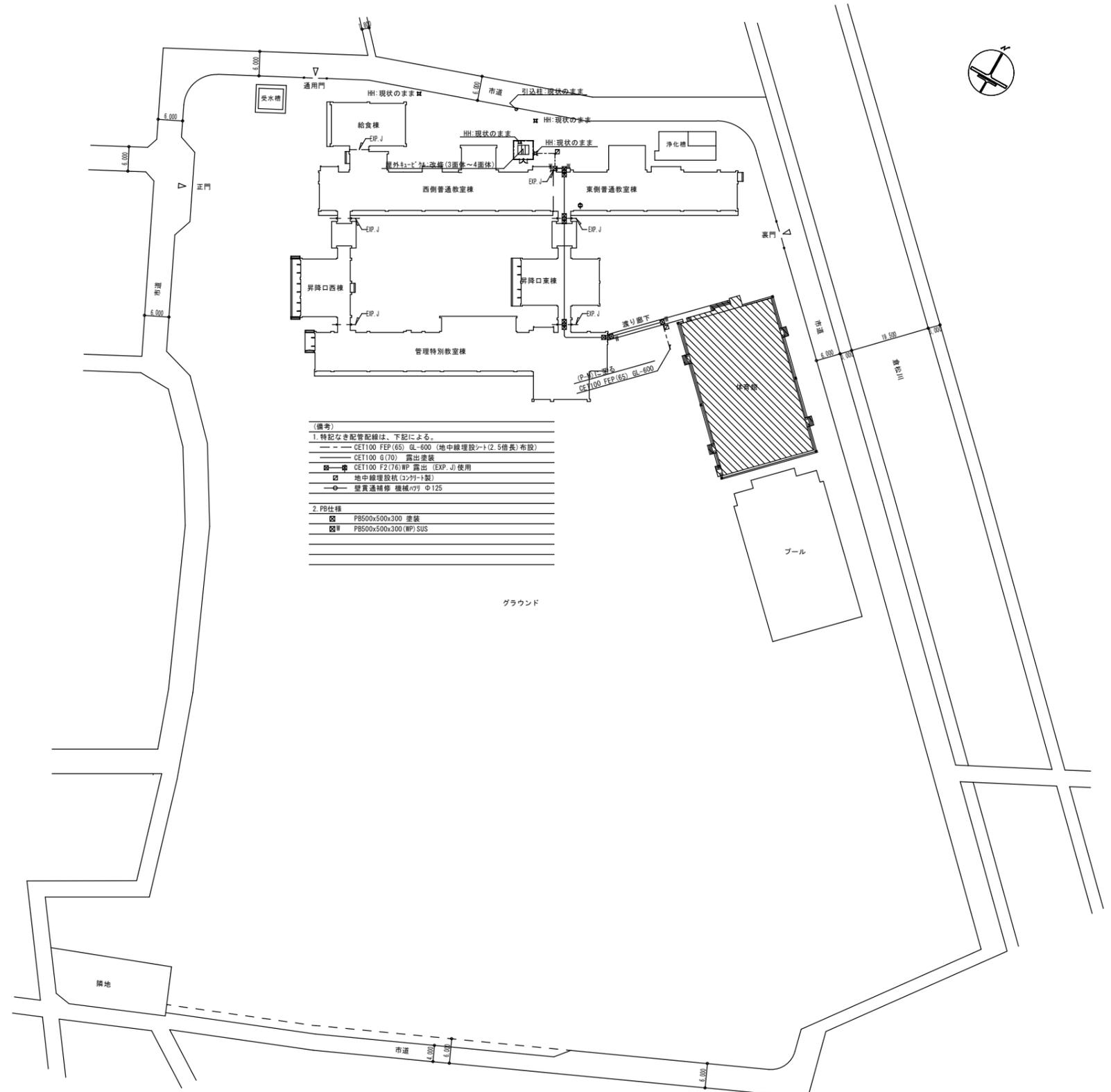
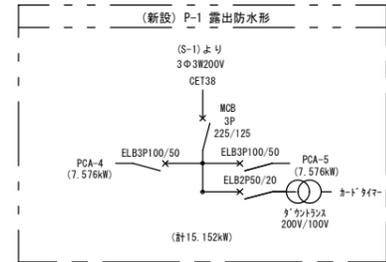
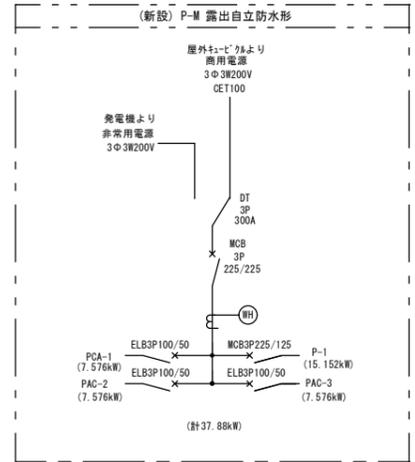




- ※ 屋外キュービクル新設内訳
- ④ 低圧電灯盤
 - ③ 低圧動力盤 No.2
 - ② 低圧動力盤 No.1
 - ① 高圧受電盤
- 屋外キュービクル撤去(3面体)
 屋外キュービクル新設(4面体)
 基礎工事・建築工事
 フォス工事・建築工事

※ 屋外キュービクルの撤去新設に伴う各負荷配線ケーブル延長を行う
 (4) (高圧ケーブル) 6kV CVT38キュービクル内、端処理材の撤去新設

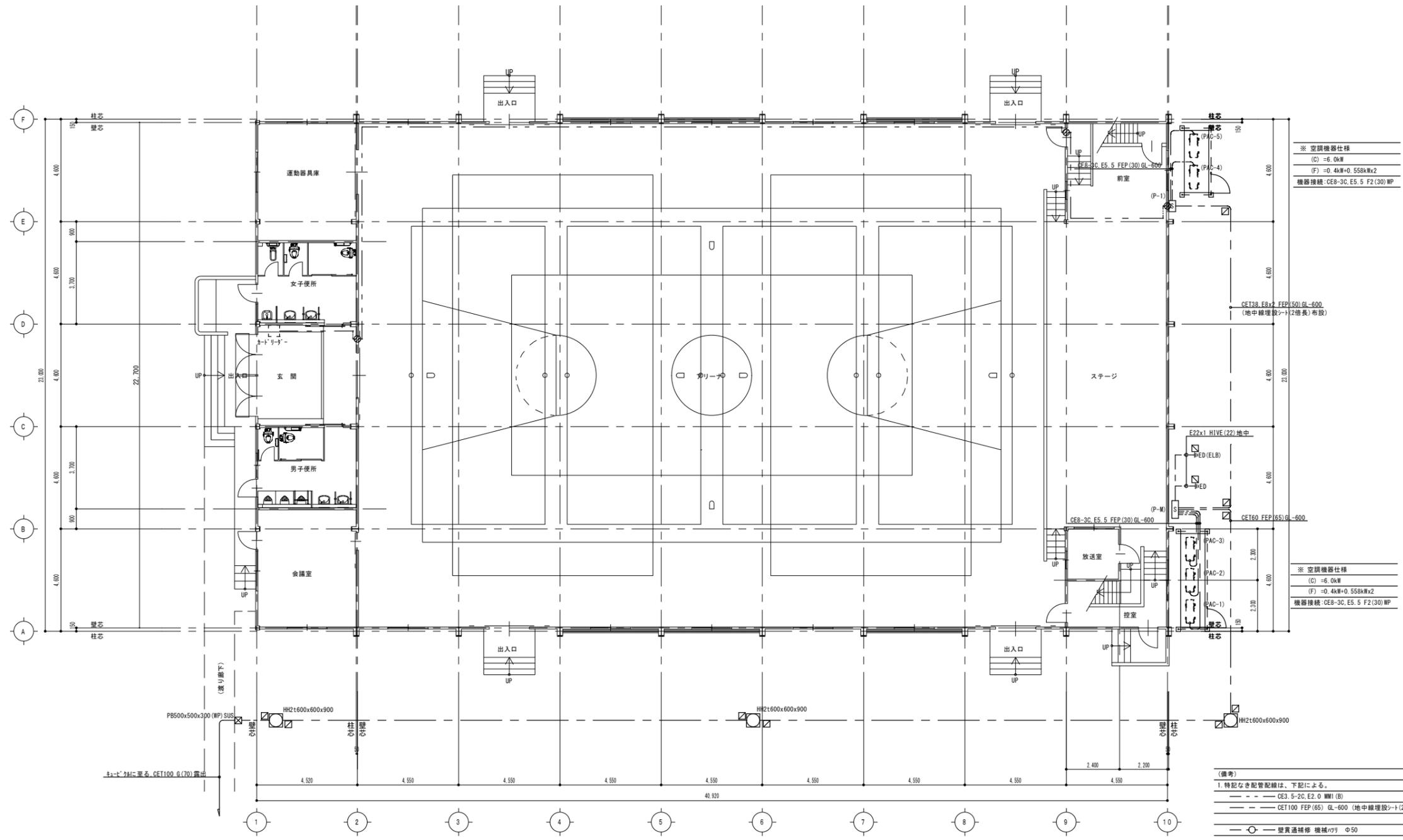
(a) 給食棟	CET100	キュービクル内
消火栓ポンプ	FP-C38-3C	キュービクル内
揚水ポンプ	CET38	キュービクル内
P-3 AG分電盤	CET60	キュービクル内
浄化槽	CET38	キュービクル内
P-2	CER-3C	キュービクル内
エアコン設備PF1電源主幹	CET38	キュービクル内
動力盤P-1	CET60	キュービクル内
不明	CET38	キュービクル内
(b) P-M	CET100	キュービクル内
(c) 管理棟	CET100	キュービクル内
C棟	CET100	キュービクル内
体育館	CET38	キュービクル内
給食棟	CET14	キュービクル内
浄化槽	CET14	キュービクル内
エアコン電源	CE5_5-2C	キュービクル内
GRY電源不明	CE5_5-2C	キュービクル内
FL電源	CE5_5-2C	キュービクル内



- (備考)
- 特記なき配管配線は、下記による。
 - ET100 FEP(65) GL-600 (地中埋設シト(2.5倍長)布設)
 - ET100 G(70) 露出配線
 - ET100 F2(76)WP 露出 (EXP-J) 使用
 - 地中埋設配管(コブライト製)
 - 壁貫通補修 機種(ワ) Φ125
 - PB仕様
 - PB500x500x300 塗装
 - PB500x500x300(WP) SUS

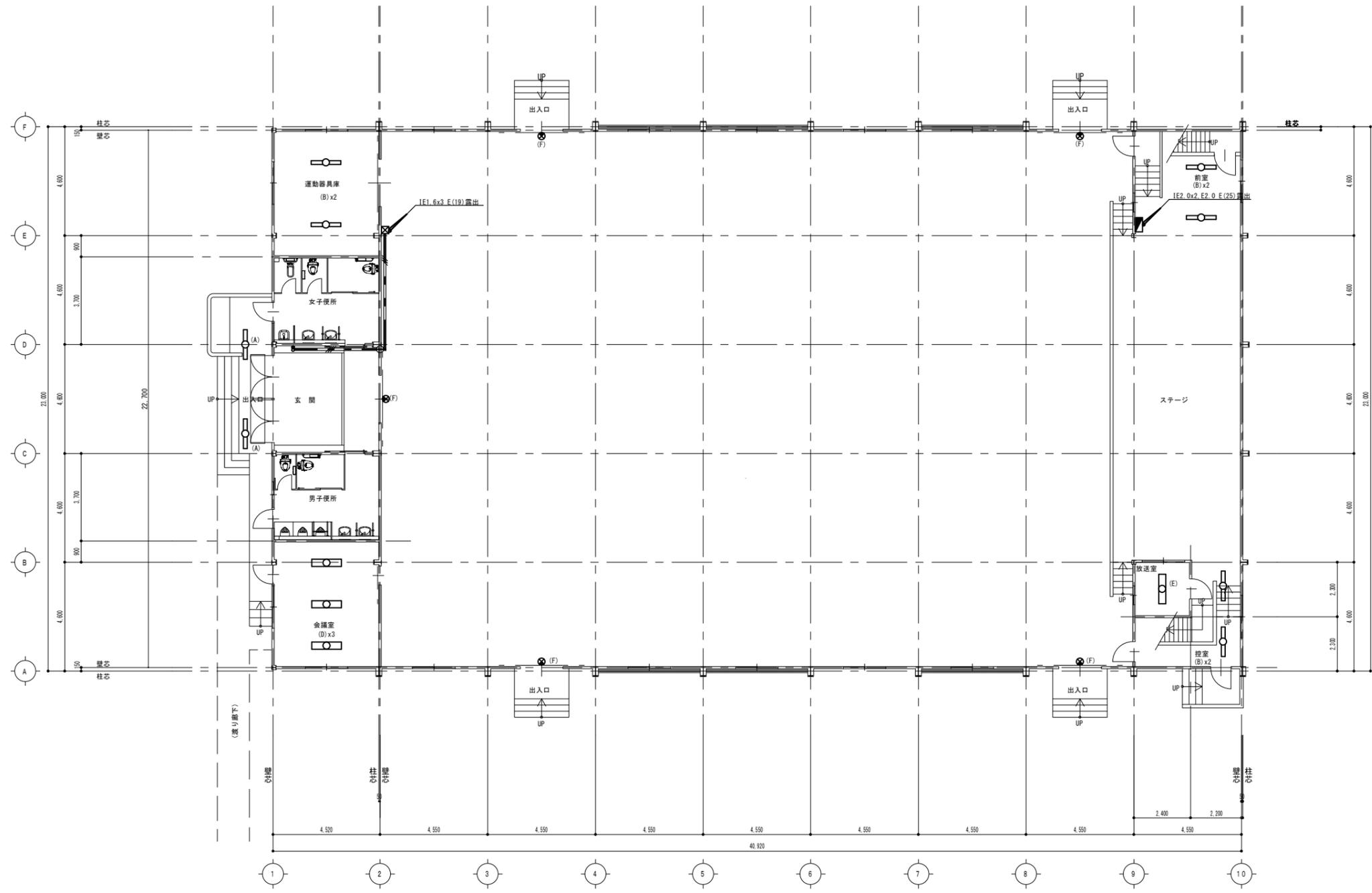
配置図 S=1/600

凡例: は、工事箇所を示す。



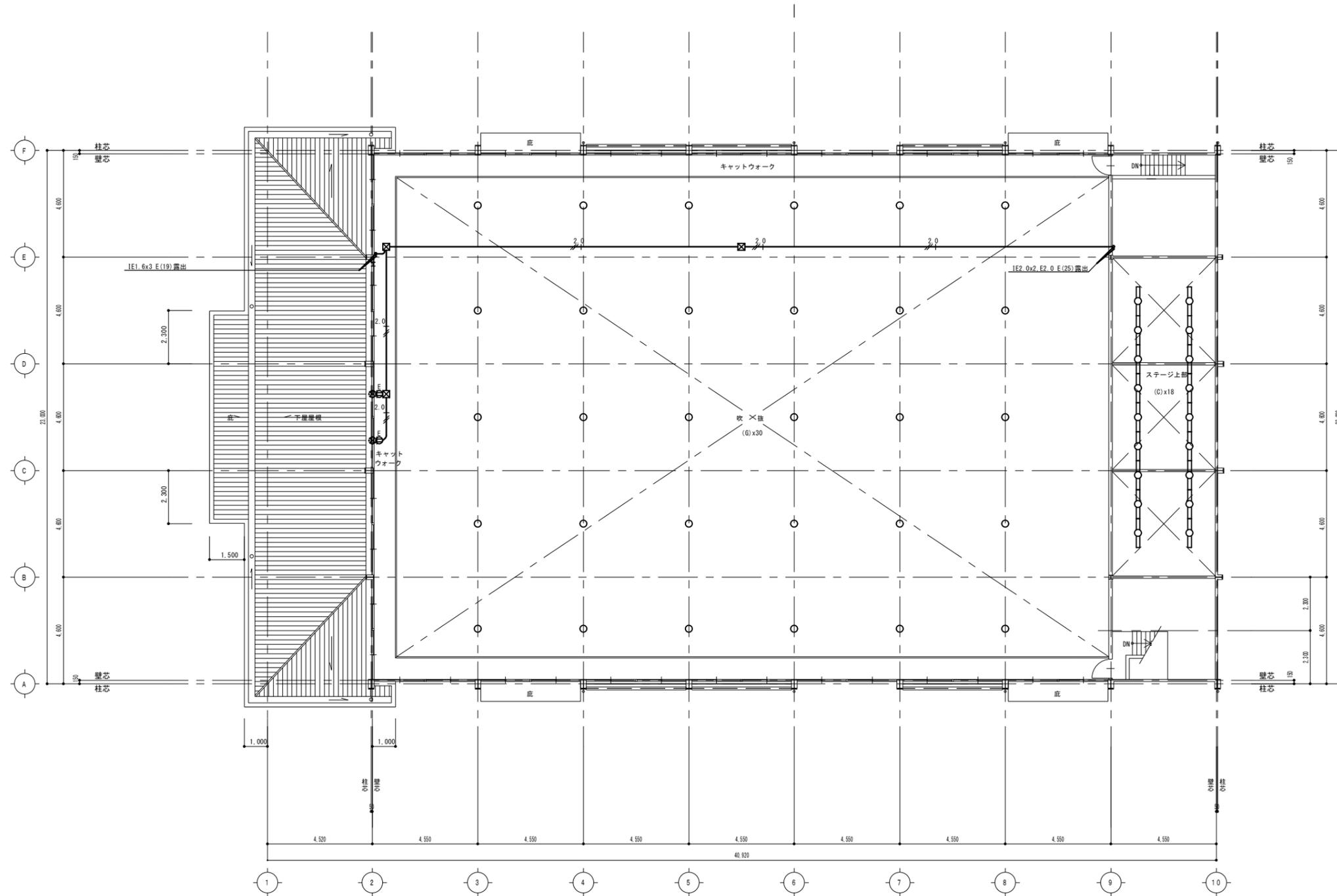
改修前 1階平面図 S=1/100

- (備考)
- 特記なき配管配線は、下記による。
 - - - CE3, 5-2C, E2, 0 MM1 (B)
 - - - CET100 FEP (65) GL-600 (地中線埋設シート(2倍長)布設)
 - ○ - 壁貫通補修 機械口径 φ50
 - ☑ 地中線埋設機・埋地埋設機(コンクリート製)

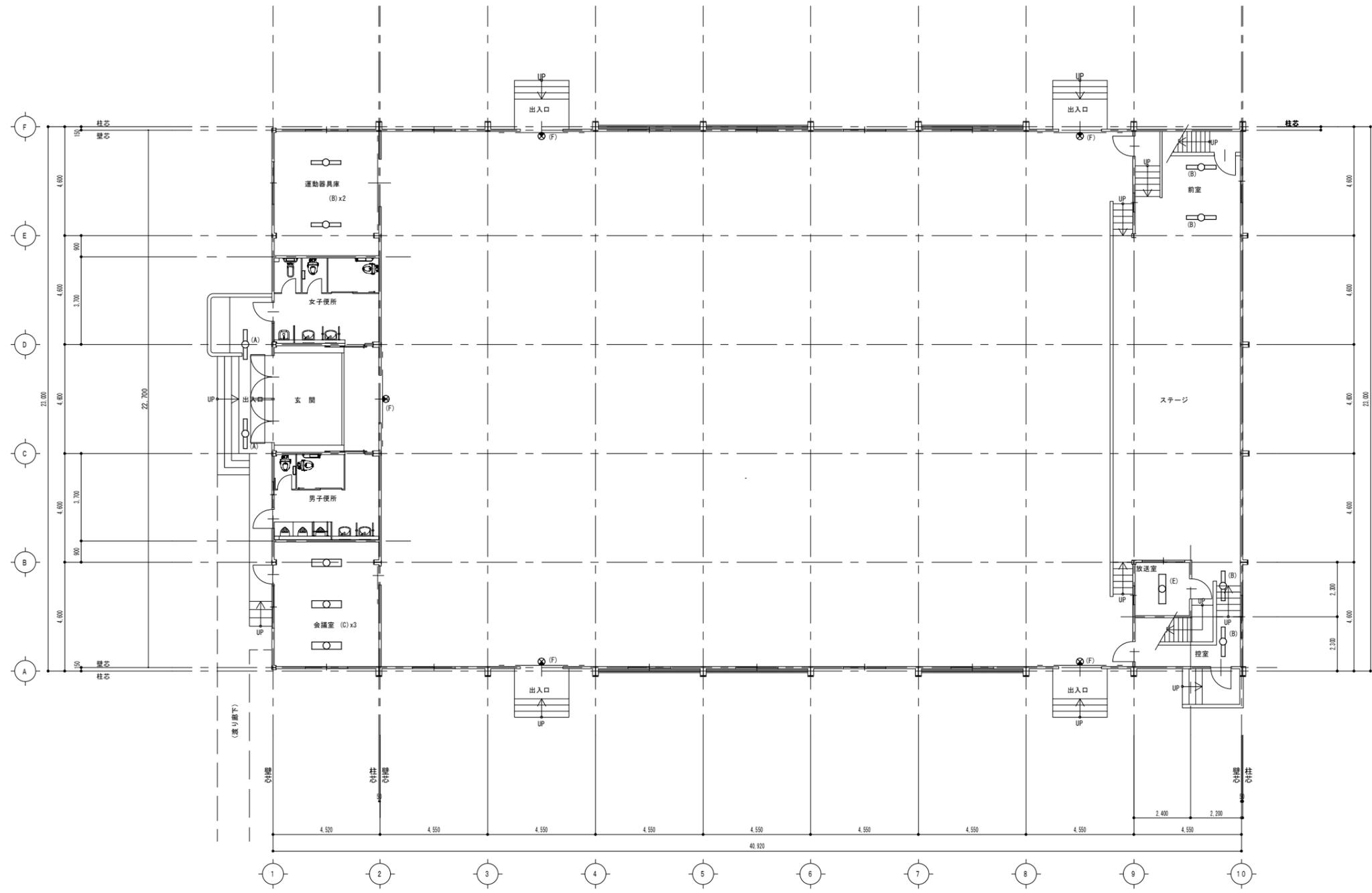


- (備考)
- 特記なき配管配線は、下記による。
 - IE1. 6x3 E (19) 露出
 - IE2. 0x2, E2. 0 E (25) 露出
 - EEF1. 6-3C MM1 (A)
 - 壁貫通補修 機械呼び φ50
 - PB150x150x100
2. 配線器具凡例
- 増込スイッチ 1P15Ax1+PLx1
 - 増込コンセント 2P15Ax1, E付
 - 壁換気扇 (機械設備工事)
3. 新設照明器具は、姿図を参照のこと。

改修後 1階平面図 S=1/100



キャットウォーク平面図・下層伏図 S=1/100

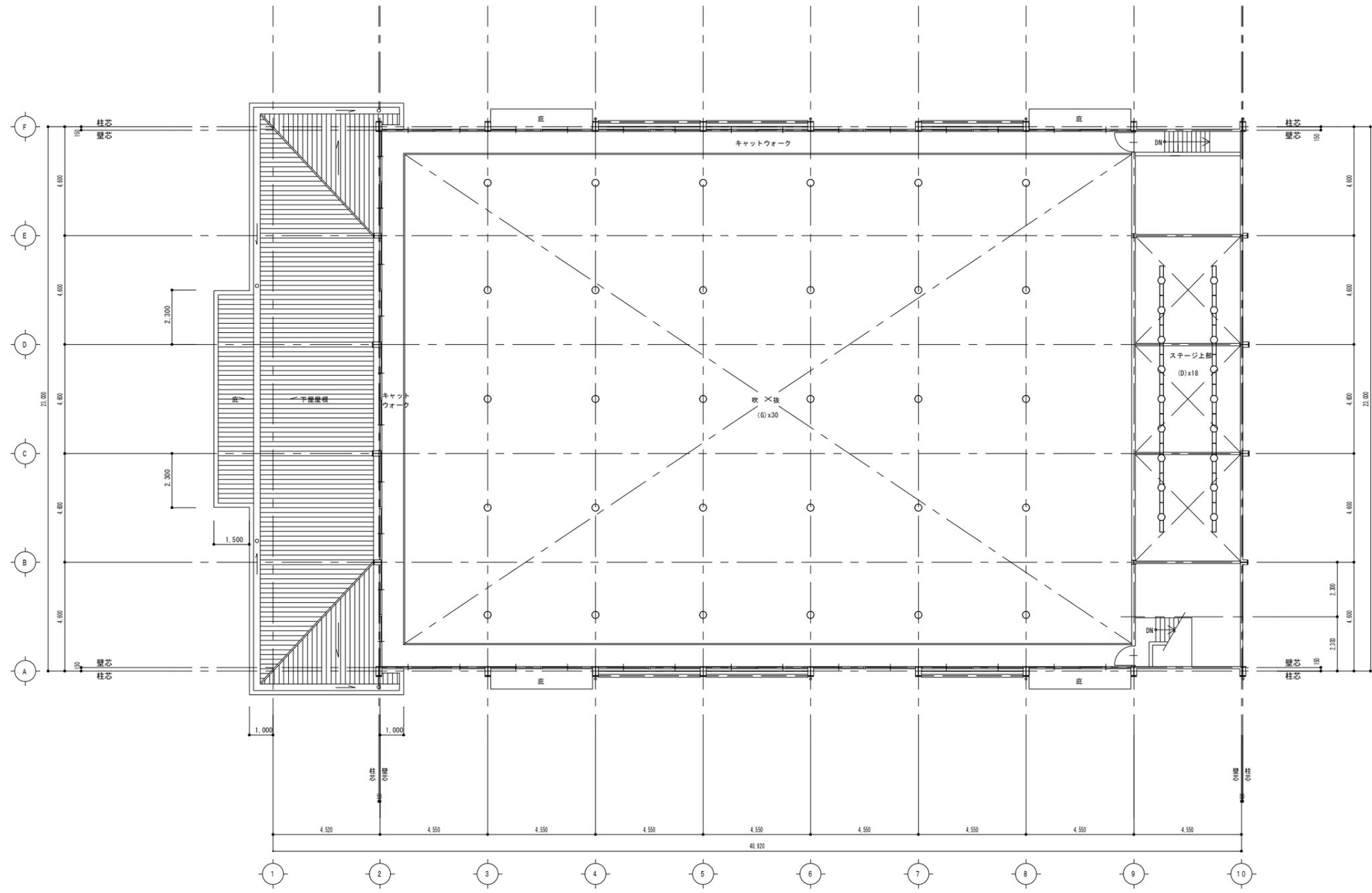


改修前 1階平面図 S=1/100

(備考)

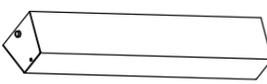
1. 照明器具凡例

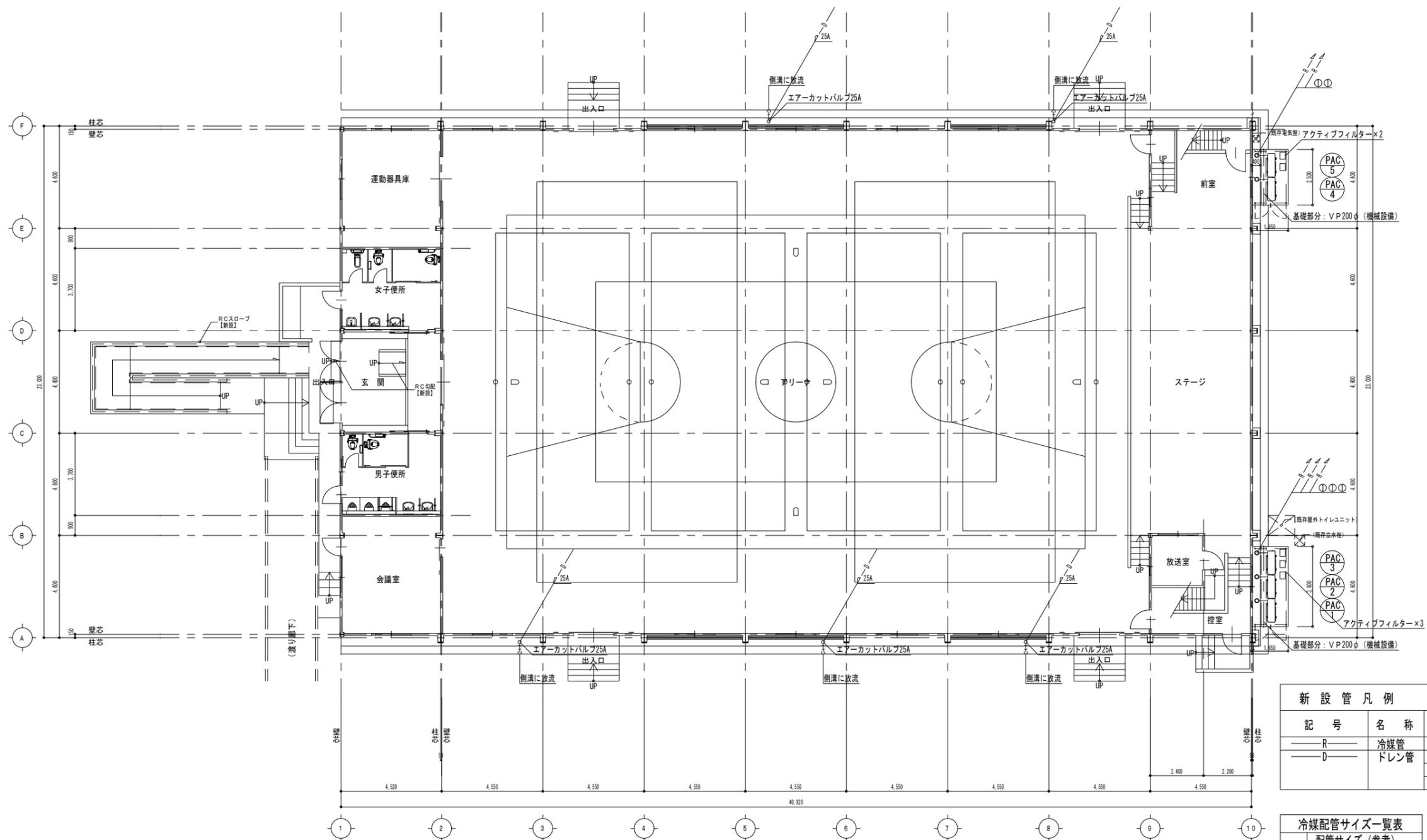
(A) 天井直付 FL40Rx1 防水	: 撤去再使用しない
(B) 天井直付 FL40Rx1	: 撤去再使用しない
(C) 天井直付 FL40Rx2	: 撤去再使用しない
(D) 天井直付 FL40Rx1	: 撤去再使用しない
(E) 天井直付 FL40Rx2	: 撤去再使用しない
(F) 誘導灯 小型 ｶﾞｰﾄﾞ付	: 撤去再使用しない
(G) 天井直付 HID400W 電動昇降付	: 撤去再使用しない



改修前 キャットウォーク平面図・下層伏図 S=1/100

春日部市 学校教育課	日付 2025.1.17	工事名称 豊野小学校外4校避難所空調設備設置工事(牛島小学校)	図面No. 牛E-09
	縮尺 A1: 1/200 A3: 1/200	図面名称 改修前 キャットウォーク平面図・下層伏図 電灯設備	

(新設) 照明器具姿図			
A	(LED) 2,980lm 28.7W	D (LED) 5,200lm 43.0W	G (LED) 22,000lm 114.0W
 <p>LBF3MP/RP-4-26</p>		 <p>LSS9-4-48</p>	
 <p>LSS9-4-30</p>		 <p>LSS9-4-65</p>	
C	(LED) 4,000lm 24.8W	F (LED) 避難口誘導灯B級形 片面ｶﾞｰﾄﾞ付	
 <p>LSS9-4-37</p>		 <p>SH1-FSF20-BL+ｶﾞｰﾄﾞ</p>	



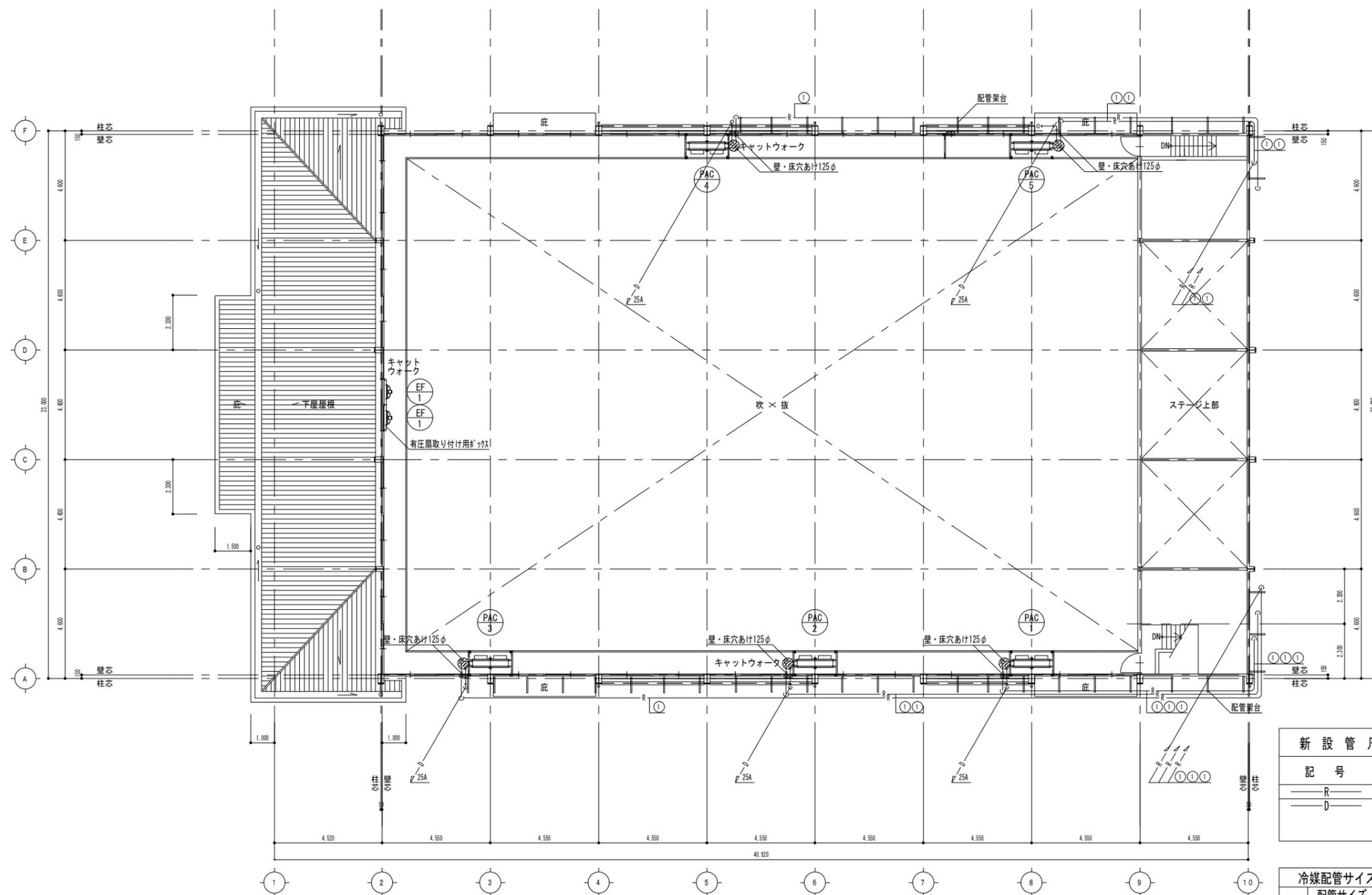
改修後 1階平面図 S=1/100

記号	名称	施工区分	仕様
R	冷媒管	露出・架空	断熱材付冷媒用銅管
D	ドレン管	屋内露出	保温機能付空調用ドレン管 (VP)
		屋外架空	硬質ポリ塩化ビニル管 (カラーVP)
		地中埋設	硬質ポリ塩化ビニル管 (VP)

記号	配管サイズ (参考)	
	液側	ガス側
①	12.7φ	25.4φ

電源ケーブル：EM-CE2-3C
リモコンケーブル：EM-CEES1.25-2C

- 特記事項
- 冷媒管は屋内：ガルバリウム鋼板、屋外：ステンレス製カバーとする。
 - 室内機取り付け用架台は建築工事とする。
 - 有圧扇EF-11は既存ガラリにチャンバーボックス取り付け設置する。



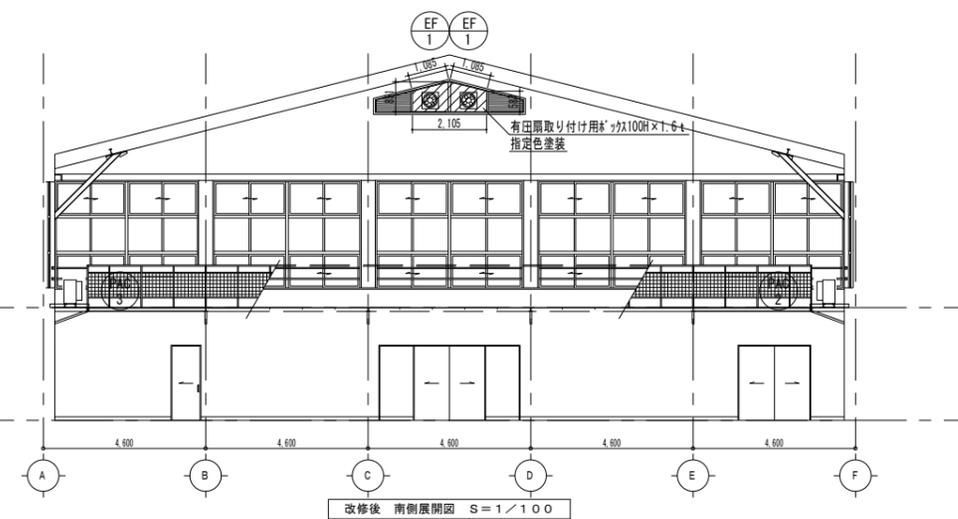
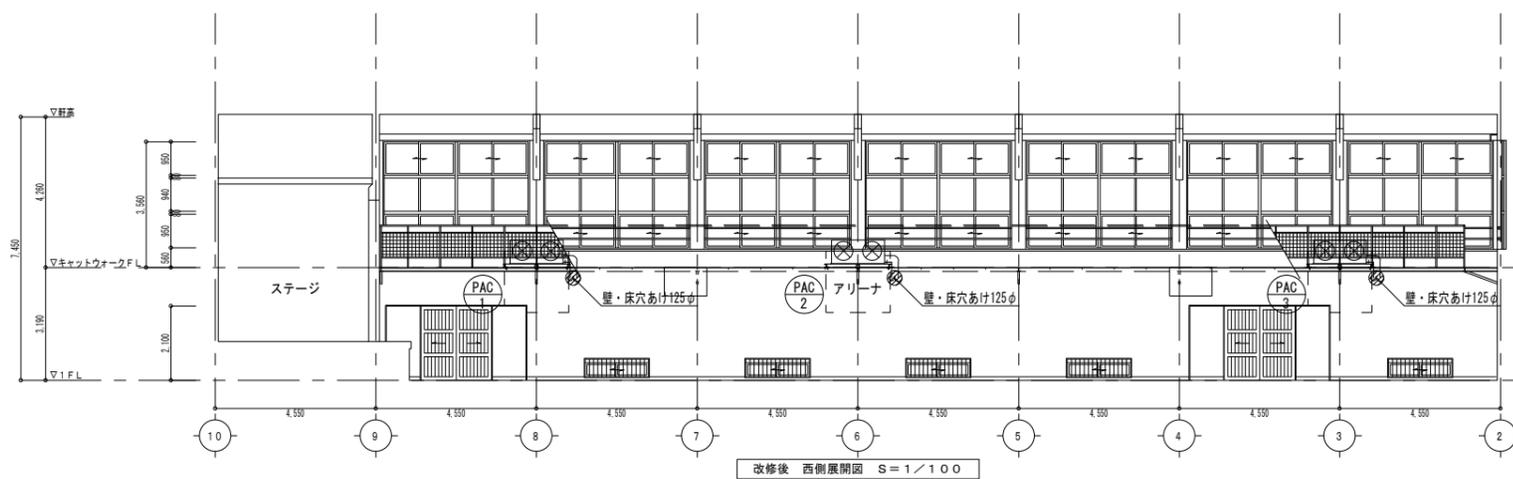
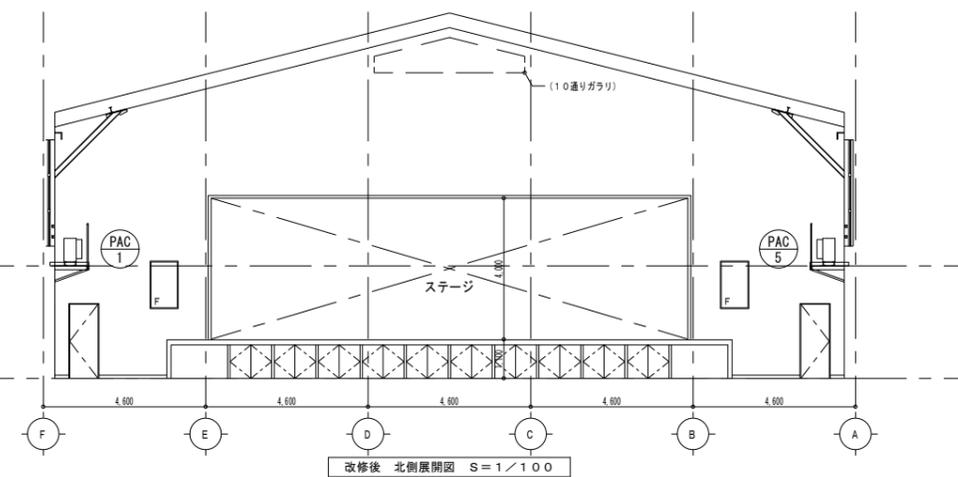
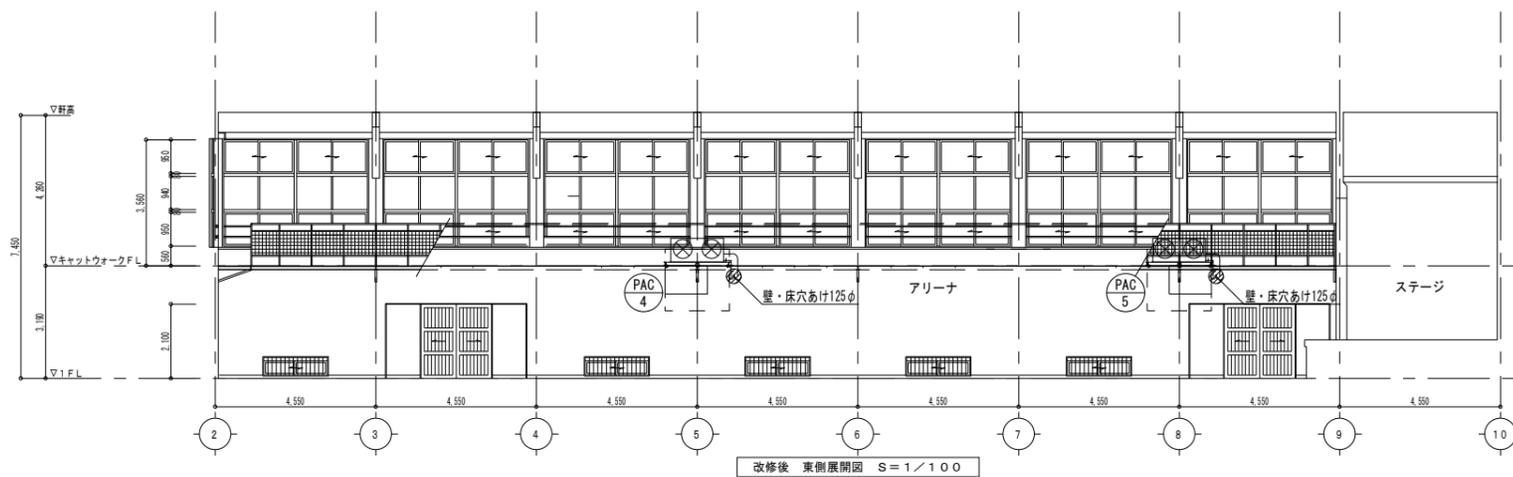
改修後 キャットウォーク平面図・下屋伏図 S=1/100 *空調室内機×5台【新設】

新設管凡例			
記号	名称	施工区分	仕様
R	冷媒管	露出・架空	断熱材付冷媒用銅管
D	ドレン管	屋内露出	保温機能付空調用ドレン管 (VP)
		屋外架空	硬質ポリ塩化ビニル管 (カラーVP)
		地中埋設	硬質ポリ塩化ビニル管 (VP)

冷媒配管サイズ一覧表		
記号	配管サイズ (参考)	
	液側	ガス側
①	12.7φ	25.4φ

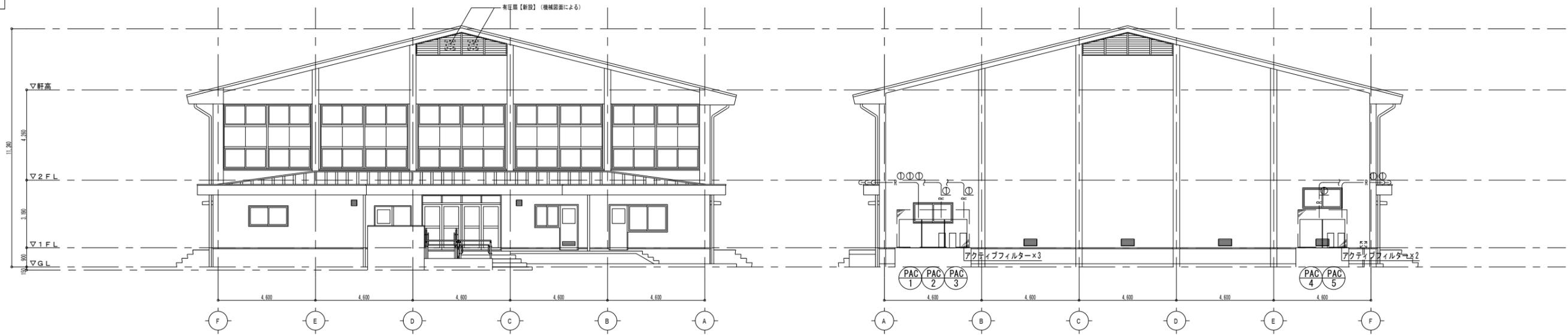
電源ケーブル: EM-CE2-3C
リコンケーブル: EM-CEES1.25-2C

- 特記事項
- 冷媒管は屋内: ガルバリウム鋼板、屋外: ステンレス製カバーとする。
 - 室内機取り付け用架台は建築工事とする。
 - 有圧扇EF-1は既存ガラリにチャンバーブロック取り付け設置する。



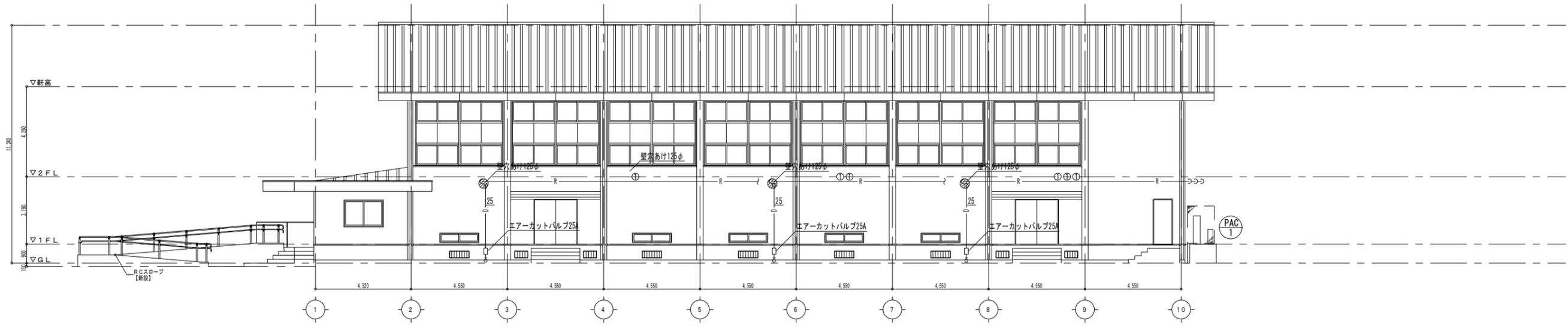
		春日部市 学校教育課	日付	2025.1.17	工事名称	豊野小学校外4校避難所空調設備設置工事(緑小学校)	原簿No. 牛M-07
			縮尺	A1: 1/100 A3: 1/200	図面名称	空調設備 展開図	

改修後

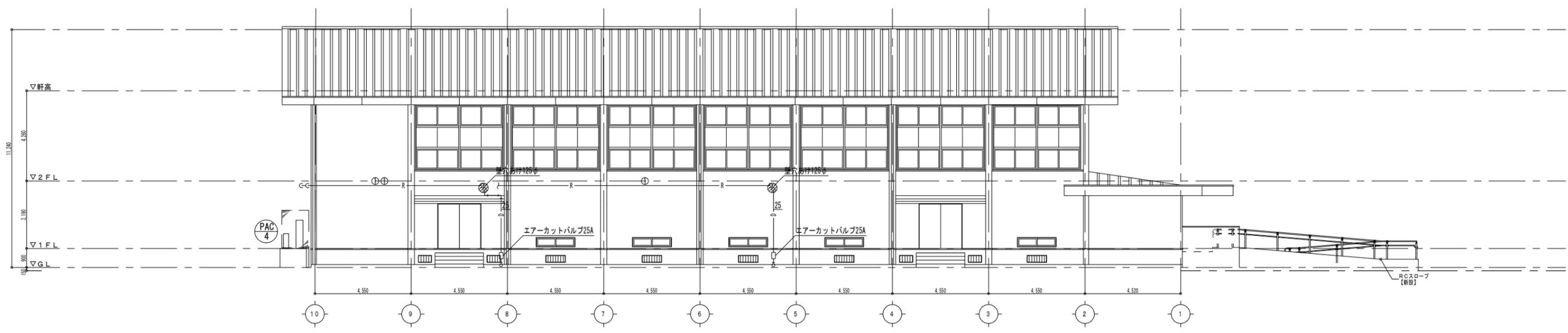


改修後 北側立面図 S=1/100

改修後 南側立面図 S=1/100

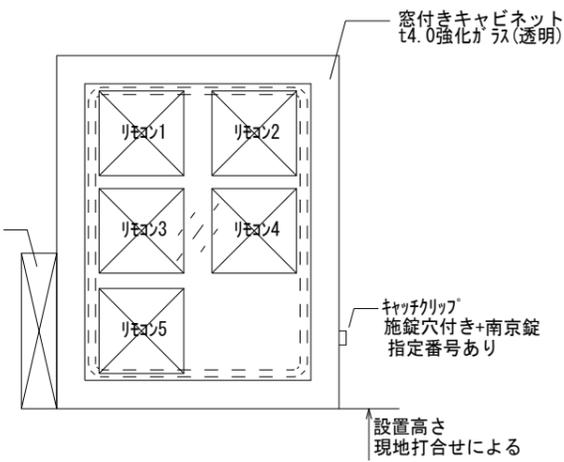
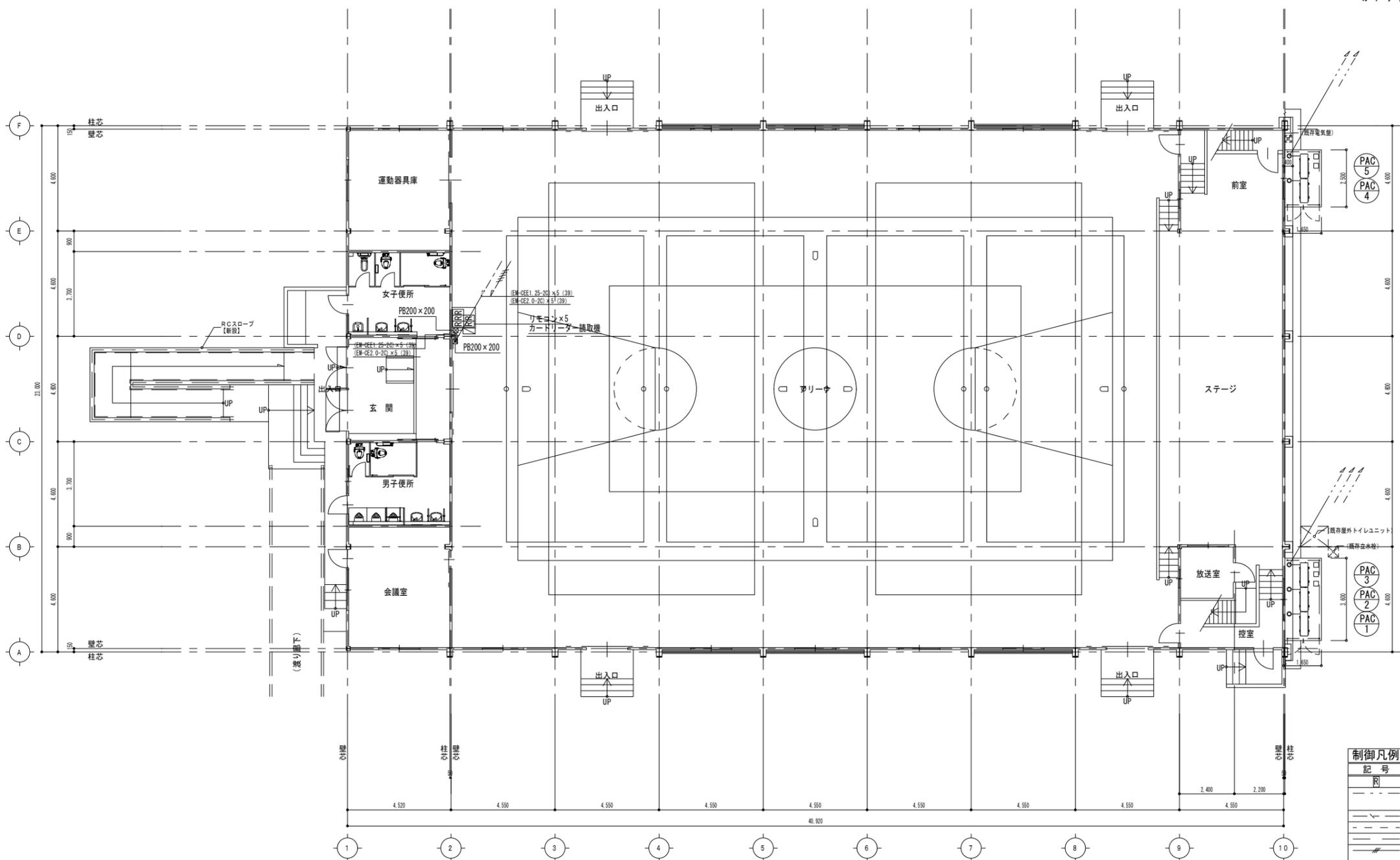


改修後 西側立面図 S=1/100



改修後 東側立面図 S=1/100

改修後

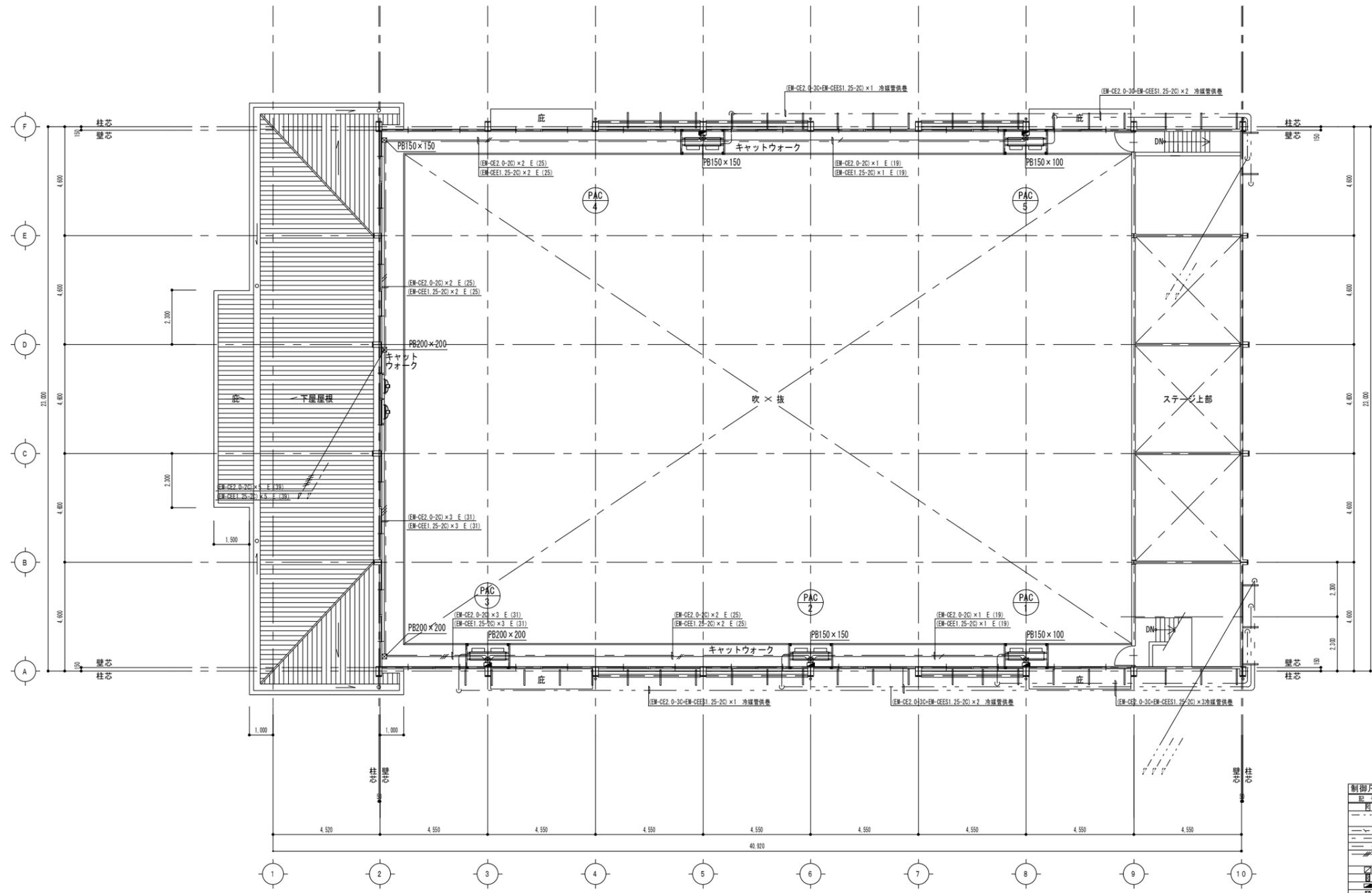


リモコン設置詳細図 S=1:10

改修後 1階平面図 S=1/100

記号	名称	仕様	施工
R	個別リモコン	各系統ごとに空調機操作盤に設置	
---	二次側電源ケーブル	室外機~室内機 EM-CE2.0-3C	冷媒管共巻
---	内外接続ケーブル	室外機~室内機 EM-CEES1.25-2C	
---	リモコンケーブル	室内機~リモコン EM-CEE1.25-2C	管内
---	個別リモコンケーブル	室内機~リモコン EM-CEE1.25-2C	天井内コロガシ
---	個別リモコンケーブル	室内機~リモコン EM-CEE1.25-2C	金属線び(B型)
---	カードリーダーケーブル	室内機~リレー盤 EM-CE2.0-2C	管内
---	カードリーダーケーブル	カードリーダー~リレー盤 EM-CE2.0-2C	天井内コロガシ
□	カードリーダー	壁掛け形	
□	空調機操作盤	壁掛け形	
□	リレー盤	壁掛け形	
□	プルボックス	屋内:銅板製(塗装) 屋外:SUS(WP)	

- ※特記事項
1. 室外機との渡りリモコンケーブル・二次側電源ケーブルは冷媒管共巻とする。
 2. 室内機とカードリーダー渡りケーブルは機械工事とする。
 3. 室内機とリレー盤の渡りケーブルはシステム工事とする。
 4. カードリーダーへの電源供給は電気工事とする。
 5. カードリーダー及び空調機操作盤の取り付け位置は、施工時に協議の上決定する。



改修後 キャットウォーク平面図・下屋伏図 S=1/100 *空調室内機×5台【新設】

記号	名称	仕様	施工
○	留付リモコン	各系統ごとに空調機操作用に設置	
—	二次側電源ケーブル	室外機~室内機 EM-CE2 0-3C	冷暖管共巻
—	内外接続ケーブル	室外機~室内機 EM-CEE1 2S-2C	
—	リモコンケーブル	室内機~リモコン EM-CEE1 2S-2C	室内
—	留付リモコンケーブル	室内機~リモコン EM-CEE1 2S-2C	天井内コロガシ
—	留付リモコンケーブル	室内機~リモコン EM-CEE1 2S-2C	金属樋(巾80)
—	カードリーダーケーブル	室内機~リレー盤 EM-CE2 0-2C	システム工事
—	カードリーダーケーブル	カードリーダー~リレー盤 EM-CE2 0-2C	室内
□	カードリーダー	壁掛け形	
□	空調機操作盤	壁掛け形	
□	リレー盤	壁掛け形	
—	ポールボックス	屋内・屋根裏 (塗装) 壁外・SUS (WP)	

- ※特記事項
 1. 室外機との遠リモコンケーブル・二次側電源ケーブルは冷暖管共巻とする。
 2. 室内機とカードリーダー・リレーは機械工事とする。
 3. 室内機とリレー間の遠リケーブルはシステム工事とする。
 4. カードリーダーへの電源供給は電気工事とする。
 5. カードリーダー及び空調機操作盤の取り付け位置は、施工時に協議の上決定する。